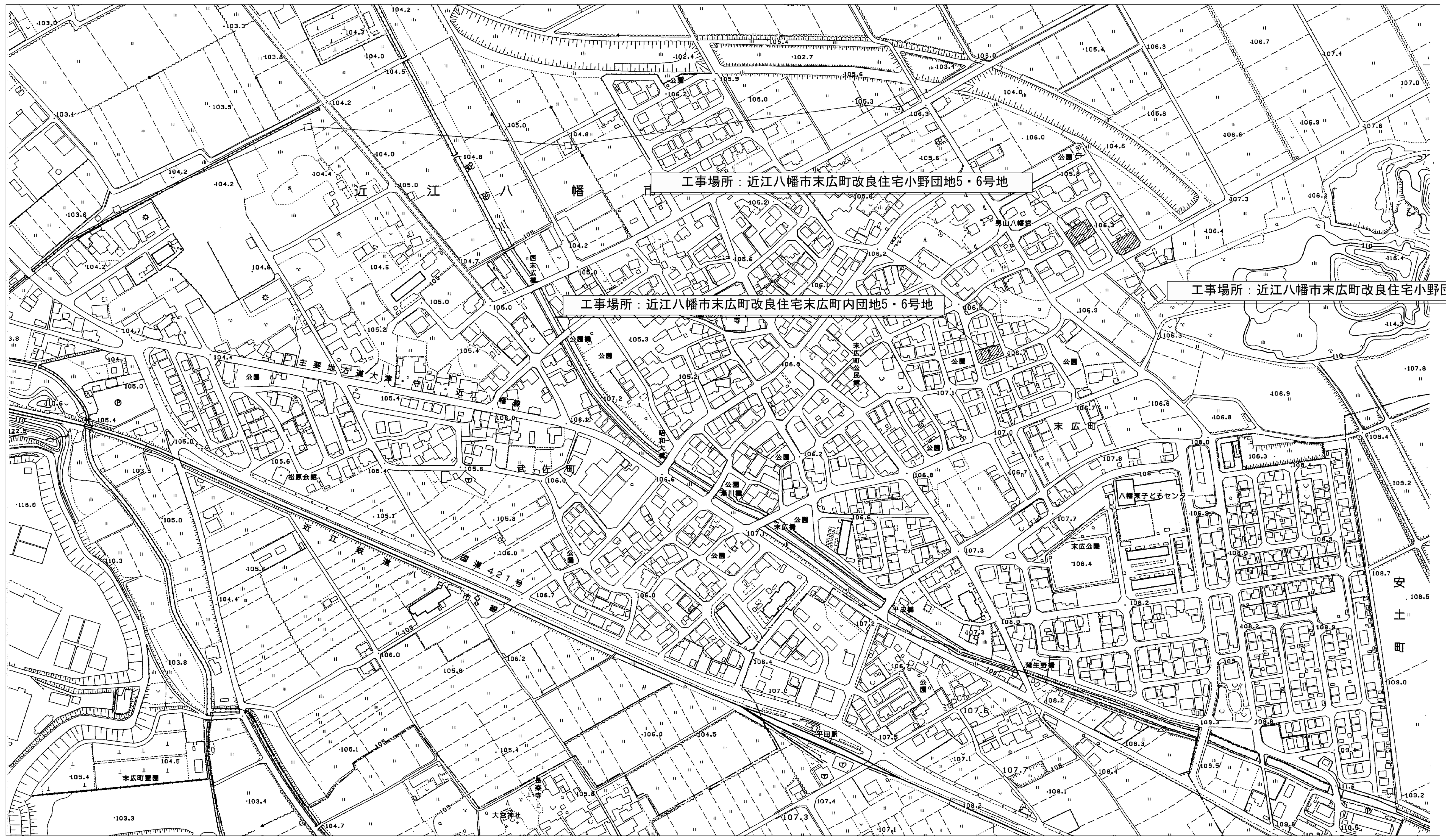
改良住宅（2戸1）分離工事（その4）

小野団地　5号地・6号地
小野団地　17号地・18号地
末広町内団地　5号地・6号地
八幡団地　19号地・20号地

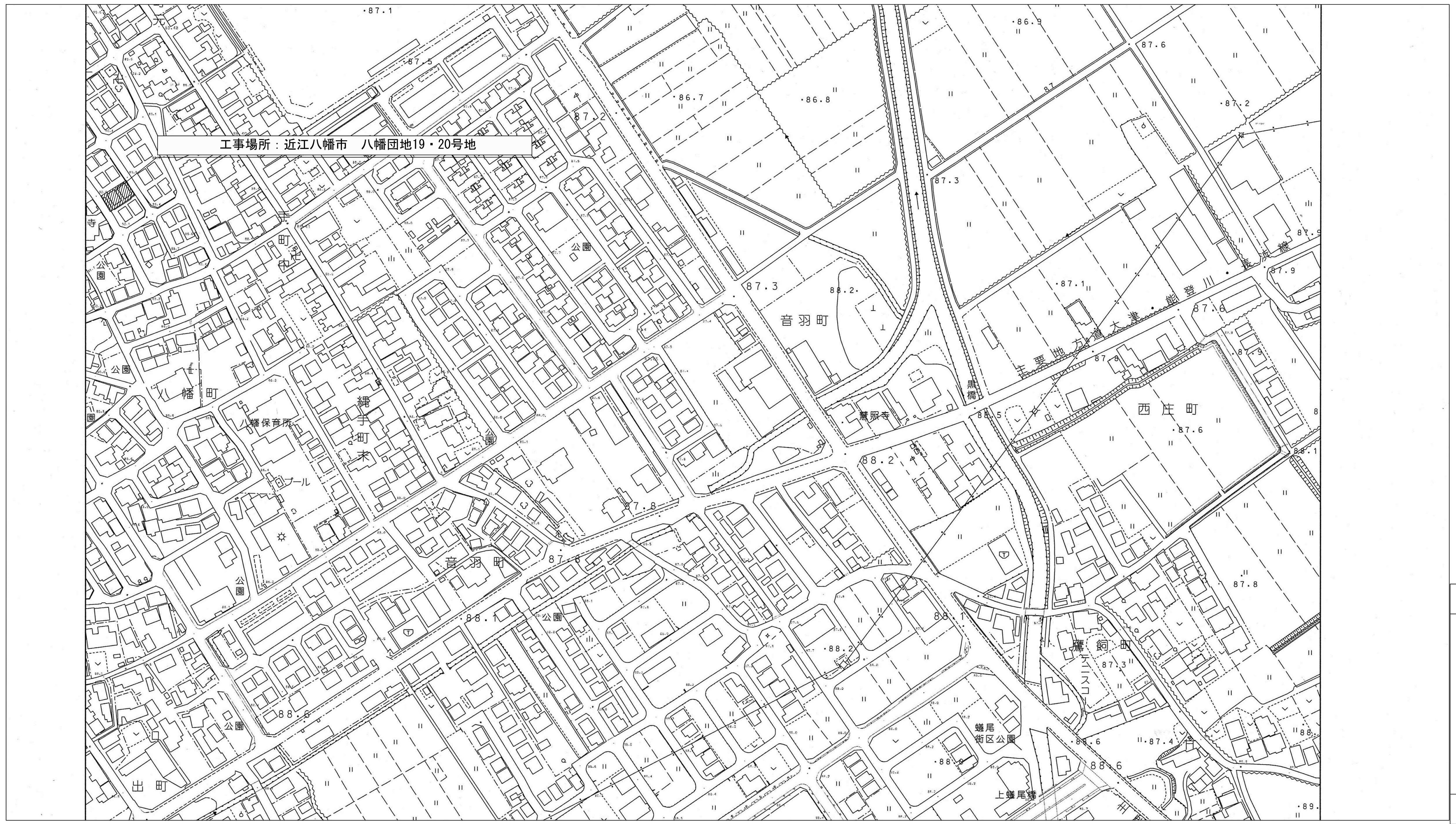
目　次

４－１	附近見取図、工事概要
４－２	建築工事特記仕様書（1）
４－３	建築工事特記仕様書（2）

改良住宅　（小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地）		改良住宅　（末広町内団地　5号地・6号地）		改良住宅　（八幡団地19号地・20号地）	
Ａ－１	（参考図）配置図	Ｂ－　１	（参考図）配置図	Ｃ－　１	（参考図）配置図
Ａ－２	（参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図	Ｂ－　２	（参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図	Ｃ－　２	（参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図
Ａ－３	（参考図）現況・改修立面図	Ｂ－　３	（参考図）現況・改修立面図	Ｃ－　３	（参考図）現況・改修立面図
Ａ－４	（参考図）平面詳細図	Ｂ－　４	（参考図）平面詳細図	Ｃ－　４	（参考図）基礎伏図　基礎詳細図
Ａ－５	（参考図）基礎伏図　基礎詳細図	Ｂ－　５	（参考図）基礎伏図　基礎詳細図	Ｃ－　５	（参考図）照明器具姿図、電気設備図
Ａ－６	（参考図）照明器具姿図、電気設備図	Ｂ－　６	（参考図）照明器具姿図、電気設備図	Ｃ－　６	（参考図）新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図
Ａ－７	（参考図）新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図	Ｂ－　７	（参考図）新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図		



附近見取図



附近見取図

工　事　概　要（全棟共通事項）

①	物置解体工事	・2戸1住宅の物置の解体処分を行う
		・物入れ上部の既設屋根取合部分　カラー鉄板撤去 パラペット　モルタルにて補修の上、鼻先複層仕上げ ・物入土間及び基礎コンクリートの解体処分を行う。 ・建物解体跡の取合い部分をモルタルにて補修する。 ・解体後　外部になる部位（外壁・軒天）に塗装仕上げローラー塗りを行う。（余巾を含める） ・解体跡地を整地する。真砂土t50敷き ・解体範囲の電気設備の撤去処分、末端処分（電灯、スイッチ）を行う。
	特記事項	・改修図面は、標準プランを示すものである。 現地を十分に確認の上施工のこと。また原則として請負金額の増減は行なわない。
②	フェンス設置工事	・既設スチールフェンスを撤去する。 上記フェンス撤去後の境界線上に、メッシュフェンスを新設する。※設置位置は現場指示
③	新設物置設置工事	・プレハブ物置を新設する。※設置位置は現場指示 ただし、建物の解体工事着手までに、先行して完成させること。

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年9月　日	工事名称　改良住宅（2戸1）分離工事（その4）
				縮尺	図面名　附近見取図
図面番号　4-1					

建築工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要

工事名称	改良住宅（2戸1）分離工事（その4）
工事場所	滋賀県近江八幡市西生来町・末広町・八幡町地先　　敷地面積　約1,600㎡
用途規制	第１種低層　第２種低層　第１種中高層　第２種中高層　第１種住居　第２種住居　準住居　近隣商業　商業　準工業　工業　工業専用　［指定なし］
防火規制	防火地域　準防火地域　［法22条指定区域］　［指定なし］
その他の規制	風致地区　自然公園　宅造規制区域　［市街化区域］　［市街化調整区域］　未線引き
工事期間・限	入札仕様書による
工事種目	

NO	名称	工種	構造	床面積（㎡） 1階	2階	3階	延面積	備考
A-1	物入撤去工事	解体	PC	4.17	——	——	4.17	
A-2	物置(小)設置工事	新築	S造	2.82	——	——	2.82	小野団地6号地・18号地 末広町内団地5号地・八幡団地20号地
A-3	フェンス新設工事	新築		一式	——	——	——	
E	電気設備工事	改修		一式	——	——	——	

概要説明
工事概要に記載
- 小野団地　5・6号地
- 小野団地　17・18号地
- 末広町内団地　5・6号地
- 八幡団地　19・20号地

※参考図を基に設計数量等を確認を行いながら積算を行う事。

Ⅱ 建築工事仕様

1 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　平成２５年度版」・「公共建築改修工事標準仕様書　平成２５年度版」・「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)　平成２５年度版」・「建築物解体工事共通仕様書・同解説　平成２４年度版」(以下「標仕」という)による。
(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針　平成２５年版」・「建築改修工事監理指針　平成２５年度版」・「電気設備工事監理指針　平成２５年度版」を参考とする。)

2 特記仕様
1 項目は番号に ○ 印のついたものを適用する。
2 特記事項は ⊙ 印のついたものを適用する。
⊙ 印のない場合は ※ 印のあるものを適用する。
⊙ 印と ※ 印のある場合はともに適用する。
3 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。

章	項目	特記事項

① 一般共通事項

① 施工基準
本工事は、近江八幡市建設工事執行規則に基づき、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書を含む図面　２４　葉、標仕により完全に施工する。
上記相互間に相違のある場合の優先順位は、記載の順序とする。(1.1.1)

② 完成図
完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、ＣＡＤ原図（ＣＡＤデータとも）および焼付製本（Ａ3縮小）　２　部を提出するものとする。(発注者１部・監理者１部)　(1.7.1～1.7.3)

③ 工事写真
工事管理写真はカラーとし、その内容が明確に判別できるものとする。デジタル写真とする場合、使用するデジタルカメラの総画素数は200万画素以上、記録画素数は640×480画素以上とする。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	備考
着工前	サービス版	・　⊙ 9　・30	1	状況によりつなぎ写真
工事中	サービス版	各工程毎	1	必要に応じ撮影する
完成時	サービス版	・　⊙ 9　・12	3	完了届提出用
定期提出	サービス版	※ 3　・6　・9	1	工事月報用
竣工写真	※ サービス版 ⊙ キャビネ版	・　・5　⊙ 7	2	主として外観
	※ サービス版 ・ キャビネ版	・　・10　・20	2	主として内観

竣工写真については、銀版写真の場合はネガ、デジタル写真の場合はファイル形式をＪＰＥＧとし、ＦＤ、ＭＯ、またはＣＤ-ＲＯＭにて提出すること。
工事写真の撮影要領は、「工事写真の撮り方・建築編」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)による。
完成写真の撮影場所は監督職員の指示による。工事写真キャビネ版はアルバム台紙に、サービス版は工事写真帳に貼り付けて提出すること。

④ 技術検査
工事施工途中において、適宜中間技術検査を行う。(1.6.2)

⑤ 現場代理人
原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。
現場代理人は、請負人との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。

⑥ 技術管理
請負人は、建設業法に定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し技術管理にあたらせること。
① 技術者の専任を要しない期間
・ 請負契約の締結の日の翌日から平成　年　月　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任は要しない。
・ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
② 滋賀県建設工事請負契約約款（以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日（契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。
また、日程の都合上、契約工期満了後に検査が行われる場合は、契約工期満了後の監理技術者等の工事現場への専任を要しない。

7 技能士
各工種の作業については、極力技能士の資格を有する者に作業をあたらせること。(1.5.2)
また、請負人は、○印のついた工事種別および技能検定の職種について、職業能力開発促進法による一級技能士または単一等級の資格を有する者を、１職種１名以上該当工事作業中工事現場（資材製作加工の場合は製作所）に常勤させるとともに、作業に先立ち事前にその氏名等を監督職員に届け出なければならない。
- 仮設工事(とび)　・ 鉄筋工事(鉄筋)　・ コンクリート工事(・型枠　・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送)
- 鉄骨工事(構造物鉄工)　・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ/ALCﾊﾟﾈﾙ工事(・CB積　・ALCﾊﾟﾈﾙ施工)
- 防水工事(・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水　・合成ｺﾞﾑｼｰﾄ防水　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水　・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水　・ｾﾒﾝﾄ系防水　・ｼｰﾘﾝｸﾞ)
- 石工事(・石張り　・石積み　・石材加工)　・ タイル工事(タイル張り)　・ 木工事(建築大工)
- 屋根及びとい工事(・屋根金属薄板葺きおよびとい設置　・かわらぶき　・石綿スレート葺き)
- 金属工事(鋼製下地)　・ 左官工事(・金こて仕上,ﾓﾙﾀﾙ塗り,吹付　・断熱硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付)
- 建具工事(・ｻｯｼ施工　・ｶﾞﾗｽ加工取付　・木製建具加工取付　・自動ドア取付)　・ 塗装工事(塗装)
- カーテンウォール工事(金属製カーテンウォール施工)
- 内装工事(・表具　・壁装　・畳製作施工　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床施工　・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床施工　・ｶｰﾃﾝ施工　・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上)
- 排水工事(配管)　・ 植栽工事(植栽)　・ 外壁改修工事(樹脂接着剤注入施工)

⑧ 建築材料等
建築材料等は、極力県内産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は監督職員の承諾を受けること。
工事で使用する各種塗料類、接着剤類、その他の材料のホルムアルデヒド放散量はＦ☆☆☆☆とする。
あわせて、その他室内空気汚染（揮発性有機化合物）対策として、その原因となる物質の含有量が低濃度である材料を極力選定する。（標仕を参考とすること。）
さらに、環境配慮の視点から、グリーン購入法に基づくエコマーク商品や建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料の利用にも努めること。(1.4.1)
工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとすること。(1.4.1)

⑨ 材料の検査に伴う試験
試験は、原則として公的試験場で行うものとし、その場所の決定にあたっては監督職員の承諾を受けること。

⑩ 特殊な材料の工法
標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑪ 各種検査合格書等
各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書又は保証書およびその写し各１部を提出すること。なお、責任施工のものは、請負契約者・施工下請業者・材料製造所の連名書とする。

⑫ 設備工事との取合
各設備工事によるコンクリート部分の梁、壁、床の貫通補強及び仕上げ部分、軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口補強は建築工事とする。

⑬ 下請け業者の選定
各種下請業者、製造所等県下で供給出来るものについては、極力市内業者を選定すること。

⑭ 公害対策
工事着手前に付近の状況を調査し、騒音、振動、塵埃の発生、土壌汚染、排水汚染等公害発生のなきよう、工事竣工まで万全の対策を講ずること。(1.3.11)

⑮ 産業廃棄物の処理
請負人は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり下記事項を含め、事前に監督職員に施工計画書を提出して承諾を受けること。(1.3.8)
(1) 本工事に使用する特定建設資材及び排出する特定建設資材廃棄物については、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）を厳守し、分別解体及び再資源化等実施すること。
(2) 「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）及び建設副産物適正処理推進要綱を厳守し、建設副産物の発生抑制および再利用の促進に努めること。また再生資源利用〔促進〕計画書および同実施書を作成し速やかに報告のこと。
(3) 請負人は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を厳守し、同法第１２条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。

16 発生材の処理
引渡しを要するもの：

⑰ 保険等
請負人は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。

⑱ 安全対策
※ 工事車両の出入りについては、速度制限を厳守し、危険防止に努めること。また、必要に応じて交通整理員を配置するとともに、近隣家屋に騒音、振動等の公害が発生しないよう留意し、工事全般に万全の対策を講ずること。また、施設運営についても担当者と協議を行い、支障のないよう努めること。
・ 別添仮設計画図・配置図等により示された仮設計画を参考に、請負人にて構造、施工方法について十分検討のうえ、関係法令に従い安全堅固に設置すること。

⑲ 総括安全衛生管理義務者
労働安全衛生法第３０条第２項の総括安全衛生管理義務者には、（※建築工事　・電気設備工事　・機械設備工事）の請負人を指名する。

⑳ シンナー等の保管
シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止するとともに、保管数量についても、作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。

㉑ 火気の管理
喫煙等については一定の場所を指定し、火元責任者を配すること。

㉒ 過積載防止の措置
請負人は過積載等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。

㉓ 騒音振動の防止
請負人は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成13年国土交通省告示第487号）」に基づき指定された建設機械（'97ラベル）を使用すること。

24 工事カルテの作成及び登録
請負人は、工事請負代金５００万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）入力システムに基づき「工事カルテ」を作成し、監督職員の確認を受けた後、（財）日本建設情報総合センター(JACIC)に提出するとともに、センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出すること。
なお、工事請負代金が５００万円以上２，５００万円未満の工事については、受注時の登録のみでよい。
提出の期限は以下のとおりである。
（１）受注時登録データの提出期限は、契約締結後１０日(土、日、祝日、年末年始を除く)以内とする。
（２）完了時登録データの提出期限は、工事完了後１０日(土、日、祝日、年末年始を除く)以内とする。
（３）施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から１０日以内に変更データを提出しなければならない。

25 低入札価格調査制度に基づく措置
(１)配置技術者の増員
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、監理（主任）技術者とは別に、入札公告に定める監理（主任）技術者の要件と同一の要件を満たす技術者を専任で１名現場に配置しなければならない。
なお、当該技術者は、監理（主任）技術者を補助し、監理（主任）技術者と同様の職務を行うものとする。
また、当該技術者を求めることになった場合には、その指名その他必要な事項を監理（主任）技術者と同様の方法により届け出ること。
(２)施工体制台帳および施工計画書にかかる内容の説明
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、請負人は施工体制台帳および施工計画書の提出に際して、監督職員からその内容の説明を求められたときは、応じなければならない。
(３)材料、下請負代金等の支払い状況等の説明
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した
また、監督職員から材料費、労務費、下請負代金、その他経費（以下「経費等」という。）の支払いの状況について説明を求められた場合は、これまでに要した経費等の支払いを確認できる資料ならびに今後必要とする経費等とこれにかかる資金の調達方法の資料を提示するとともに、それらの内容について説明を求められた場合は、応じなければならない。
(４)工事コスト調査への協力
請負人は、建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合においては、工事コスト調査に協力しなければならない。
(概要は県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.pref.shiga.jp/h/d-kanri/kensetsu_low/index.htmlを参照のこと)
・元請者は、下請者の協力を得て、間接工事費等諸経費動向調査票(建築工事においては共通費実態調査票)の作成を行い、完了届提出後１週間以内に発注者に提出するものとする。なお、調査票等については、別途、監督職員から指示するものとする。
・請負人は、間接工事費等諸経費動向調査票等について、費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、元請者は、下請者についてもﾋｱﾘﾝｸﾞに参加させるものとする。

㉖ 施工体制点検
「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に従い、施工体制を講じること。

27 設計ＧＬ
・ 図示　　・ 監督職員が現場にて決定する。

28 揮発性有機化合物の室内濃度測定
平成18年国土交通省告示第1130号に基づく「評価方法基準　第5 6-3 (3)」に定められた方法によること。
測定箇所：各居室 (1.5.9)
測定方法：パッシブ型採取機器により行う。
測定化学物質　・ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　・ﾄﾙｴﾝ　・ｷｼﾚﾝ　・ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　・ｽﾁﾚﾝ　・ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ

㉙ 不法無線局の排除
請負人は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載していると疑わしい車両を発見したときは、速やかに監督職員にその旨報告すること。

㉚ 取扱説明書の作成
竣工引渡し時に取扱説明書等必要書類を必要部数作成し、ファイリングして提出すること。(1.7.3)
（部数、詳細については、監督職員の指示による。）

㉛ 近隣住民等への説明
請負人は、施工に先立ち地元自治会、近隣住民等に工事施工内容の説明を行うこと。

32 近隣家屋の調査
請負人は、工事の着手前および完了後に、図示部分の近隣家屋・工作物等の調査を実施し、工事に起因する損傷等の有無を確認すること。万一、損傷等が生じた場合は請負人の責任において現状に復旧すること。
調査範囲は右記図示 ▨ 範囲とする。

33 ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ
バリアフリー化にあたっては、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」を遵守すること。

34 別途工事との連絡協議
請負人は、別途施工する電気・機械設備工事の業者間で互いに連絡を取り、定期的に協議を行い、工事施工上の調整を図ること。また、工事区分の取り合いについて図示がある場合においても、施工時に必要に応じて協議を行い連絡を密にすること。

35 ｽﾄｯｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ
別紙による対象項目について調査を行い、監督職員に指定された電子データにて提出すること。

36 住宅性能評価
請負人は、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」を遵守し、住宅性能評価書に示された品質を確保すること。

㊲ 暴力団員等による不当介入の排除
滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について）
1 請負者（請負人または受注者）は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入(不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。
2 請負者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書(別記様式第１号)により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。
また、請負者は、以上のことについて、下請負人に対して十分に指導を行うものとする。
3 請負者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

38 製本図書
落札業者は工事に先立ち、下記に示す製本図書を作成し提出すること。
・Ａ3縮小製本　　部数　Ａ3：2部（表紙にタイトルを入れる）

② 仮設工事

1 監督員事務所
監督員事務所の規模　（・10㎡・20㎡・35㎡・65㎡・100㎡）程度 (2.3.1)
備品　机、いす、書棚、黒板、ゴム長靴、雨がっぱ、保護帽、安全帯、衣類ロッカー
請負人加入電話の子機、冷暖房機器、消火器等監督職員の指示による。(2.3.1)

② 仮囲い
図示による他鉄板塀、金網塀、板塀等の仮設計画を立案し、監督職員と協議すること。

③ 工事用水
構内既存の施設　・ 利用できる（※ 有償　・ 無償）⊙ 利用できない

④ 工事用電力
構内既存の施設　・ 利用できる（※ 有償　・ 無償）⊙ 利用できない

⑤ シート養生
必要に応じて室内外の壁、天井、床等シートで養生する。
溶接作業を行う場所については、防災シートを使用し、防火対策を講ずる。

6 手すり先行足場
手すり先行工法等に関するガイドラインに基づき設置すること。

③ 土工事

① 埋戻しおよび盛土
種別　・Ａ種　※ Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　不足分は良質土搬入する。(3.2.3)

② 建設発生土の処理
・ 構内指示場所敷きならし　・ 構外指示場所敷きならし　※ 構外搬出適切処理 (3.2.5)

③ 騒音振動の防止
低騒音型、低振動型建設機械指定要領に基づき指定されて建設機械を使用する。（他工種も之に準ずる）(3.3.1)

④ 地業工事

1 試験掘削
杭の本数　※ 最初の１本　・ 現場指示　２カ所 (4.2.2)
支持力の算定方法　※ 平成13年７月２日国土交通省告示1113号による。

2 載荷試験
・杭載荷試験　カ所 (4.2.3)
・地盤載荷試験　カ所 (4.2.4)

3 既製コンクリート杭

杭の種類	規格・材質
※ プレストレストコンクリート杭	※ＪＩＳ A5373（・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種） ・ 建築基準法の認定品
・	

長期設計支持力　kＮ／本 (4.3.2)
施工法　※ ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法　・ 打込み工法　・特定埋込杭工法　・ (4.3.3～5)
杭先端の形状　・ 開放型　・ 半開放型　※ 閉そく型（・ペンシル型　※ 平坦型）
杭頭の処理　※ ダイアモンドカッター　・ 油圧カッター　・ 手ばつり (4.3.7)

4 鋼杭
鋼杭の種類　・ 鋼管杭（記号：ＳＴＫ400、ＳＴＫ490）　・ Ｈ形鋼杭（記号：　）(4.4.2)
杭先端の形状　・ 開放型　・
工法

5 場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭
※ 構造特記による (4.5.3),(表4.5.1)
コンクリート種別　・Ａ種　・Ｂ種
コンクリートの設計基準強度　Ｎ／mm2
掘削工法　・ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法　・ﾘﾊﾞｰｽ工法　・ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法　・ (4.5.4)

6 杭頭補強
補強の方法　・Ａ形　※ Ｂ形 (別図1.1)

⑦ 砕石
※ ＲＣ－４０　・ (4.6.2)

8 床下防湿層
ポリエチレン系シート敷　厚さ　0.15mm以上　重ね・のみ込み寸法　250mm以上 (4.6.2),(4.6.5)

9 土間下断熱材
特記仕様書（２）内装工事の「断熱材」による

10 基礎支持地盤の確認
根切完了後、監督職員の承諾を得て施工する。また支持地盤で設計支持力が得られないと見込まれる場合は、監督職員と打合せのうえ、適切な処置を取ること。(3.2.1)

11 地盤改良
構造図による

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類
※ 異形鉄筋(ＪＩＳ G３１１２) (5.2.1)
※ ＳＤ２９５Ａ　⊙ D10　⊙ D13　・D16　・D19
・ ＳＤ３４５　・D19　・D22　・D25　・D29
・　・D10　・D13　・D16
・ 建築基準法第３７条の規定に基づき認定を受けた鉄筋

2 溶接金網
編目形状寸法(※ 150*150　・100*100)　径(※ ６　・８) (5.2.2)

③ 加工および組立
・ 別図による　・ 構造配筋標準図による　※ 標仕による (5.3.1～4)

④ 鉄筋の継手
⊙ 重ね継手　・ 機械式継手　・ 溶接継手 (5.3.4)
⊙ ガス圧接継手　ＳＤ３４５(径 19 mm 以上) D19～D25、ＳＤ３９０　D29～D32

5 圧接完了後の検査
※ 超音波探傷試験による検査　・ 引張試験による検査 (5.4.9)

6 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ補強
※ 入れる　・ 入れない (別図 5.11)

⑦ あと施工アンカー
⊙ 金属拡張型異形鉄筋アンカー（サイズは図示）

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの強度
普通コンクリート (6.1.4)

設計基準強度Ｆｏ（Ｎ／mm）^{2}	構造体強度補正値(Ｓ)	施工箇所
・１８　・２１　・２４	標仕による	
・２７	標仕による	
※ １８	標仕による	外構

発注強度＝Ｆｃ＋Ｓ
Ｆｃ　設計基準強度（Ｆｏ）に対応した換算強度（２８日圧縮強度，Ｎ／mm２）
Ｓ　構造体強度補正値(Ｓ)
コンクリート圧縮強度試験(現水)：脱型、１週、４週(公的機関)

② 温度補正
標仕による

③ ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄの類別
※ Ⅰ類　・ Ⅱ類 (表6.4.1)
(6.1.5)

④ セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
・ 早強ポルトランドセメント (6.3.2)

5 混和材
混和剤の種類　※ＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤　膨張性混和材 (6.3.5)

6 軽量コンクリート
種別　※ １種　・２種 (6.11.1)
設計基準強度（Ｎ／mm^2）・ (6.1.4)
気乾単位容積質量（ton／m^3）　※ １.８　・　施工箇所： (6.11.3)

7 ｺﾝｸﾘｰﾄ打放仕上
打放し仕上げの種類　・Ａ種　※ Ｂ種　・Ｃ種 (表6.2.3)

⑧ せき板の材料
標仕による (6.9.3)

9 ｺﾝｸﾘｰﾄ中の塩分測定
基礎及び各階躯体打設ごと (6.5.4),(表6.10.1)

10 伸縮目地・誘発目地〈耐震補強工事〉
モルタル伸縮目地・クラック誘発目地は、位置・ピッチを監督職員と協議のうえ、施工のこと。(6.9.2)

11 グラウト用型枠
施工図を作成し、監督職員の承認を受ける。

12 ｺﾝｸﾘｰﾄ工事・補強用ﾓﾙﾀﾙ工事・ｸﾞﾗｳﾄ工事の仕様について
（財）日本建築防災協会発行「既存鉄筋コンクリート造建築物耐震改修設計指針・同解説」の
コンクリート工事については　４．５
補強用モルタル工事については　４．６
グラウト工事については　４．７　仕様による

13 コンクリート打設
建物内でのコンクリート運搬方法、締め固めに要する時間等、コンクリート施工計画を事前に監督職員と協議する。

14 グラウト工事（無収縮モルタル）
・ 強度については、コンクリート強度と同等以上とする。
・ 圧縮強度試験はJASST-702によるものとし、材令28日養生、条件は現場に近い条件とする。(責任施工)
・ 無収縮モルタルとして配合は流動性と適性な膨張性のあるものを使用する。

7 鉄骨工事

1 鉄骨の製作所
※ 構造物製作認定工場の認定グレード (7.1.3)
（・Ｓ・Ｈ・Ｍ・Ｒ・Ｊ）以上で監督職員の承諾する工場
・ 監督職員の承諾する工場

2 施工管理技術者
※ 適用する　・ 適用しない (7.1.3),(7.1.4)

3 鋼材の種類
材質　・ＳＳ４００　・ＳＴＫ４００　・ＳＴＫ４００　・ＢＣＲ２９５ (7.2.1)
・ＳＭ４９０　・ＳＮ４００Ｂ　・ＳＮ４９０Ｃ　・ＳＳＣ４００
規格　※ ＪＩＳ規格　・ ７.２.１０（ａ）の試験に合格するもの

4 高力ボルトの種類
種類　※ トルシア形高力ボルト（建築基準法認定品）(7.2.2)
・ ＪＩＳ形高力ボルト　・ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト（建築基準法認定品）

5 ターンバックル
胴の種類　※ 割枠式　・ パイプ式 (7.2.6)
ボルトの種類　※ 羽子板ボルト　・ 両ねじボルト　・ アイボルト

6 工作図
※ ＣＡＤ加工図　・ 床書き現寸図 (7.3.2)

7 溶接部の試験
・ 超音波探傷試験（検査は第３者検査会社によるものとし監督職員の承諾を受ける）(7.6.11)
ＡＯＱＬ　※ ４．０％　・ ２．５％
検査水準　※ 第６水準　・ 第（　）水準　・ 図示による
・ 放射線試験　（１フレーム当たり８ヶ所行う）

8 錆止め塗装
塗料の種類　※ 室内：JIS K 5621　１種　・ 室外：JIS K 5625　１種 (7.8.3)
塗装回数　工場２回 (7.10.3)
ただし、無鉛塗料を使用する場合は監督員と協議すること。

9 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ等の設置
種別　・Ａ種　※ Ｂ種　・Ｃ種 (表7.10.1)

10 柱底均しモルタル
工法　※ Ａ種　・Ｂ種　・ ベースパック施工仕様による (表7.10.2)

11 耐火被覆
(7.9.2)

種別	材料及び工法		材料及び工法
・ 耐火材吹付け	ロックウール	・乾式 ・湿式	建築基準法の指定又は認定を受けたもの
・ 耐火板張り	・ 無石綿ケイ酸ｶﾙｼｳﾑ板		建築基準法の指定又は認定を受けたもの
・ 耐火材巻き付け	・		建築基準法の指定又は認定を受けたもの
・ ラス張りモルタル塗り	標仕１５章２節による		所定の耐火性能を有するもの

12 検査結果の報告
工場加工は、認定工場における自主検査または滋賀県鉄構工業組合の一般検査を受け報告書を提出すること。

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル 押出成形セメント板工事

1 空洞コンクリートブロックの種類
種別　・Ａ種(08)　・Ｂ種(12)　※ Ｃ種(16)　・Ｃ種防水(16W) (8.2.2)
厚さ(mm)　・１００　・１２０　・１５０

2 各部の配筋
耐力壁　※ 構造図による（交差部、端部（開口部）は標仕による）(8.2.5)
帳壁・塀　※ 構造図による (8.3.3)

3 ＡＬＣパネル
(8.4.2)

種類	単位荷重(Ｎ／㎡)	厚さ(mm)
外壁用	・	・１００　・１２０
間仕切用	・	
屋根用	・	
床用	・	・１００　・１５０

・ 外壁パネル工法　種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 (8.4.3)
出隅・入隅目地幅(mm) ※ ２０
・ 間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ工法　種別　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 (8.4.4)

4 押出成形ｾﾒﾝﾄ板
種別　※ノンアスベスト品（ＪＩＳ Ａ ５４４１規格品）(8.5.2)
※ 塗装品　・ 無塗装品
・ 外壁パネル工法　・Ａ種　・Ｂ種　厚さ(mm)： (8.5.3)
・ 間仕切壁パネル工法　・Ｂ種　・Ｃ種 (8.5.4)
パネル製造所：

⑤ 防火サイディング
サイディング

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水
(9.2.2),(9.2.3),(表9.2.3～8),(改修標仕表3.3.3～10)

防水層の種類	種別	施工箇所
・ 屋根保護防水密着工法	・Ａ－１　・Ａ－２	
・ 屋根保護防水密着断熱工法	・ＡＩ－１　・ＡＩ－２	
・ 屋根保護防水絶縁工法	・Ｂ－１　・Ｂ－２	
・ 屋根保護防水絶縁断熱工法	・ＢＩ－１　・ＢＩ－２	
・ 屋根露出防水密着工法	・Ｃ－１　・Ｃ－２	
・ 屋根露出防水絶縁工法	・Ｄ－１　・Ｄ－２	
・ 屋根露出防水断熱工法	・ＤＩ－１　・ＤＩ－２	
・ 屋内防水密着工法	・Ｅ－１　・Ｅ－２	

屋根露出防水の仕上塗装塗り　※ 行う（・シルバー　・カラー）・ 行わない

2 材料
アスファルト　・１種　・２種　※ ３種　・４種 (9.2.2)
アスファルトルーフィング　・９４０　・１５００ (9.2.2)
断熱工法の断熱材　特定フロンを含まないもの　厚さ（mm）　※ ２５ (9.2.2)
端部押え金物　アルミ製　※ Ｌ－３０×１５×２．０　・ Ｌ－４０×１０×２．０ (9.2.2)
立上り部の保護　・ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板t=15　・ 乾式保護材　・ ｺﾝｸﾘｰﾄ押え (9.2.5)

3 改質アスファルトシート防水
(表9.3.1),(改修標仕表3.4.1～3)

防水層の種類	厚さ	施工箇所
・AS-1　・AS-2		
・AS-3　・AS-4　・AS-5 ・AS-6　・ASI-1　・ASI-2		

4 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水
※ 露出防水 (9.4.2),(9.4.3),(表9.4.1),(改修標仕表3.5.1)

工法	種別	シートの種類	シートの厚(mm)	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類
接着工法	・S-F1　・SI-F1	加硫ゴム系	※ 1.2　・1.5		・ｼﾙﾊﾞｰ　・ｶﾗｰ	※ 非歩行
	・S-F2　・SI-F2	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系	※ 2.0　・1.5			
機械的固定方法	・S-M1　・SI-M1	加硫ゴム系	※ 1.5　・		・ｼﾙﾊﾞｰ　・ｶﾗｰ	・ 軽歩行
	・S-M2　・SI-M2	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系	※ 1.5　・			
	・S-M3　・SI-M3	熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ系	※ 1.2　・			

5 塗膜防水
※ 露出防水 (9.5.2),(表9.5.1)

種別	施工箇所
・Ｘ－１　・Ｘ－２	
・Ｙ－１　・Ｙ－２	

6 施工票
工事完了後に監督職員の指示する場所に取り付ける。

7 責任施工及び保証期間
防水工事は責任施工とし、保証期間は次のとおりとする。
- アスファルト防水　年間
- 改良アスファルトシート防水　年間
- 合成高分子系ルーフィングシート防水　年間
- 塗膜防水　年間
- ＦＲＰ防水　年間

⑧ シーリング
材料　※ 標仕による (9.6.2)

種別（記号）	施工箇所

接着性試験　※ 行う（※ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験）・ 行わない (9.6.5)
図中　印箇所に施工　ただし　印なき箇所も必要と思われる所は施工すること。

9 脱気装置
材質：　設置数量：

10 止水材

10 石工事

1 石材
(表10.2.1),(表10.2.2)

施工箇所	石材の種類・品質	産地・名称	仕上の種類

2 テラゾブロック
品質　床用　・１等　※ ２等　その他　※ １等　・２等 (10.2.1)
種石の種類・大きさ　※ 大理石の類（１２mm以下）　・ 花こう岩の類（６mm以下）(10.2.1)
磨き仕上げの種類　※ 本磨き　・ 水磨き　・ 粗磨き

3 テラゾタイル
種類　・ 花こう岩類　・ 大理石 (10.2.1)
形状・寸法　・３００×３００　・４００×４００
磨き仕上げの種類　※ 本磨き　・ 水磨き　・ 粗磨き

4 甲板・平板
参考：マーブルライトカウンター　ＴＯＴＯ㈱又は同等品以上

11 タイル工事

1 材料

施工箇所	形状・寸法	生地	釉薬	役物	品質及び品番等
ポーチ・玄関					

(11.2.1),(11.2.2)

2 工法
外装タイル　※ 密着張り　・ (表11.3.2)
内装タイル　※ 積み上げ張り　・

3 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
※ 入れる　・ 入れない (表11.1.1)
位置　※ 標仕による　・ 立面図による

4 接着力試験
※ 行なう　・ 行なわない (11.1.4)

5 タイル製造所

No	改良住宅（2戸1）分離工事（その４）
４－２	建築工事特記仕様書（１）
平成26年　9月　日	株式会社　中田　設計
検印　担当　担当	一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

12 木工事

1 木材の使用について　間伐材を含め極力県内産を使用すること。
2 木材の断面寸法　表示寸法で板材、造作材は仕上がり寸法、構造材はひき立て寸法とする。
3 表面仕上げ　・ A種　※ B種　・ C種　(12.1.4),(表12.1.1)
4 木材　木材の含水率　※ A種　・ B種　(表12.2.1)
造作材の等級　※ A種　・ B種　(表12.2.2)
樹　種　※ 標仕表12.2.3による。　(12.2.1)
・代用樹種を適用しない箇所　構造材（　　）
造作材（　　）

5 集成材(塗装品)

・ 構造用集成材(図示)　(12.2.2)

樹　種	強度等級	材面の品質	接着性能	厚さ(mm)	施　工　箇　所
		※ 2種　・			
		※ 2種　・			

・ 構造用単板積層材(図示)

樹　種	接着性能	曲げ性能	厚さ(mm)	施　工　箇　所

・ 造作用集成材(図示)

樹　種	見付け材面の品質	厚さ (mm)	施　工　箇　所
	※ 1等　・		
	※ 1等　・		

・ 化粧ばり造作用集成材(図示)

心材の樹種	化粧薄板の樹種	化粧薄板厚	見付け材面の品質	厚さ(mm)	施　工　箇　所
			※ 1等　・		
			※ 1等　・		

・ 造作用単板積層集成材(図示)

表面の品質	防虫処理	厚さ (mm)	施　工　箇　所
※ 天然木化粧加工　・			
※ 天然木化粧加工　・			

6 床合板・野地板　・ 構造用合板　厚さ(mm) ・ 12　・ 28　接着の程度　※ 1類　表面の品質　※ 2等　(12.2.3)
樹種および施工箇所：
・ ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ　厚さ(mm)　※ 20　・　接着の程度　※ 13Pﾀｲﾌﾟまたは13Mﾀｲﾌﾟ
樹種および施工箇所：
7 防腐処理　木材保存剤は、人体への安全性および環境への影響に配慮した表面処理用木材保存剤とする。　(12.2.8)
種類および品質 ・ クレオソート塗
・ ＣＣＡ加工または同等以上
8 防蟻処理　※ 行う　適用範囲：コンクリート接地面より1,000　(12.2.9)

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺　屋根葺形式　・ 横葺　・ 瓦棒葺　・ 平葺　・ 段葺　・ 一文字葺　(13.2.3)
材　種　・ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板および鋼帯　(表13.2.1)
・ 溶融アルミニウムめっき鋼板および鋼帯
・ 塗装溶融亜鉛―５%アルミニウム合金メッキ鋼板および鋼帯
・ 塗装溶融５５%アルミニウム―亜鉛合金メッキ鋼板および鋼帯
・ ポリ塩化ビニル被覆金属板
・ 冷間圧延ステンレス鋼板および鋼帯
・ 塗装ステンレス鋼板
・ フッ素ガルバリウム鋼鈑
厚　さ　一般部　※ ０．４mm　・　谷部　※ ０．５mm　・　(13.2.2)
下　葺　※ アスファルトルーフィング９４０　・ ゴムアスルーフィング
2 折板葺　形　式　・ 重ね形　・ はぜ締め形　・　(13.3.2)
材　種　・ 塗装溶融亜鉛ﾒｯｷ鋼板　・ 溶融ｱﾙﾐﾆｳﾑめっき鋼板　・ ﾌｯ素ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板
種　類　山 高　９０ (mm)　山ピッチ　３００ (mm)　耐 力　(N／㎡)
板 厚　・ ０．６mm　・ ０．８mm
軒先面戸板　※ あり　・ なし
けらば包み　※ あり（厚さ　(mm)　幅　(mm)）　・ なし
３０分耐火　※ あり　・ なし
断熱材　※ あり（種別：ｽｰﾊﾟｰフェルトン　厚さ：5mm　防火性能：　）・ なし
3 粘土瓦葺　種 類：　寸 法：　産 地：※ 県内産 ・　(13.4.2)
4 陶器瓦葺(いぶし調)　・ 屋根伏図による(下葺：ゴムアスルーフィング)
5 セメント瓦
6 雪止め金物
7 責任施工および保証期間　・ 屋根　１０年間
・　年間
・　年間
8 とい　材　種　※ 硬質塩化ビニル管　・ 配管用鋼管（屋内防露処理）　(13.5.2),(表13.5.1)
・ アルミ管（既製品）
掃 除 口　・ 設ける　・ 設けない
防 露 材　※ 標仕表１３．５．４による　・　施工場所：
鋼管製といの防露　※ 標仕表１３．５．５による。
9 ドレン　・ フロアドレン　鋳鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種　・ ３種）
・ ルーフドレン　鋳鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種　・ ３種）
・ ルーフドレン　ステンレス製
・ 横引ドレン　鋳鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種　・ ３種）

14 金属工事

1 ステンレスの種類　種類　※ ＳＵＳ ３０４　・
表面仕上げ　※ ＨＬ仕上げ　・ Ｎｏ．２Ｂ　・ 鏡面仕上げ　(14.2.1)
2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2),(表14.2.1)

種　別	表 面 処 理	施 工 箇 所
※ Ｂ－１種	無着色	
・ Ｂ－２種	電解着色（　　色）	
・ Ｄ　種		

3 鉄鋼の亜鉛メッキ　(14.2.3),(表14.2.2)

表 面 処 理	種　別	施 工 箇 所
溶融亜鉛メッキ	・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種	
電気亜鉛メッキ	・ Ｄ種　・ Ｅ種　・ Ｆ種	

4 軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　屋内　※ １９型　・ ２５型　屋外　・１９型　※ ２５型（耐風仕様）(表14.4.1)
外部野縁受、吊りボルト、インサートの、端部からの設置位置　※ １５０以内　・　(14.4.3)
外部野縁の間隔　※ 標仕表１４．４．２による。　・
5 軽量鉄骨壁下地　スタッド、ランナーの種類　・ ５０型　・ ６５型　・ ９０型　・ １００型　(表14.5.1)
6 金属成型板張り　(14.6.2)

形　状	材　種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表 面 処 理
・ スパンドレル形	・ アルミニウム			※ Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種(色：　　) ・
・ パネル形				

7 アルミニウム製笠木　笠木本体　・ ２５０型　・ ３００型　・ ３５０型　・　・図示による　(14.7.2)
表面処理　※ Ａ－１種または Ｂ－１種　・ Ｂ－２種　・ 外壁色合わせアクリル樹脂塗装
8 エキスパンションジョイント　材質　※ ステンレス製既製品　・ アルミ製既製品
性能　・ 耐火仕様　・ 一般仕様
9 天井廻縁　材質　・ アルミニウム製　※ 塩化ビニル製　・ 木製
10 天井見切り縁　材質　・ アルミニウム製　・ 塩化ビニル製
11 点検口　天井　材質：※ アルミ既製品　・　規格：※ ４５０角　・ ６００角
床　材質：※ アルミ既製品　・　規格：※ ６００角　・
12 アルミパネル　焼付塗装　井上商事㈱又は同等品以上
13 アルミ製丸柱　t=2.5 φ230　井上商事㈱又は同等品以上
14 アルミ庇　参考品番：AD1-T(化粧樋付)　１箇所　W=1400、D=1500　杉田エース㈱又は同等品以上
15 ＳＵＳ床下換気孔　参考品番：SUS床下換気孔120　W=300,H=120　６箇所　杉田エース㈱又は同等品以上

⑮ 左官工事

1 モルタル塗り床目地　目 地 工 法　※ 標仕１５．２．５（ｂ）（３）による　・　(15.2.5)
2 セルフレベリング材塗り　種　類　・ せっこう系　・ セメント系　(表15.4.1)
施 工 箇 所
③ 仕上塗材仕上げ　(表15.5.1)

種　類	呼 び 名	仕上げの形状	施工箇所・備考
薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Ｓｉ	・ 砂壁状　・ ゆず肌状　・ さざ波状	
	・ 可とう形外装薄塗材Si	・ 砂壁状　・ ゆず肌状　・ さざ波状	
	⊙ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状　・ゆず肌状	ｱｸﾘﾙﾛｰﾗｰﾘｼﾝ
	・ 可とう形外装薄塗材Ｅ	・	
	・ 防水形外装薄塗材Ｅ	・ ゆず肌状　・ さざ波状　・ 凹凸状	
	・ 外装薄塗材Ｓ	・ 砂壁状	
	・ 内装薄塗材Ｃ	・	
	・ 内装薄塗材Ｌ		
	・ 内装薄塗材Ｓｉ	・	
	・ 内装薄塗材Ｅ		
	・ 内装薄塗材Ｗ	・	
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材Ｃ	・	
	・ 外装厚塗材Ｓｉ	・	
	・ 外装厚塗材Ｅ		
	・ 内装厚塗材Ｃ	・	
	・ 内装厚塗材Ｌ	・	
	・ 内装厚塗材Ｇ	・	
	・ 内装厚塗材Ｓｉ	・	
	・ 内装厚塗材Ｅ	・	
複層仕上塗材	・ 複層塗材ＣＥ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 可とう形複層塗材ＣＥ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 複層塗材Ｓｉ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 複層塗材Ｅ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 複層塗材ＲＥ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 複層塗材ＲＳ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 防水形複層塗材ＣＥ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	⊙ 防水形複層塗材Ｅ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	ローラー仕上げ
	・ 防水形複層塗材ＲＳ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
	・ 防水形複層塗材ＲＥ	・ 凸部処理　・ 凹凸模様　・ ゆず肌状	
軽量骨材仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	・ 砂壁状	
	・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	

4 珪藻土塗装　参考品番：けいそうモダンコート内装
5 ロックウール吹付　厚　さ(mm)　・ １０　・ １５　・ ２０　(15.7.3)

16 建具工事

1 アルミニウム建具　・ 外部に面する建具　(16.2.2),(表16.2.1)

種　別	耐風圧性	気 密 性	水 密 性	枠の見込み寸法
※ Ａ 種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	※ ７０　・ １００
・ Ｂ 種	Ｓ－５			
・ Ｃ 種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	※ １００

2 鋼製建具　(16.3.2)
3 鋼製軽量建具　(16.4.2)
4 ステンレス製建具　(16.5.2)
5 木製建具　加工、組立時の含水率　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　(16.6.2),(表16.6.1)
6 自動ドア開閉装置　(16.8.2)
7 自閉式上吊り引戸装置　(16.9.3)
8 重量シャッター　シャッターの種類：・ 一般重量シャッター　・ 外壁用防火シャッター　(16.10.2)
・ 屋内用防火シャッター　・ 防煙シャッター
(16.11.2)
9 軽量シャッター
10 オーバーヘッドドア　(16.12.2)
11 ガラス留め材　材　質　※ シーリング　・ ガスケット　(16.13.2)
12 建具金物　吊金物　(16.7.2),(表16.7.1)
※ 丁番　材質：※ ＳＵＳ　・黄銅　（内部建具の軸は鋼製としてもよい）
・ ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ　材質：※ ＳＵＳ（ヒンジ部および軸は鋼製）　・ 亜鉛合金（木製建具用）
13 鍵　マスターキーの製作　※ 製作する　・ 製作しない　(16.7.4)
改修工事におけるキーのマスター合わせ　※ 行う　・ 行わない
個数：３　種類：※ 既製品　・ 製作品
なお、室名等の記入は、事前に監督職員と協議のうえ決定すること。

17 カーテンウォール工事

1 メタルカーテンウォール　(17.2.2)
2 ＰＣカーテンウォール　(17.3.2)

⑱ 塗装工事

① 素地ごしらえ　木部　※ Ａ種（透明塗料の場合はＢ種）　・ Ｂ種　(18.2.2),(表18.2.1)
鉄面（鉄骨工事は除く）　・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種　(18.2.3),(表18.2.2)
亜鉛メッキ面　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　(18.2.4),(表18.2.3)
モルタル・プラスター面　・ Ａ種　※ Ｂ種　(18.2.5),(表18.2.4)
コンクリート・ＡＬＣパネル面　・ Ａ種　※ Ｂ種　(18.2.6),(表18.2.5)
コンクリート・押出成形セメント板面　・ Ａ種　※ Ｂ種　(18.2.6),(表18.2.6)
せっこうボード面　・ Ａ種　※ Ｂ種　(18.2.7),(表18.2.7)
（継目処理工法の場合はＡ種）
② 錆止め塗料塗り　塗料種別　鉄面屋外　※ Ａ種　・ Ｂ種　(18.3.2),(表18.3.1)
鉄面屋内　・ Ａ種　※ Ｂ種
亜鉛メッキ面　※ Ａ種　・ Ｂ種　(表18.3.2)
グリーン購入法に基づく無鉛型錆止め塗装を採用しようとする場合は、事前に監督職員の承認を得ること。
③ 一般塗料　塗料塗り　鉄　面　※ 見掛りＡ種、見隠れＢ種　(18.3.3),(表18.3.3)
亜鉛メッキ面　※ 鋼製建具Ａ種、その他Ｂ種
4 特殊塗料　ＪＩＳ規格品

19 内装工事

1 ビニル床シート張り　シートの種類　※ 織布積層床シート（ＮＣ）　・ クッションフロアーシート　(19.2.2)
厚 さ (mm)　・ ２．０　・ ２．５　継　目　※ 熱溶接　・ 突きつけ　(19.2.3)
使用範囲　仕上表参照
参　考　フロアリュームソイルド・フロアリュームマーブル　東リ㈱又は同等品以上
ＮＳシート(ＮＳ８００)・東リＮＳステップ８００(蹴込一体型)　東リ㈱又は同等品以上
2 ビニル床タイル張り　材　質　※ 半硬質ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ　・ 軟質ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ　・ ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ
厚 さ (mm)　※ ２．０　・　(19.2.2)
3 特殊機能床材　材　質　・　厚さ(mm)　・　(19.2.2)
4 ビニル巾木　厚さ(mm)　※ ２．０　・　高さ(mm)　・ ６０　・ ７５　・ １００　(19.2.2)
5 カーペット敷き　・ 織じゅうたん　(19.3.3)
種　別　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種
パイル形状　・ カットパイル　・ ループパイル　・ カット、ループパイル併用
・ タフテッドカーペット
パイル形状　・ ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ　・ ﾏﾙﾁﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟ　・ ﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ　・ｶｯﾄ､ﾙｰﾌﾟ併用
工　法　※ 全面接着工法　・ グリッパー工法
・ ニードルパンチカーペット
厚さ(mm)：　・　帯電性：※ 人体帯電圧３ｋＶ以下　・
・ タイルカーペット
種　別　※ 第一種　・ 第二種
パイル形状　※ ループパイル　・ カットパイル
参　考　ＧＸ２００(カットパイル)　東リ㈱又は同等品以上
6 合成樹脂塗床　・弾性ウレタン塗床　仕上げの種類　・ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ　(19.4.3),(表19.4.3)
・ つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床　仕上げの種類　・ 薄膜流し展べ仕上げ　(19.4.3),(表19.4.4～7)
・ 厚膜流し展べ仕上げ
・ 樹脂モルタル仕上げ　・ 防滑仕上げ
参　考　ケミクリートＥ－ＭＲ　㈱ＡＢＣ商会又は同等品以上
7 防塵塗床　塗料の種類　・ アクリル系　・ ウレタン系　・ エポキシ系
仕上の種類　・ 平滑仕上　・ 防滑仕上
8 フローリング張り　(19.5.2)

	種　類	樹　種	厚さ(mm)	工　法	仕　上　げ
単層	・ フローリングボード				
	・ フローリングブロック			・　・乾式	
	・ モザイクパーケット			※乾式釘どめ　・接着	
複合	・ 複合１種フローリング			※乾式釘どめ　・接着	塗装品
	・ 複合２種フローリング			・	
	・ 複合３種フローリング			・	

参　考　レッドパイン無垢フローリング(ウレタン塗装) t=15　天龍木材㈱又は同等品以上
参　考　ＷＨＦ吉野桧５寸巾　㈱ウッドワン又は同等品以上
9 畳敷き　畳の種類　・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種　・ Ｄ種　（いずれも防カビ仕様）　(19.6.2),(表19.6.1)
10 せっこうボード張り　ＪＩＳ規格品　厚 さ (mm)　・ ９．５　・ １２．５　（水廻りは耐水仕様とする。）　(19.7.2)
11 化粧せっこうボード張り　ＪＩＳ規格品　・ トラバーチン模様 ９．５　・ 木目模様 ９．５　・ 杉杢模様 ９．５　(19.7.2)
12 無石綿セメント板　厚 さ (mm)　・ ４　・ ５　・ ６　・　(19.7.2)
13 無石綿ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板　厚 さ (mm)　・ ５　・ ６　・ ８　・ １０　・ １２　(19.7.2)
14 化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板　厚 さ (mm)　・ ４　・ ５　・ ６　・ ８　・ １０　・ １２　（無石綿タイプ）　(19.7.2)
参考品番：ステンド#400　㈱エーアンドエーマテリアル又は同等品以上
15 ロックウール吸音板　厚 さ (mm)　・ ９　・ １２　・ １５　柄　・ 一般　・ リブ　・ キューブ　(19.7.2)
16 壁紙張り　材　質　※ 無機質　・　(19.8.2)
17 断熱材打込み工法　材 質　・ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　・ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ　(19.9.2)
（ただし、特定フロンを含まないものとする）
厚 さ (mm)　・ ２０　・ ２５　・ ３０
18 断熱材現場発泡工法　材 質　※ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ(特定ﾌﾛﾝを含まないものとする)　吹付け厚さ(mm)　(19.9.3)
19 グラスウール　床　※ ２４kg品　・ ３２kg品　厚さ(mm) ・
壁　※ ２４kg品　・ ３２kg品　厚さ(mm) ・ ５０
天井　※ ２４kg品　・ ３２kg品　厚さ(mm) ・ １００

⑳ ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロアー　構成材　・ 塩ビ製　・ 鋼板製　・ 木質製　・　(20.2.2)
構法　※ パネル構法　・ 溝構法
寸法　※ ５００(mm)×５００(mm)　・　仕上り高さ：　(mm)
積載荷重：　(ｔ／㎡)　適用地震時水平力　・ １．０Ｇ　・０．６Ｇ
ｽﾛｰﾌﾟ、ﾎﾞｰﾀﾞｰ、およびｺﾝｾﾝﾄの取付対応　※ 製造所の標準仕様　・ 図示
表面仕上げ材の品質・規格等は、１９章内装工事による
2 可動間仕切(ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ)　構造形式　・ ｽﾀｯﾄﾞ式　・ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式　・ ﾊﾟﾈﾙ式　ﾊﾟﾈﾙ部総厚さ：・ ５５(mm)　(20.2.3)
・ 上部開放(オープン)　・ 上部閉鎖(クローズ)
表面材種　※ 鋼板（厚さ：※ ０．６　・ ０，８）　・
仕上げ材　※ メラミン樹脂合板またはアクリル樹脂焼き付け　・
品質は、ＪＩＳ　Ａ　６５１２によるものとする。
3 移動間仕切　遮音性能　・ 一般タイプ　(20.2.4)
・ 遮音タイプ(JIS A 6512の遮音試験に準拠し、透過損失として36dB以上のもの)
表面材　※ 鋼板　・　表面仕上げ：・ 焼付塗装　・ 壁紙張り
参考品番(A-31参照)：ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ 厚み67mm (HS-60GB-P)　小松ウォール工業㈱又は同等品以上
4 階段滑り止め　工 法　工　法　※ 接着工法　・ 埋込工法　(20.2.6)
外部材質　ステンレスＳＵＳ３０４製　幅 (mm)　・ ３０　※ ３５　・ ４０
内部材質　ステンレス製(ビニルタイヤまたはゴム練込み)　幅(mm)　・ ３０　※ ３５　・ ４０
形 状　両端フラットエンド　※ あり（ ※ ビニル製　・ ステンレス製）　・なし
施工範囲　既存棟(倉庫階段)
5 黒板　種 類　※ 焼付け黒板　・ 研ぎ出し黒板　色 彩：※ 緑　・ 黒　(20.2.8)
枠　※ アルミニウム製　・ 木製
6 ホワイトボード　種 類　※ ほうろう　・　色 彩：※ 白　・　(20.2.8)
枠　※ アルミニウム製（行事用は打合せにより文字ライン入り）
7 掲示板　種　類　※ スポンジシート(アルミ枠)　・　色 彩：
8 衝突防止表示　※ 図示による（市販品　※ステンレス製　径 ※ 約30mm　・　mm／・ 両面　・ 片面）　(20.2.10)
9 室名表示等　形式　・ 面付型　・ 持出型　・ 点字型　(20.2.10)
材質　・ アクリル製　・ ステンレス製　・ アルミ製　・ 木製
10 ブラインド　(20.2.12)

形　式	開 閉 方 式	スラットの材質	スラットの成型幅
※ 横型	※ ギヤ式　・ コード式 ・ 操作棒式　・電動式	※ アルミ合金製 ・	※ ２５ ・
・ 縦型	・ １本操作ｺｰﾄﾞ　・ ２本操作ｺｰﾄﾞ	・ アルミ　・ クロス	・ ８０　・ １００

昇降テープの材質：※ ポリエステル繊維
11 ロールスクリーン　※ 図示による　・　(20.2.13)
12 カーテン　形　式　・ 片引き　・ 引分け　引分け装置　※ ひも引き　・ 電動　(20.2.14)
ひだの種類　・ フランスひだ　・ 箱ひだ　・ つまひだ　・ プレーンひだ　・ 片ひだ
きれ地の品質等
13 カーテンレール　材種　・ アルミ合金製　・ ステンレス製　(20.2.14)
形状　・ シングル　・ ダブル（ただし、暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする。）
14 ブラインドボックスおよびｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ　※ 図示による
・ 市販品（アルミニウム製　押出し型材）　溝幅＊深さ(mm)：
15 くつふきマット　マット　・ 塩ビ製ラインマット　・ 硬質アルミ　・ ブラシタイプマット
・ ゴム製　・ ステンレス製
受枠　・ ステンレス製　・ 硬質アルミ合金製
16 消火器　種類　※ 粉末ＡＢＣ消火器　３本(・ ４型　・ ６型　※ １０型　・ ２０型)　・
なお、申請手続きも本工事にて行うこととする。　設置位置はA-15及びA-16参照
消火器ボックス　※ 設ける（ ※ 全埋込型　・ 据置型）<文字表示入り>　・ 設けない
17 造り付け家具収納・収納家具　家具製作所にて製作するものとし、製作に先立ち施工図作製のうえ、監督職員の承諾を得る。
㈱近新又は同等品以上　(12.2.2),(19.7.2)
⑱ フェンス　参考品番：Ａ1000-ＭＳ　朝日スチール工業㈱又は同等品以上
⑲ 備品　参考品番：LMD-1815H　㈱淀川製鋼所又は同等品以上
20 定礎板　黒御影石　W=400、H=300
21 アルミ掲示板　参考品番：ポステージＰＫＡ-１-１８１０-Ｋ(照明無)
22 建物銘板　SUS製箱文字　250角『東円堂公民館』　※字体・設置位置は協議による。
23 ユニットフロア　ユニットフロア詳細図参照　㈱ＵＦＧ又は同等品以上
24 郵便ﾎﾟｽﾄ(ﾀﾞｲﾔﾙ錠)　参考品番：ボンメール　MB605SP　１箇所　杉田エース㈱又は同等品以上
25 旗立金物　参考品番：旗立金物ｵｰﾙｱﾝｶｰ用　１箇所　杉田エース㈱又は同等品以上

21 排水工事

1 排水溝、U字溝　種類　・ Ｕ字溝　・ 現場打側溝　・ 勾配可変側溝
2 排水管　種類　・ 硬質塩化ビニル管(※ ＶＰ　・ ＶＵ)　(21.2.1)
・ 遠心力鉄筋コンクリート管(外圧管 ※ １種　・ ２種)
・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ＲＳ－ＶＵ、ＲＦ－ＶＰ）
車道部の排水管の敷設　※ 図示　・砂基礎（地業厚さ200mm以上　材料：山砂の類）
3 排水ます　ますの種類　・ 現場施工　(21.2.2)
・ 既製品（環境に配慮した材料として一般廃棄物の溶融固形化物等を極力使用すること　製品はJIS製品、JISに規定のない製品はJIS工場製作品または同等品とする）
4 排水桝蓋、U字溝蓋　ふたの種類
・ コンクリート蓋
・ マンホール蓋　(21.2.2)
適用荷重　・ Ｔ－２用　・ Ｔ－６用　・ Ｔ－14用　・ Ｔ－20用
・ グレーチング蓋　(21.2.2)
材　質　・ 鋼製　・ ステンレス製
適用荷重　・ 歩行用　・ Ｔ－２用　・ Ｔ－６用　・ Ｔ－14用　・ Ｔ－20用
・ 化粧蓋

22 舗装工事

1 路床　遮断層　※ 設ける（ ・ 川砂　・ 山砂）　・ 設けない　(22.2.2),(22.2.3)
ＣＢＲ試験　※ 行わない　・ 行う　(22.2.5)
締固め度試験　※ 行わない　・ 行う
2 路盤　種別　※ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　RC-40　・ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　C-40　(22.3.2),(22.3.3)
厚さ：１５０ (mm)
3 アスファルト舗装　・ ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　材質：※ 再生アスファルト　・ ストレートアスファルト　(22.4.2～4)
車道部の基層　※ なし　厚さ(mm)　表層 ※ 50　・
・ あり　厚さ(mm)　表層 ※ 30　・　基層 ※ 50　・
・ カラー舗装　材質：※ 着色加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(表層の種類 ※ 密粒　・ 細粒)　(22.4.2～4)
・
車道部の基層　※ なし　厚さ(mm)　表層 ※ 50　・
・ あり　厚さ(mm)　表層 ※ 30　・　基層 ※ 50　・
・ シールコート　※ 行わない　・ 行う　(22.4.5)
・ 混合物の抽出試験　※ 行わない　・ 行う　(22.4.6)
4 コンクリート舗装　(22.5.2),(22.5.3)
5 透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　(22.6.2),(22.6.3)
6 排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　種類　・ 改質アスファルトⅠ類　※ 改質アスファルトⅡ類　(22.7.2),(22.7.3)
7 ブロック系舗装　・ コンクリート平板舗装　(22.8.2),(22.8.3)
種類　※ 普通平板　・ カラー平板　・ 洗出平板　・ 擬石平板
寸法(mm) ※ ３００角 ・　厚さ(mm) ※　目地材 ※ 砂　・ モルタル
・ インターロッキングブロック舗装　(22.8.3)
種類　※ 標準ﾌﾞﾛｯｸ　・ 透水性ﾌﾞﾛｯｸ　・ 誘導、注意喚起用ﾌﾞﾛｯｸ　・
厚さ(mm)　車道部　※ ８０　・　歩道部　※ ６０　・
・ 舗石舗装
基層の種類　※ コンクリート舗装　・ アスファルト舗装　(22.8.2)
種類　※ 小舗石（花こう岩）　厚さ(mm)　(22.8.3)
8 路面表示用塗料　品質　ＪＩＳ Ｋ ５６６５による　※3種1号　・　色　・
寸法　幅(mm) ※ １５０　・　厚さ(mm) ※１．０　施工　※ 溶融式　・
9 縁石等　形状寸法　・ 図示
耐力上支障のない箇所については、極力下水汚泥溶融スラグ混入製品を使用すること
10 砂利敷　形状寸法　・ 図示　(22.10.2)

23 植栽工事

1 植栽基盤整備工法　種　別　※ Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(23.2.2),(表23.2.2)
2 植込み用土　※ 客 土　・ 現場発生の良土　(23.2.3)
3 支柱　材 質　※ 加圧式防腐処理丸太　・竹　(23.3.2)
形 状　・ 鳥居型　・ ハッ掛型　・ 布掛け型　・ 三脚型　・ 四脚型　・ ﾜｲﾔ掛け型　・ 地下埋設型
4 枯損樹木等の処置　※ 引渡しの日から１年　・ 引渡しの日から　年　(23.3.4),(23.3.6),(23.4.7)
5 芝張り　種　別　※ こうらい芝　・ 野芝　・　(23.4.2)
6 樹種銘板　樹種ごとに、２割以上設置すること。　材質・寸法　※ 図示による　・
7 植栽　外構図による

24 ユニバーサルデザイン工事

1 視覚障害者用床ﾀｲﾙ　・ 屋内用　材質　・ 塩化ビニル　・ レジンコンクリート　・ タイル
寸法　※ ３００(mm)×３００(mm)　・　厚さ(mm)：
・ 屋外用　材質　・ レジンコンクリート　・ タイル
寸法　※ ３００(mm)×３００(mm)　・　厚さ(mm)：
2 点字鋲　材　質　・ アルミ製　・ ステンレス製　・ 真鍮製　・ ナイロン製
参考型番　または同等品とする。
3 ピクトサイン　設置場所　※ 図示による　・
材　質　・ アクリル製　・ ステンレス製　・ ビニールシート製
4 鏡（機械設備工事）　枠　※ あり　・ なし　厚さ　※ ５mm　・
参考型番　または同等品とする。
5 補助手摺　材　質　・ ステンレス製　・ 塩ビ抗菌製（芯材：ステンレス）　・ 木製（ﾌﾞﾗｹｯﾄｽﾃﾝﾚｽ）
参考型番　または同等品とする。
6 手摺　材質　・ アルミ製　表面処理　※ A-1種またはB-1種　・ B-2種
・ ステンレス製　表面仕上げ　・ ＨＬ仕上げ　・ Ｎｏ．２Ｂ　・ 鏡面仕上げ
・ ＢＬ認定品Ｉ型
・ 塩ビ抗菌製（芯材：アルミニウム押出型材）
・ 木質製（　　）
参考型番　備品リスト参照
7 手摺点字シート　材　質　・ＵＶ樹脂インク点字加工　透明塩ビシートまたはダイノックシート　シルク印刷
・
参考型番　または同等品とする。
8 総合案内板　※ 図示による　・
9 建具取手　レバーハンドルを原則とする

㉕ 解体工事

① 解体工事　解体工法は、低振動・低騒音型の機械器具等の選定を心がけ、養生シートや散水等により騒音・振動の減少、粉塵の防止に努めること。
解体方法及び手順は、「解体標準仕様書」による。

② 提出書類　建設副産物情報交換システムへの登録（請負代金額が100万以上の場合）
※適用する
施工計画時、工事完成時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに建設副産物情報交換センター㈱日本建設情報総合センター建設副産物センター）にデーター入力を行う。
入力した工事にあたっては、当該システムにより再生資源計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し施工計画書に含め、かつ当該システム工事登録証明書を監督職員に提出しなければならない。
⊙適用しない

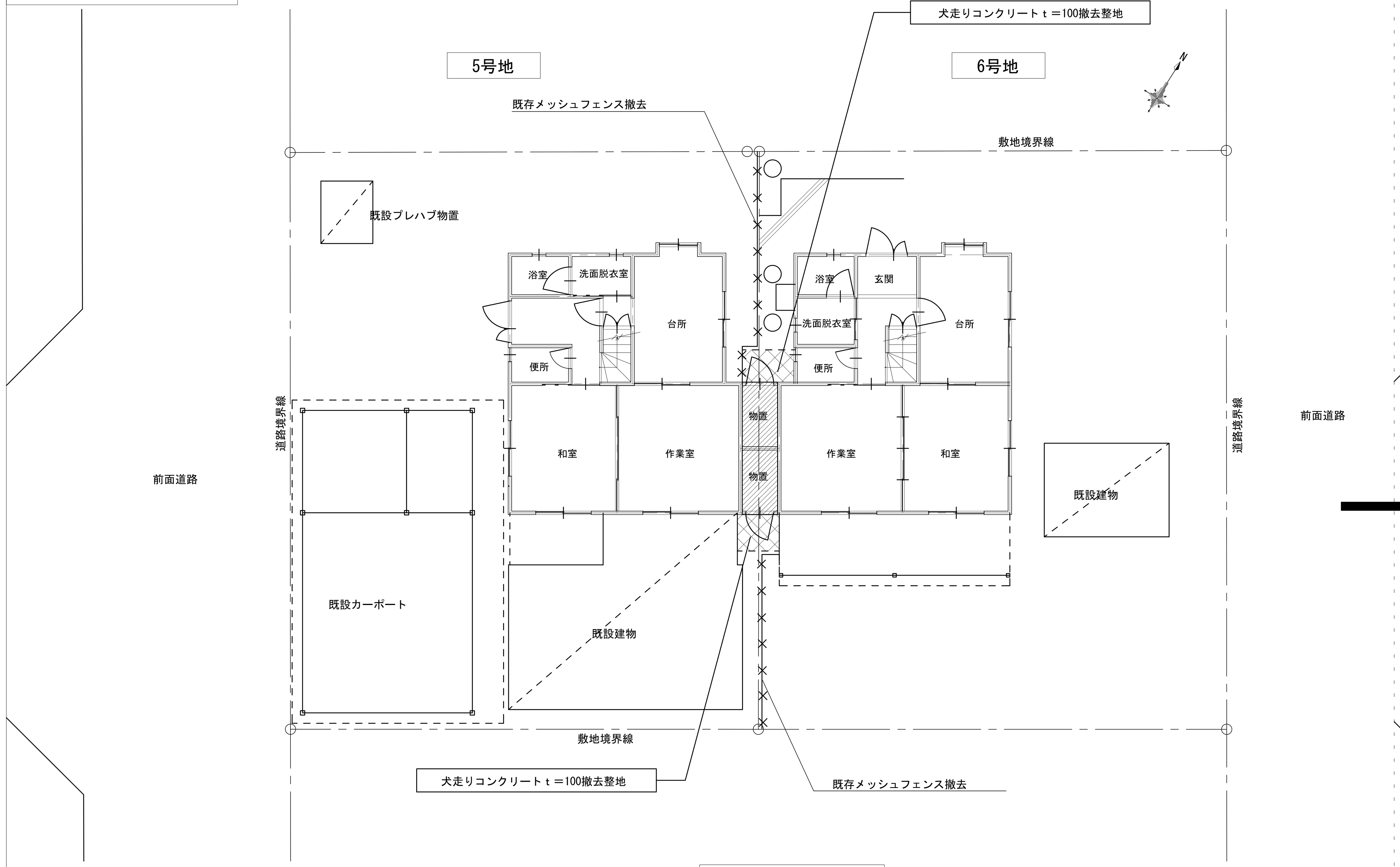
建設リサイクル法
落札が決定した業者は、分別解体等省令で定める様式第1号別表1～3のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し、契約締結前に、契約担当者等に説明書を提出するものとする。また、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づいて書面により報告すること。

③ その他　解体に伴うコンクリート殻を埋戻しとして再利用することは認めない。
解体材を敷地内において焼却したり、埋戻しすることは一切認めない。
図面は概略を示すものであるので、工事着手前に調査を行い現場の状況を十分に把握すること。

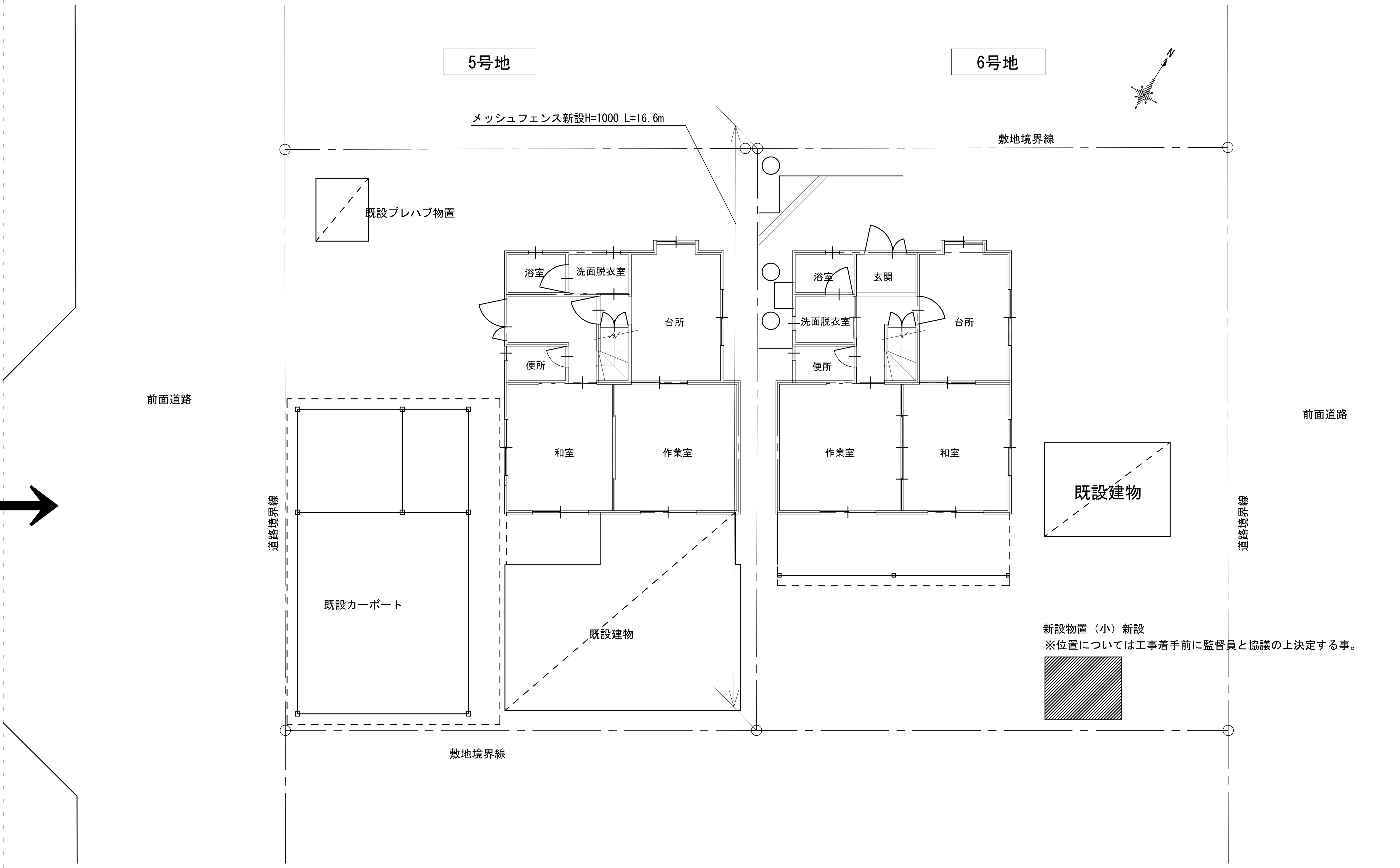
Ｎｏ	４－３	改良住宅（2戸1）分離工事（その4）
検 印	担 当	担 当
		建築工事特記仕様書（２）
		平成26年　9月　日

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

小野団地　5号地・6号地

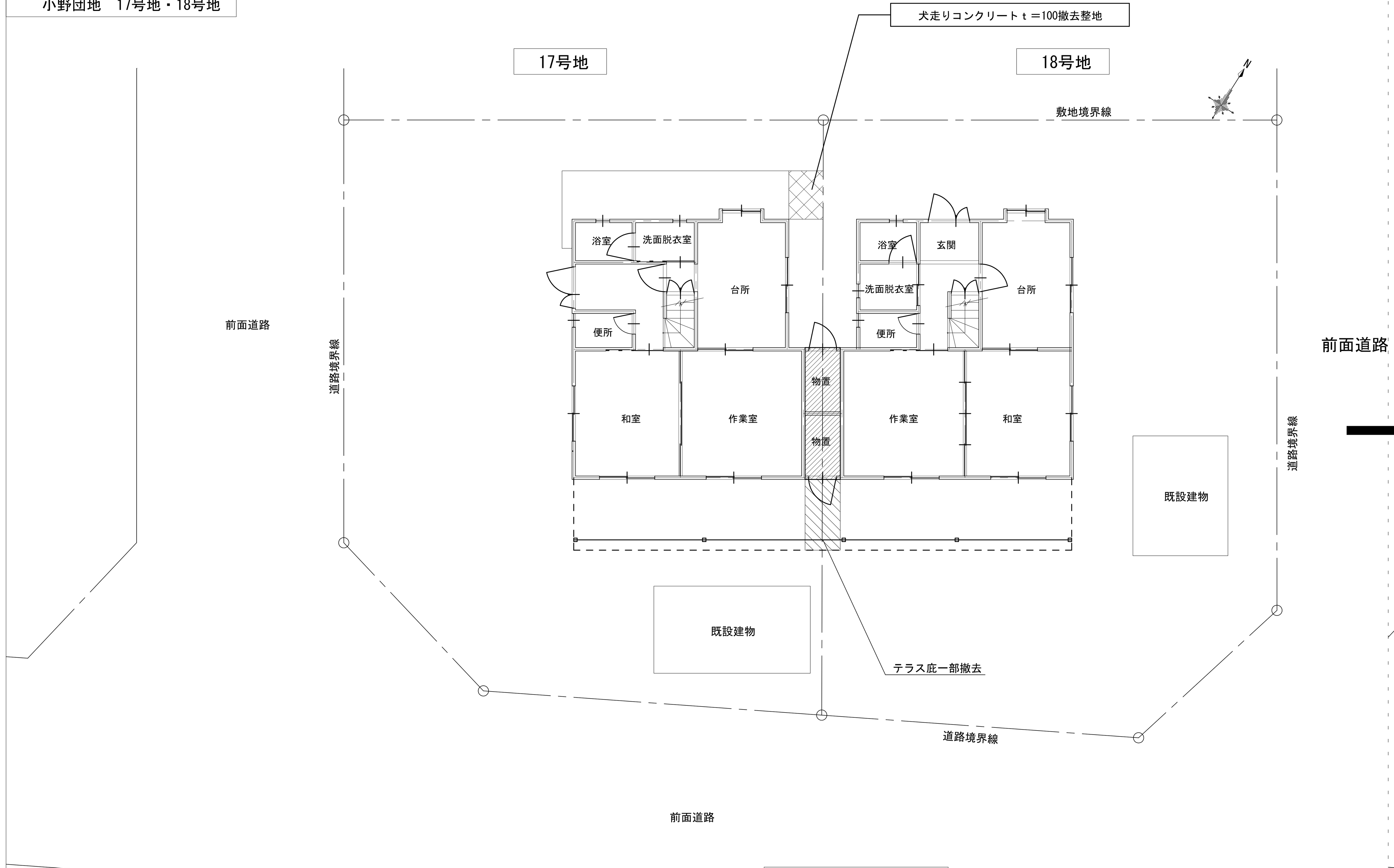


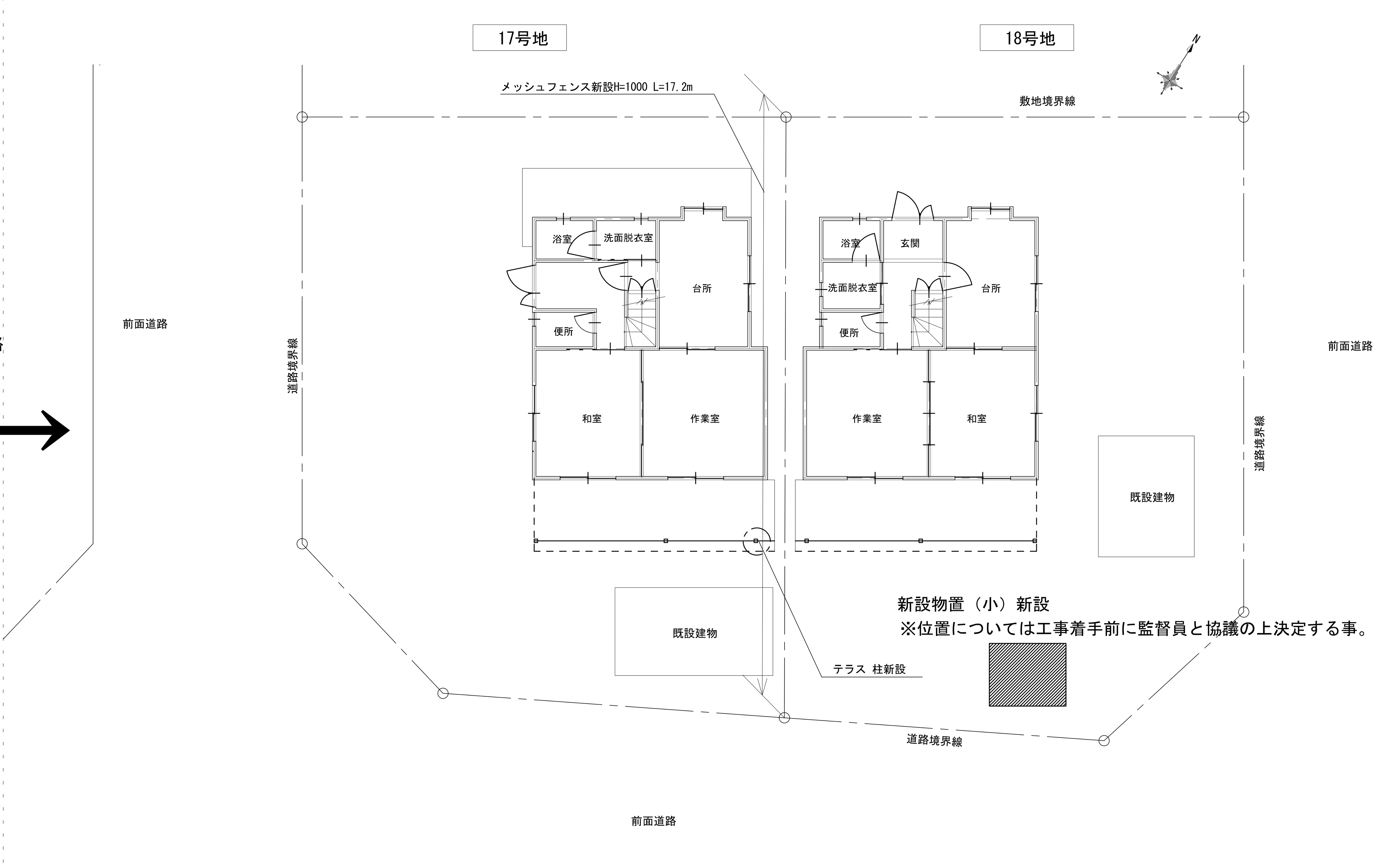
現況配置図



改修後配置図

小野団地　17号地・18号地





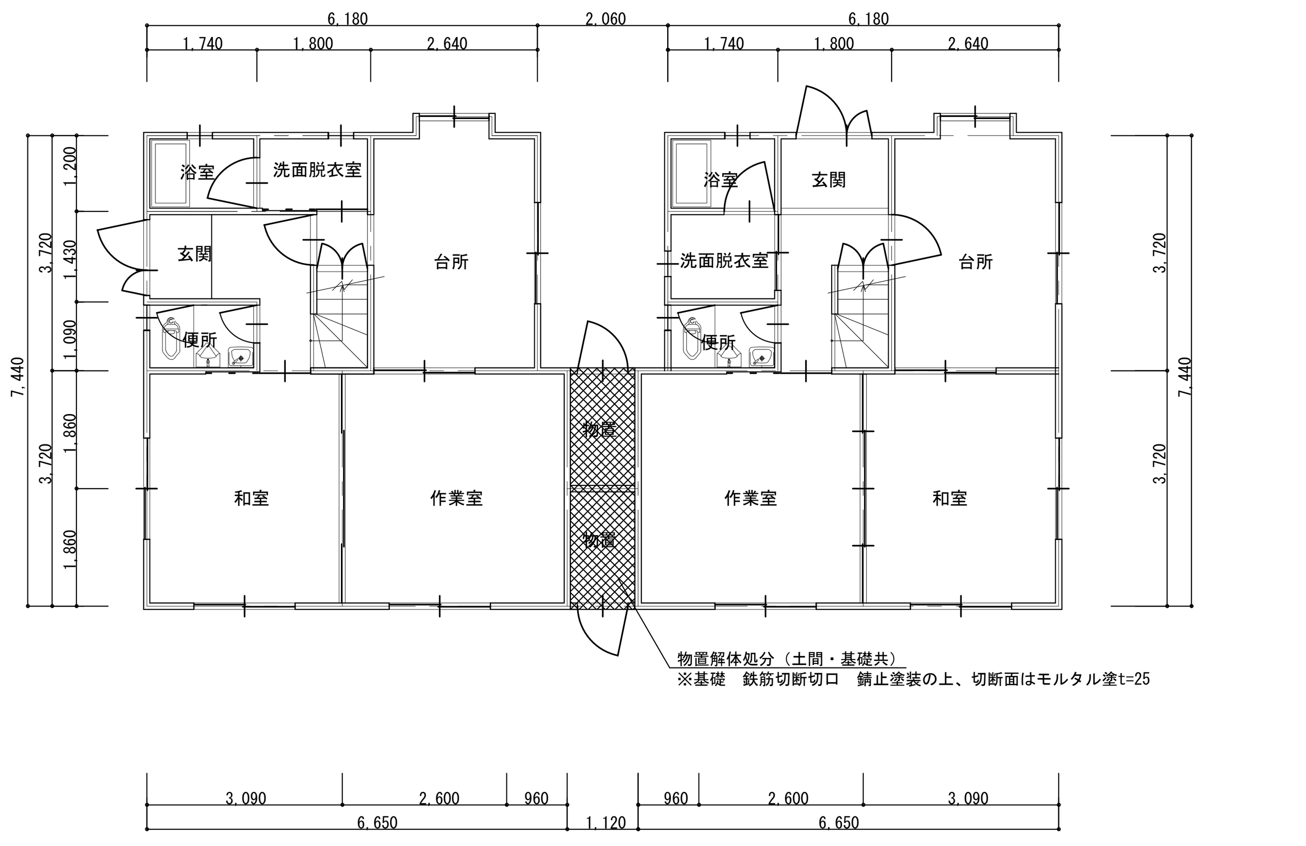
現況配置図

改修後配置図

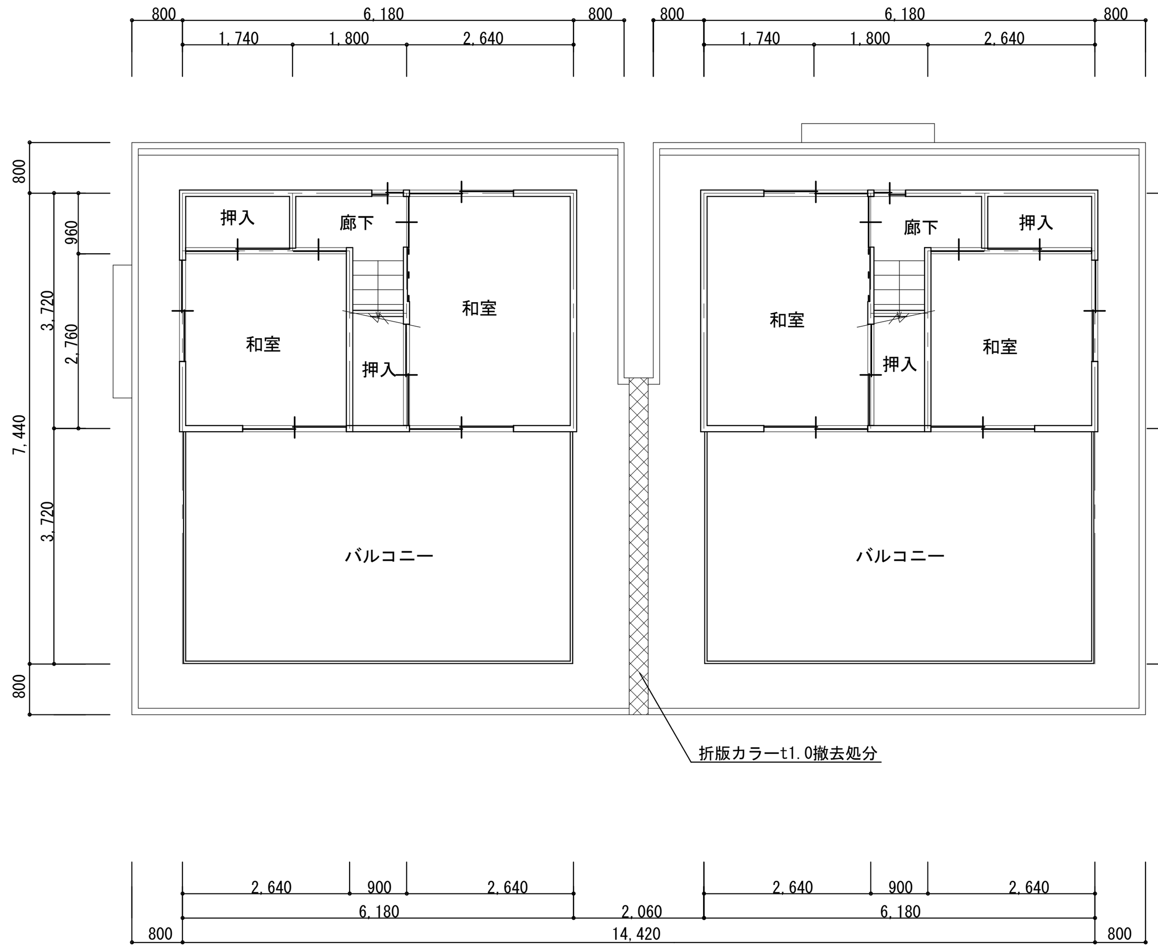
（小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 A－1
				縮尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）配置図	

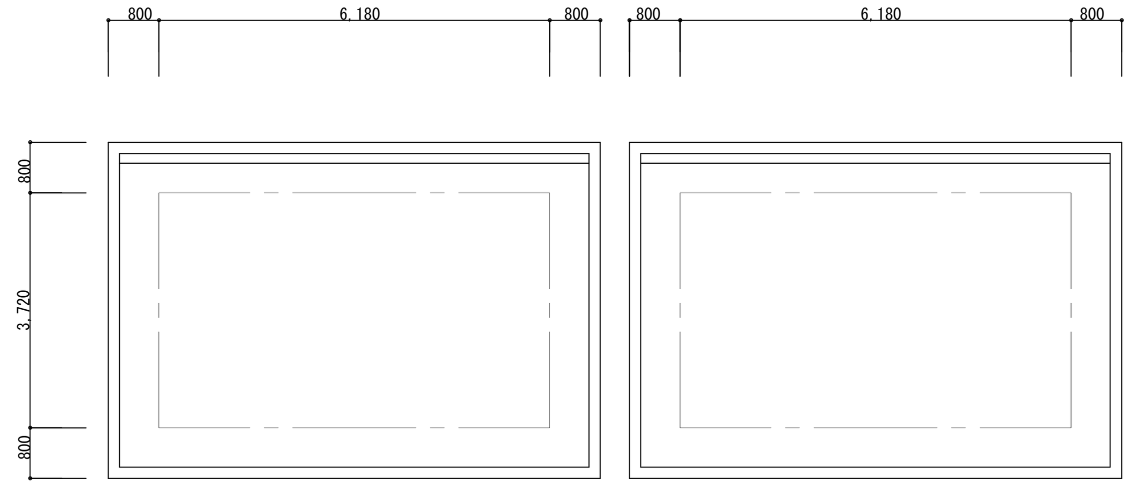
現　況



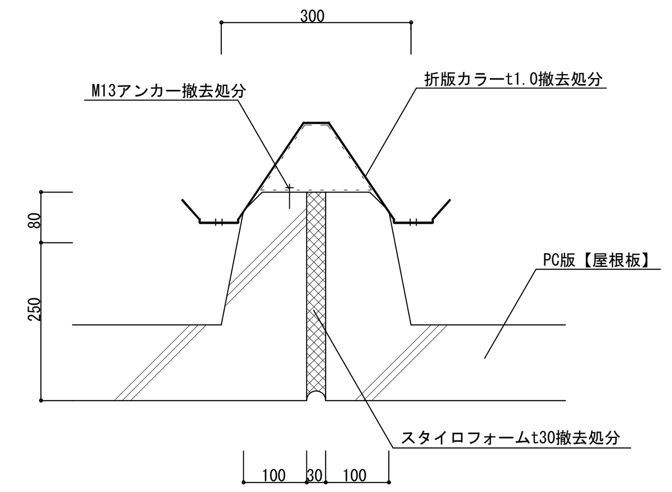
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100

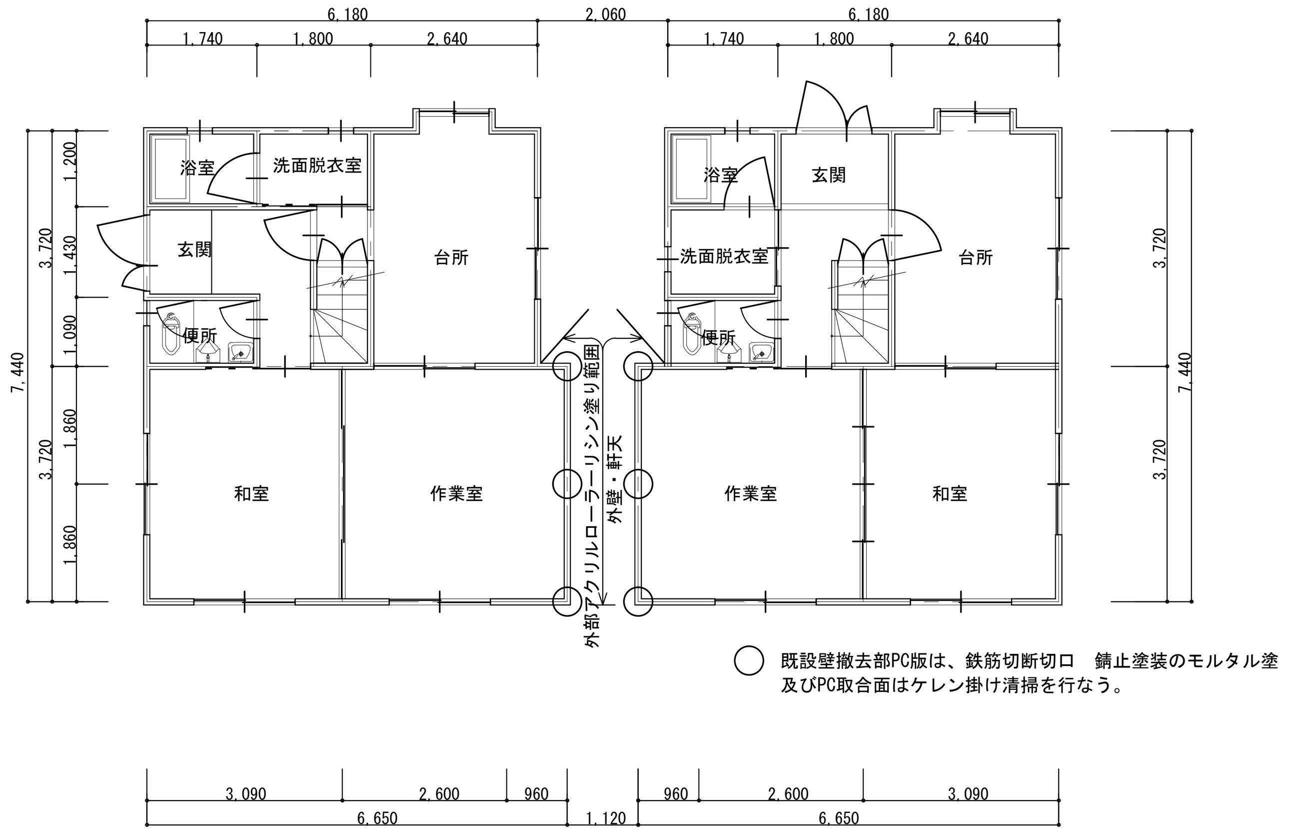


RF 平面図　S=1/100

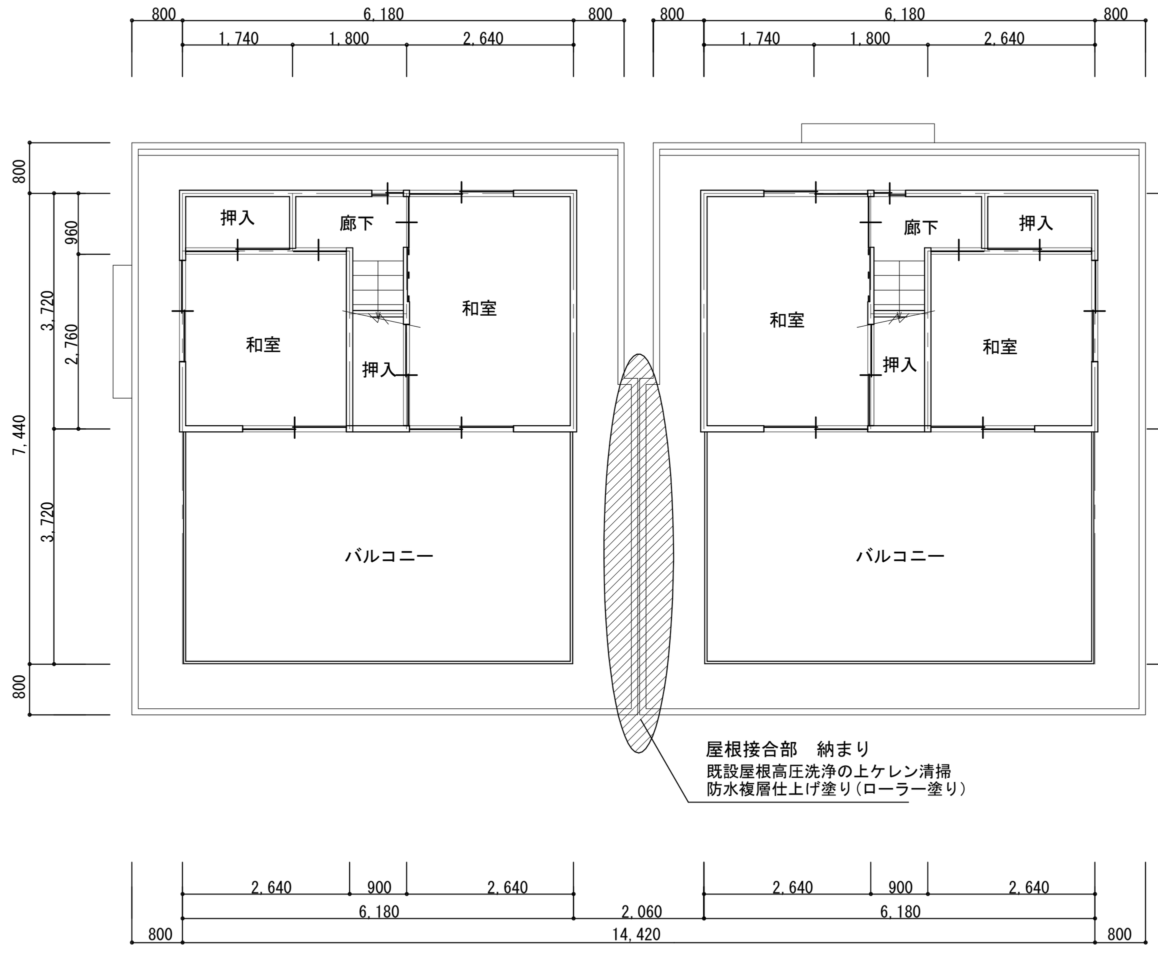


屋根接合部　納まり図　S=1/10

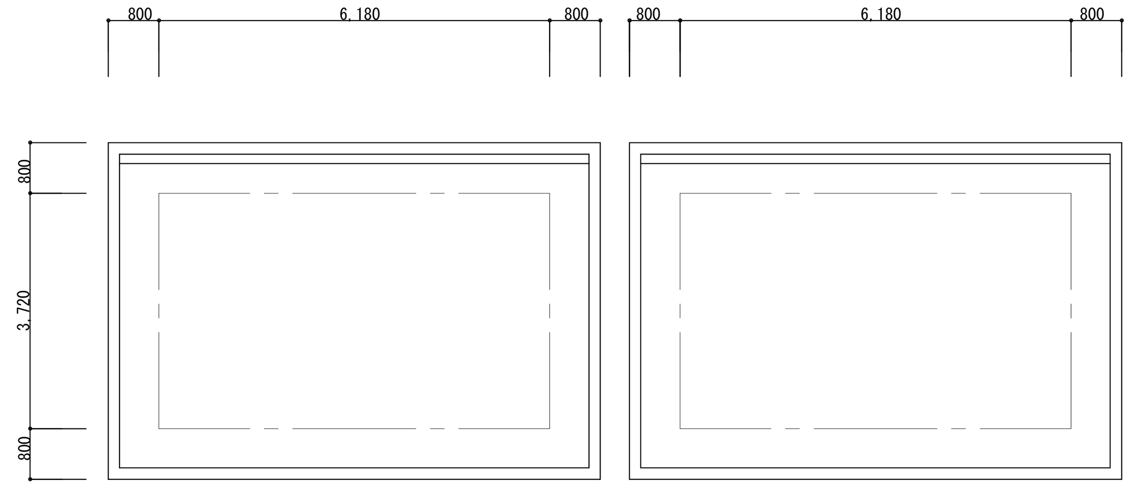
改 修 後



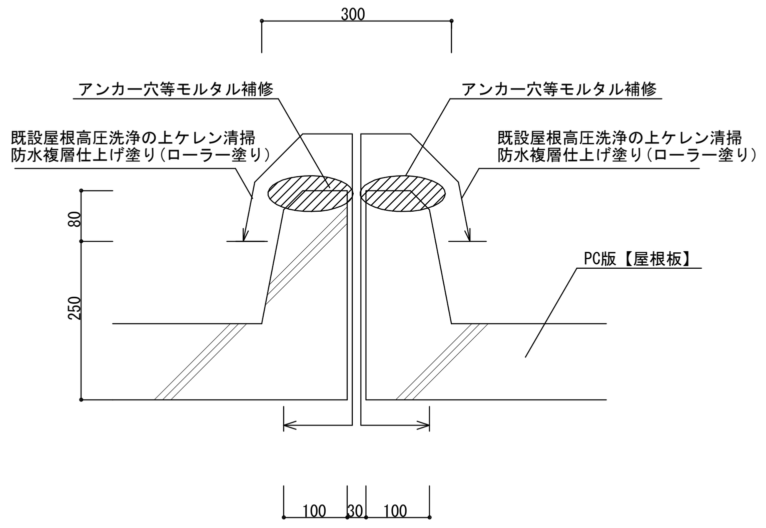
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100



RF 平面図　S=1/100

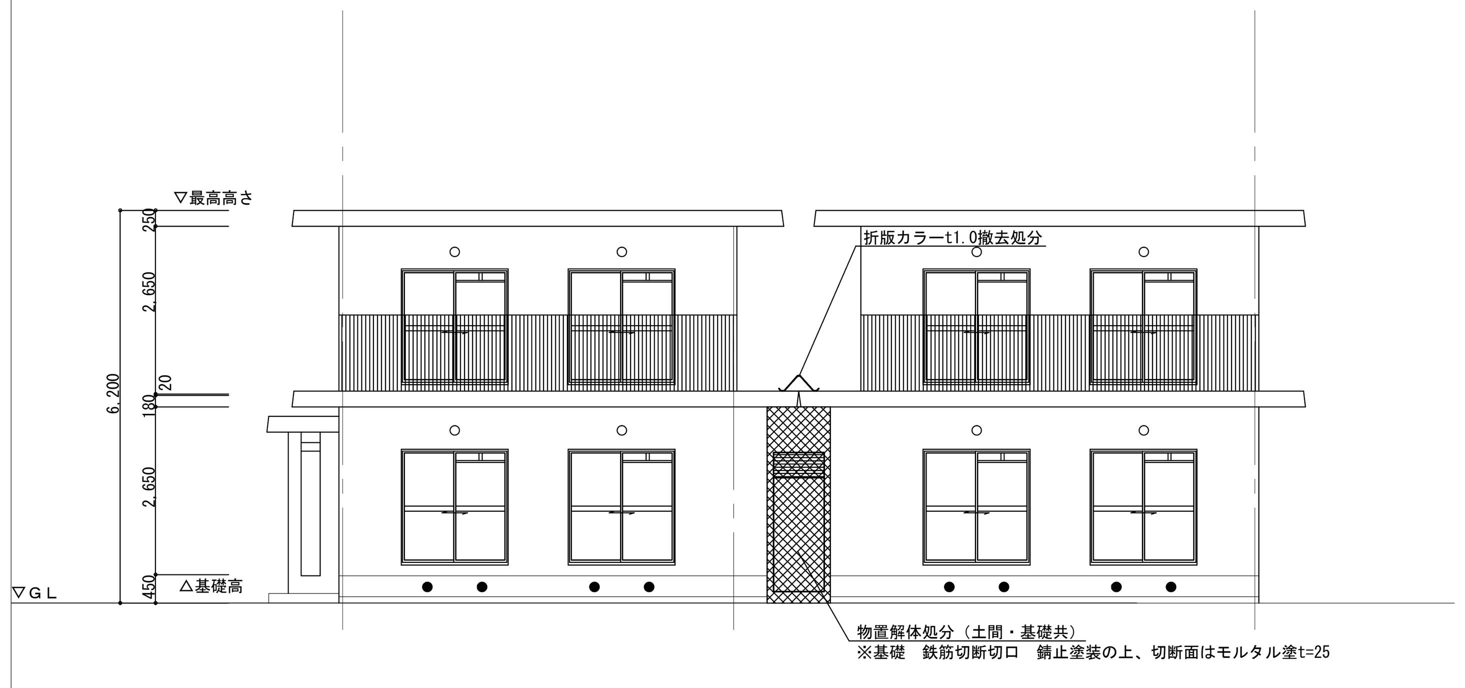


屋根接合部　納まり図　S=1/10

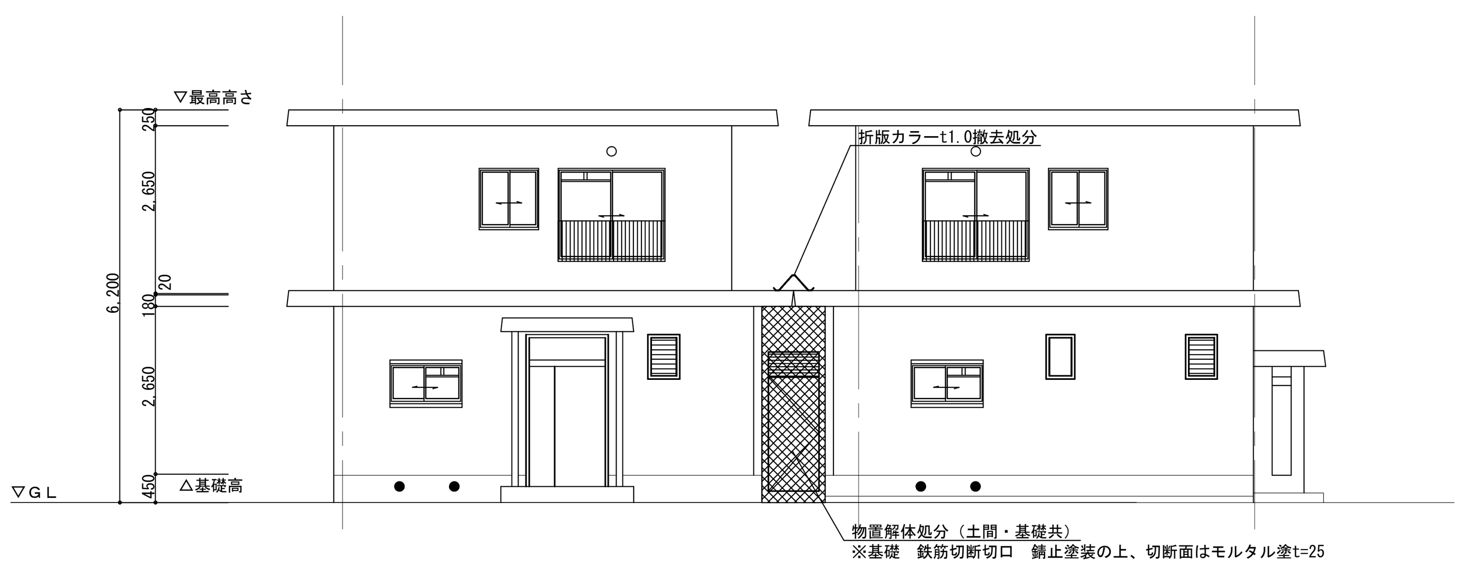
（小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 平成26年　9月　　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 Ａ－2
				縮 尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図	

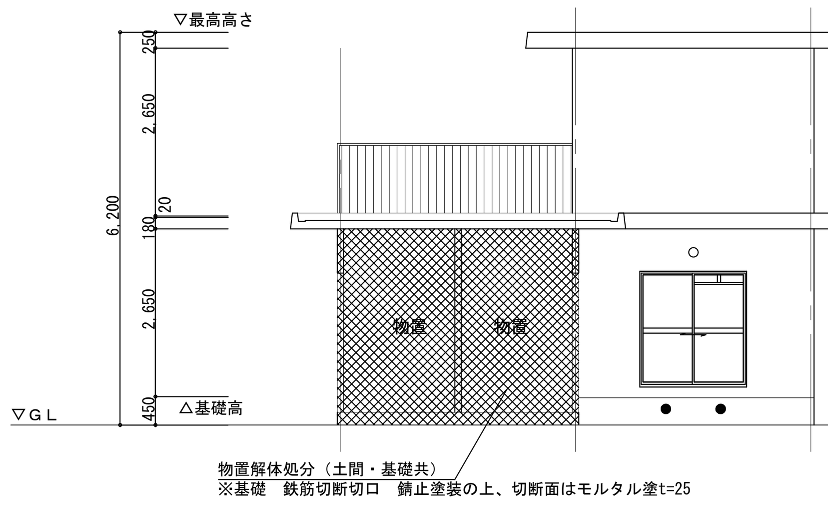
現　況



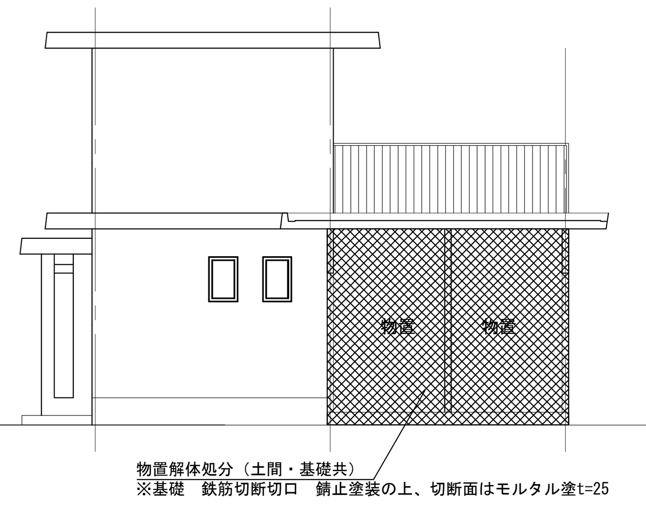
現況立面図　S=1/100



現況立面図　S=1/100

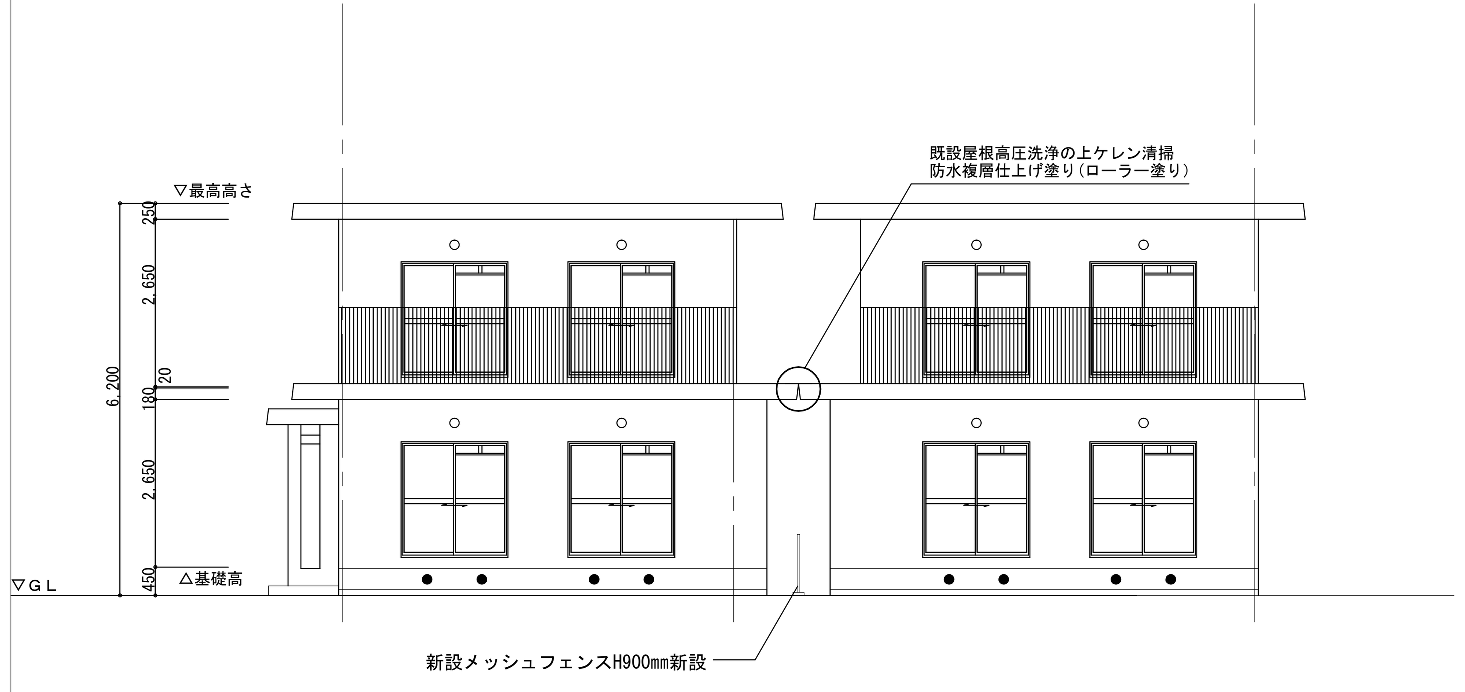


現況立面図　S=1/100

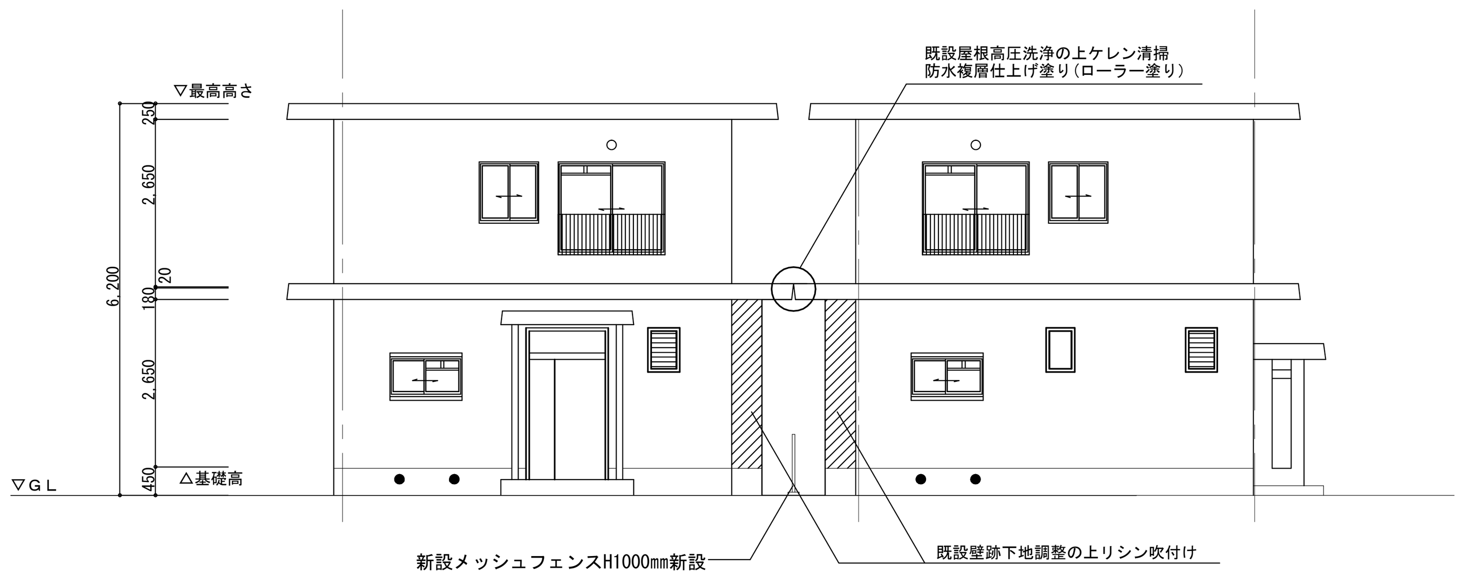


現況立面図　S=1/100

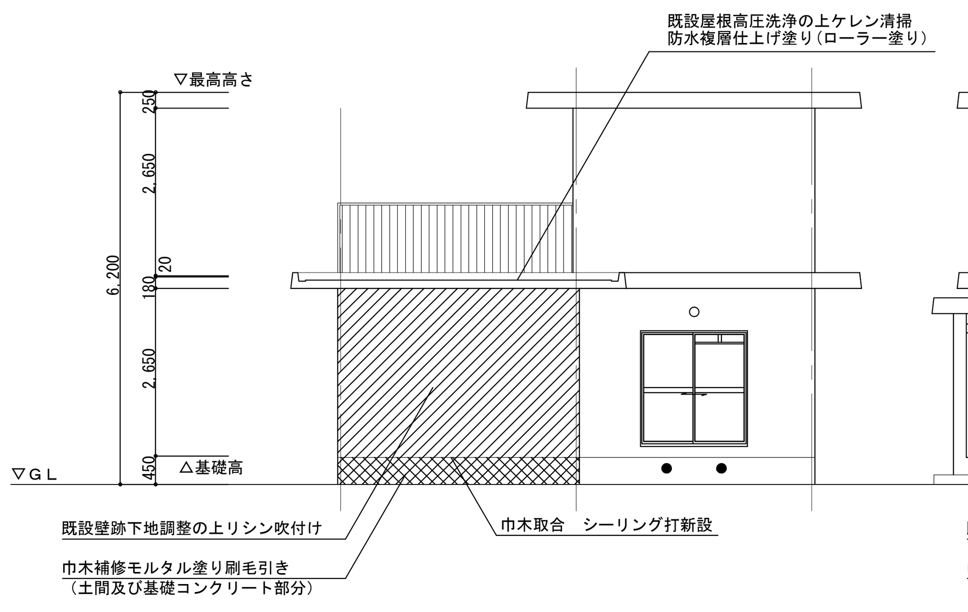
改 修 後



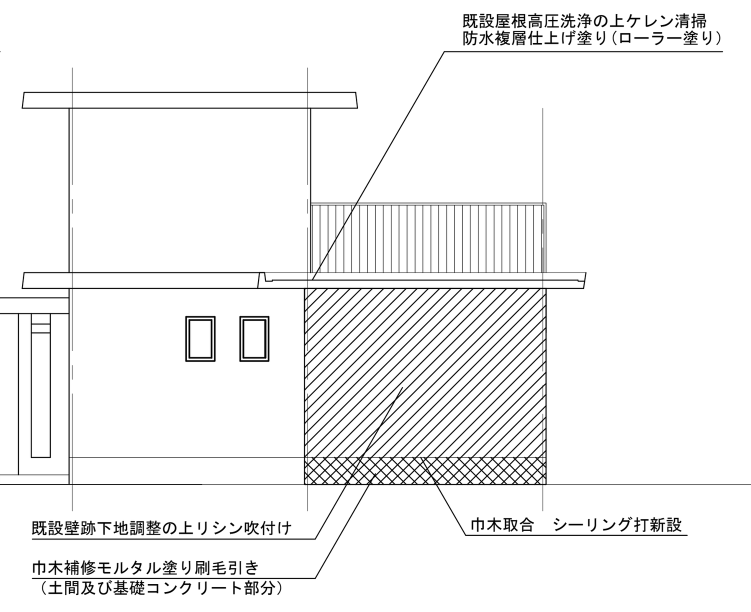
改修後立面図　S=1/100



改修後立面図　S=1/100



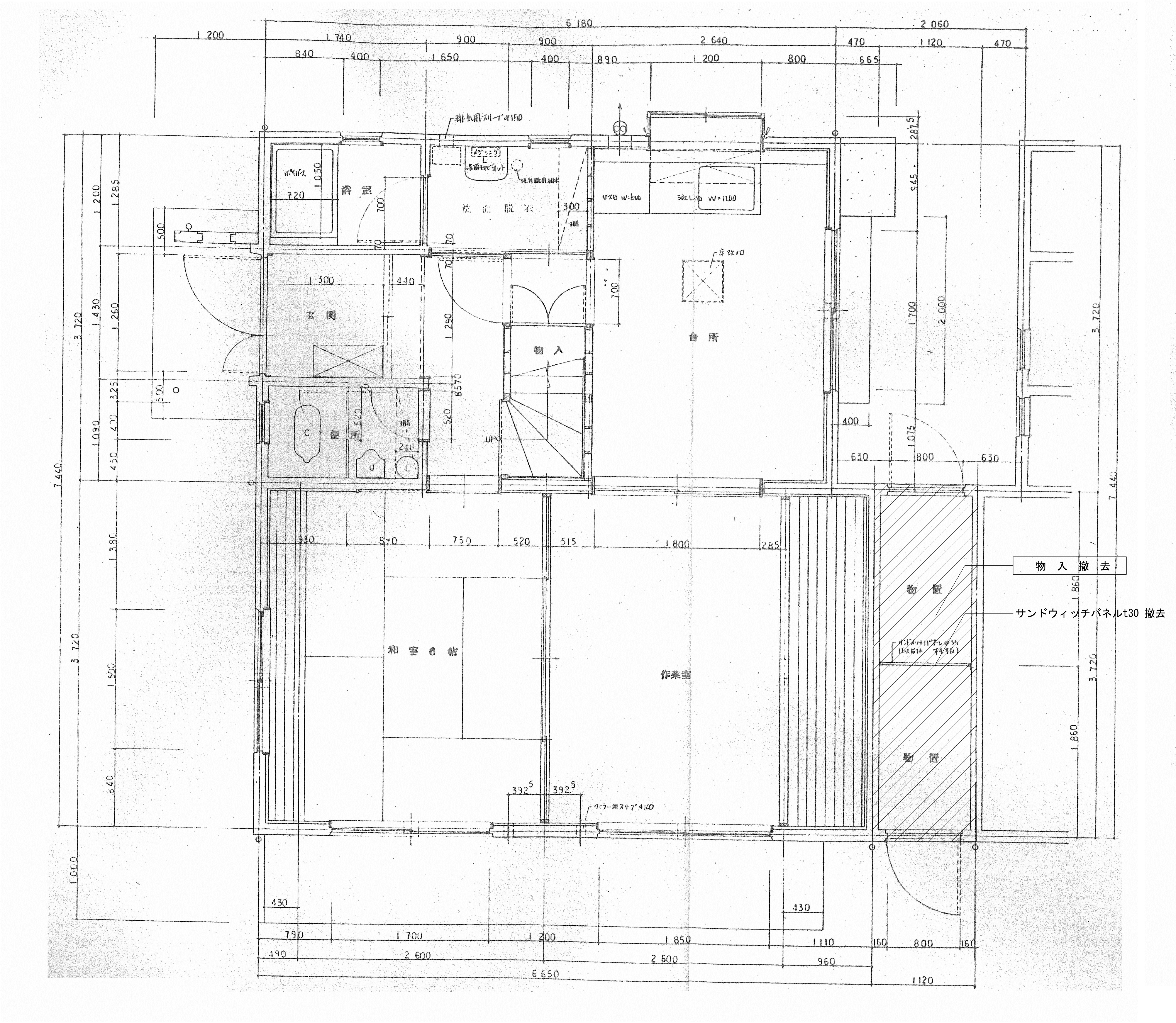
改修後立面図　S=1/100



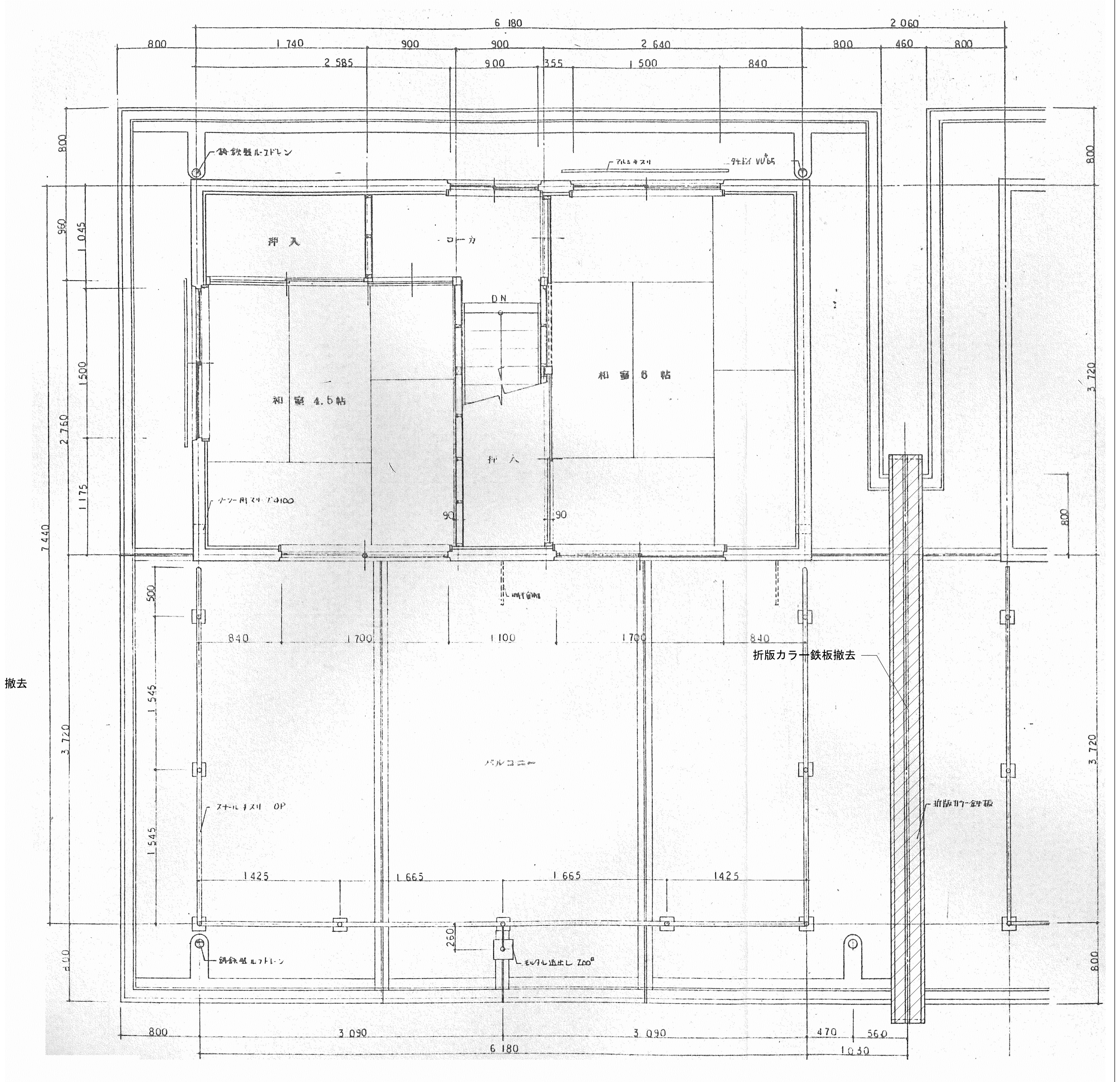
改修後立面図　S=1/100

（小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図
				縮尺　A3:1／200　A1:1／100	図面名　（参考図）現況・改修立面図
					図面番号　A－3



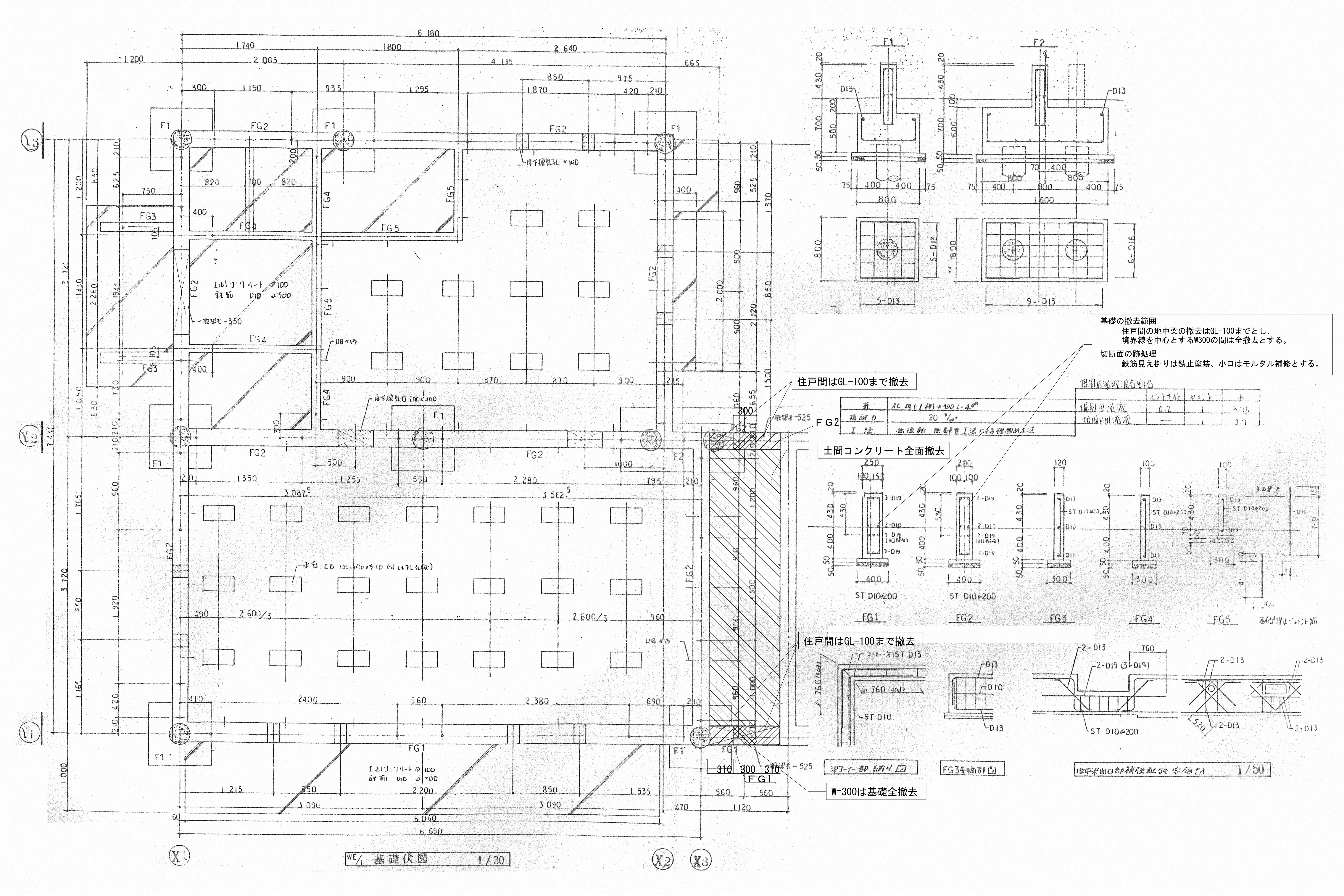
1階平面詳細図　S=1/30



2階平面詳細図　S=1/30

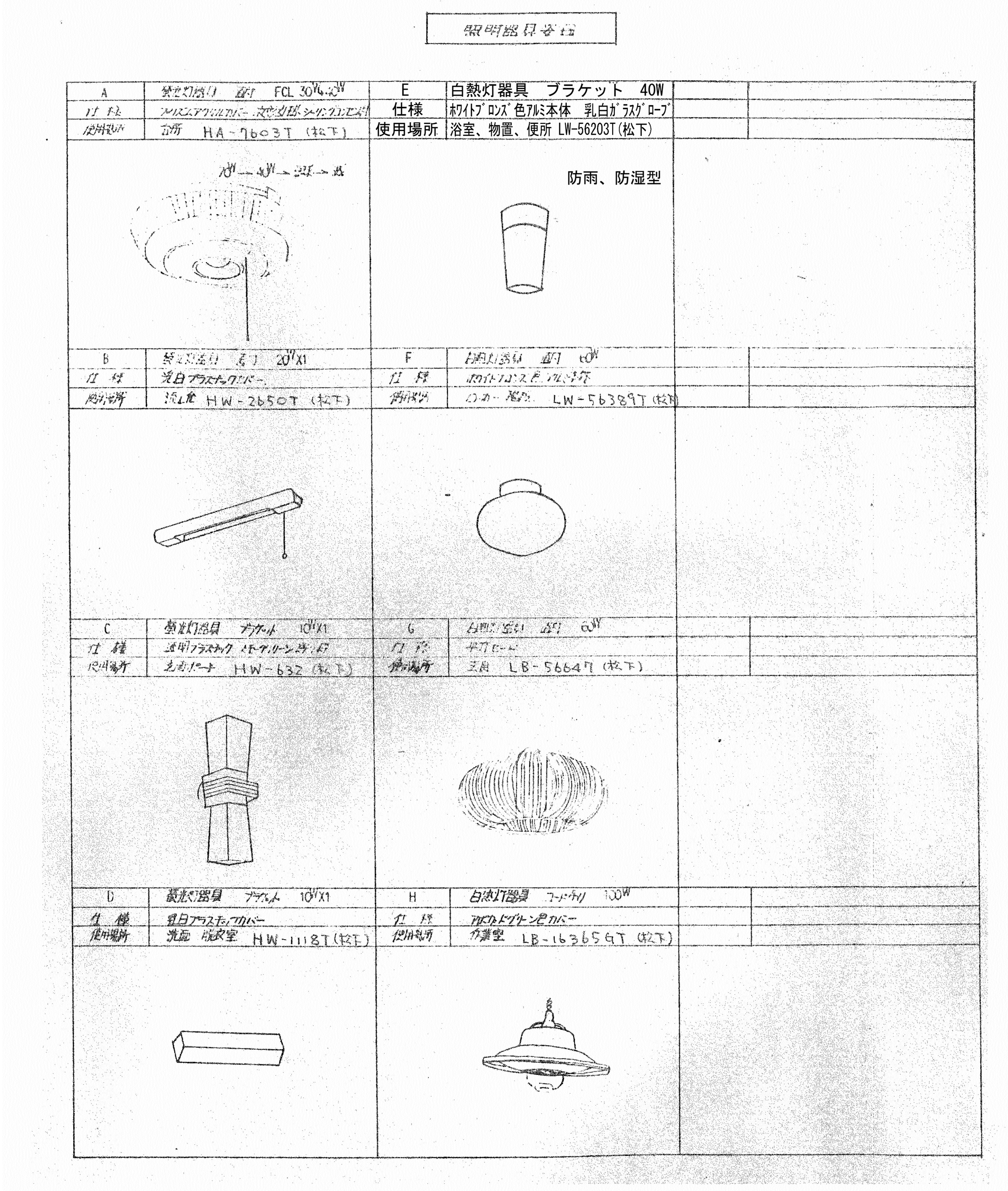
(小野団地　5号地・6号地/17号地・18号地)

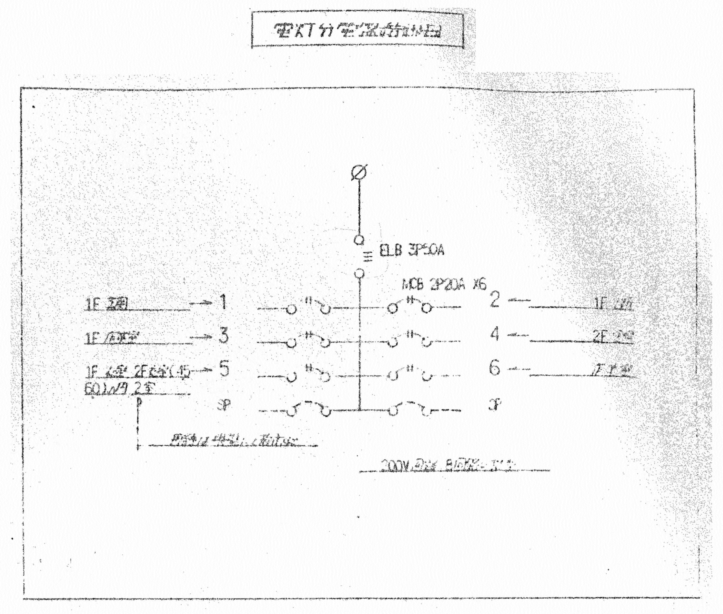
株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第80805号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号　A－4
				縮尺　A3:1／60　A1:1／30	図面名　(参考図)　平面詳細図	

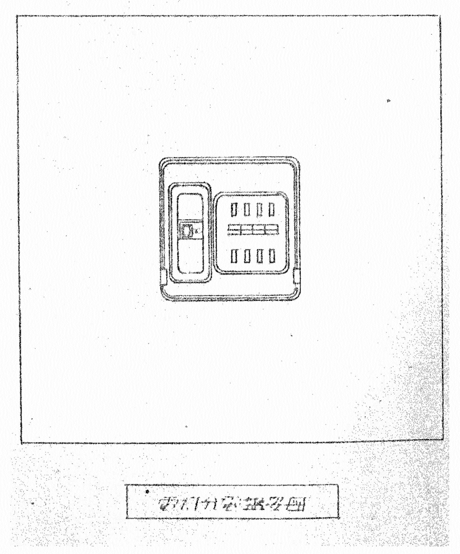


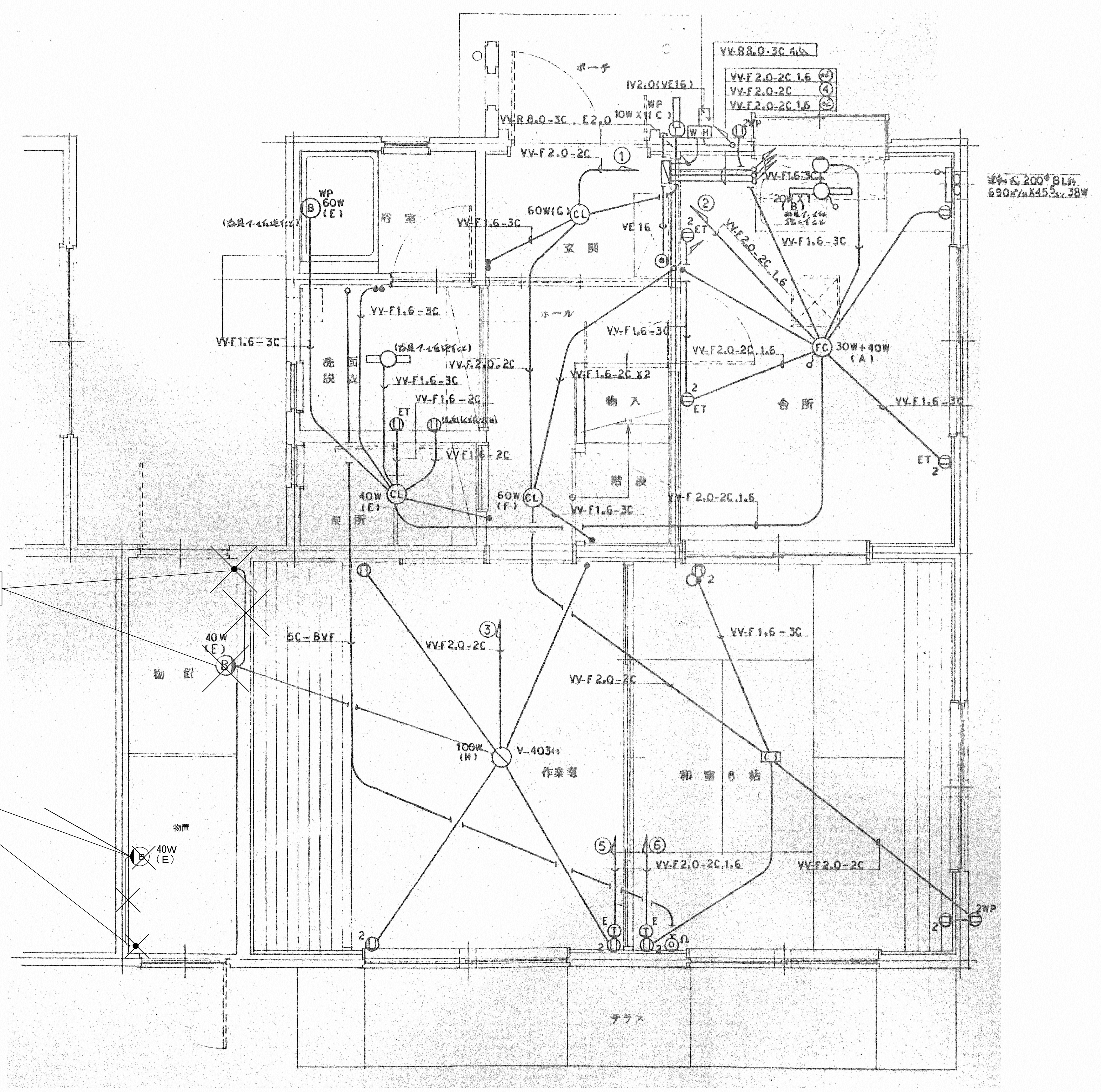
(小野団地　5号地・6号地/17号地・18号地)

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 平成26年　9月　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 A－5
				縮 尺 A3:1／60 A1:1／30	図面名 （参考図）　基礎伏図・基礎詳細図	









撤去処分の上、配線末端処理し カバープレート取付

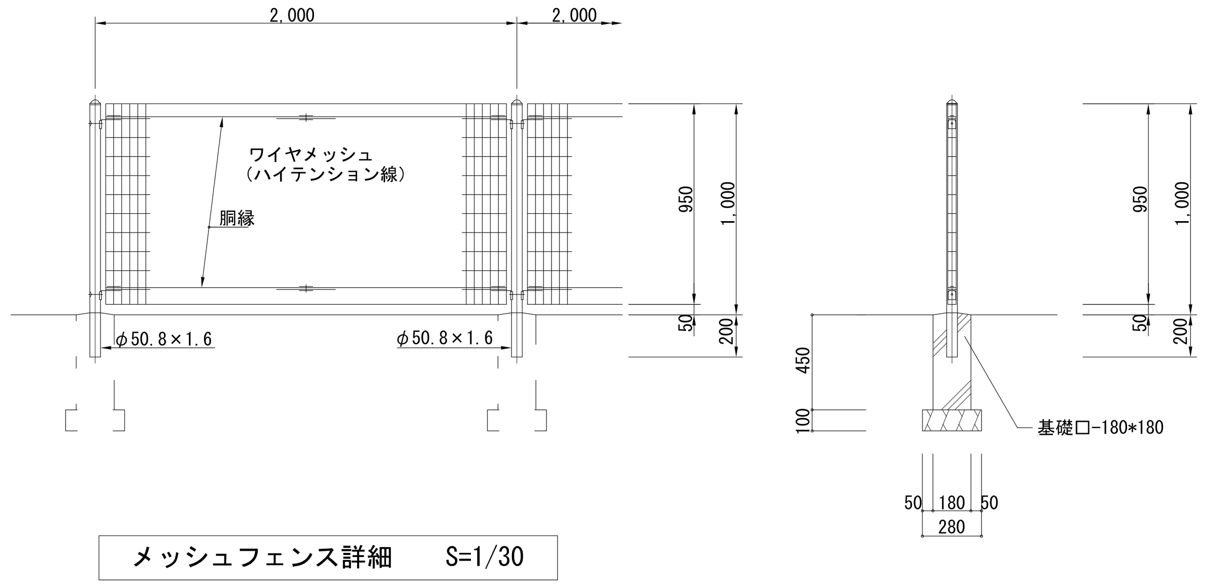
撤去処分の上、配線末端処理し カバープレート取付

1階電気設備図 S=1/30

特記事項
1) 本配線図中特記なき配線はVV-F 1.6-2Cを示す。
2) V-403は日本住宅公団記号を示す。
3) 配線器具は大角型配線器具を使用し、プレートはプラスチック製を使用する事。

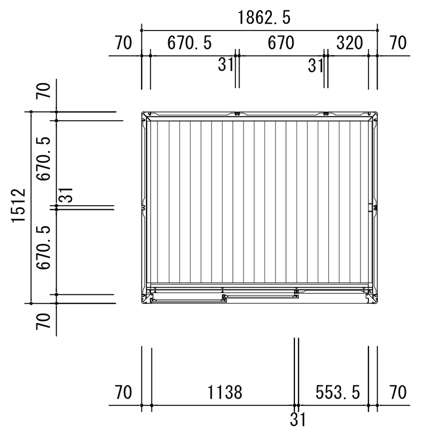
(小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地)

株式会社 中田 設計 一級建築士 登録 第８０８０５号 中田 全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 平成26年 9月 日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 Ａ－6
				縮 尺 A3:1／60 A1:1／30	図面名 （参考図） 照明器具姿図・電気設備図	

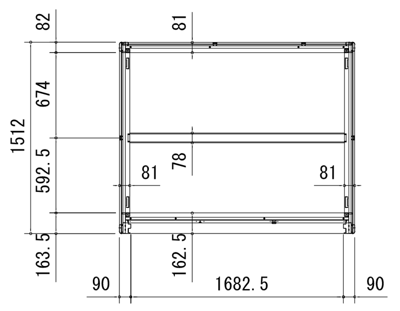


メッシュフェンス詳細 S=1/30

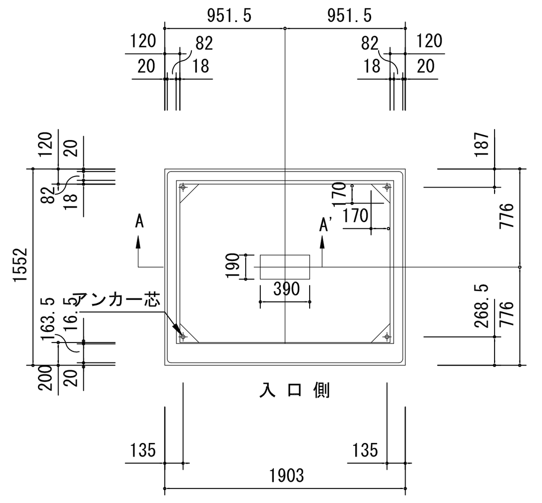
参考品番 A1000-WS 朝日スチール工業



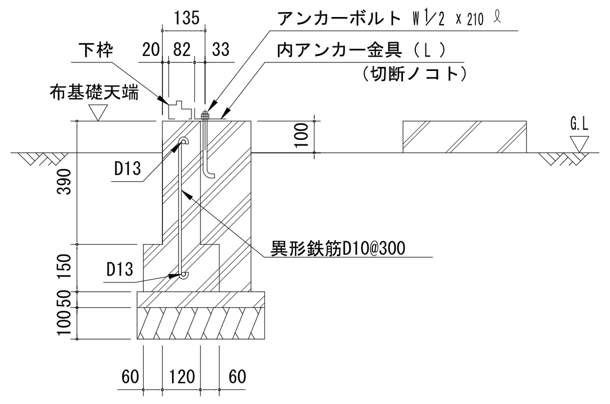
平面図 S=1/50



床伏図 S=1/50



布基礎伏図 S=1/50

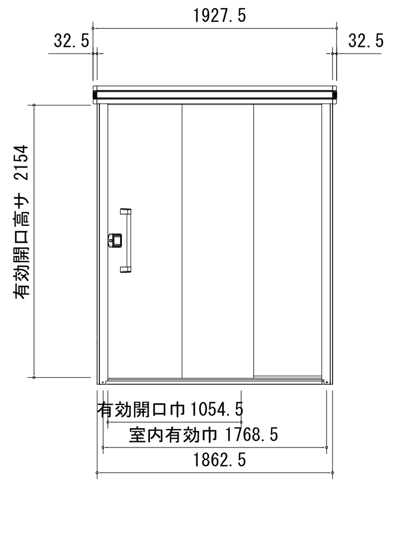


布基礎断面図 S=1/20

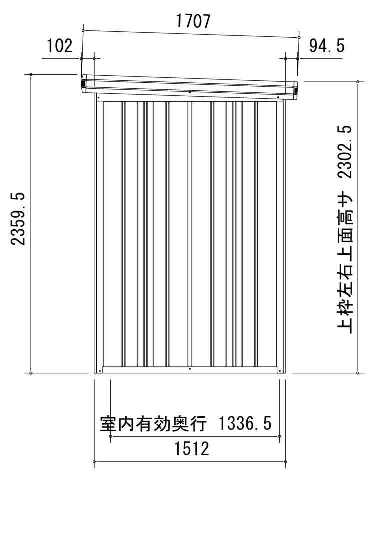
部　材　名	厚さ(m/m)	材　質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床補強	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
＜一般型＞ もや A-A2.5	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下枠前（側・後）	1.2 （1.0 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠前（後）	1.0 （0.8 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠左,右	0.6	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 （ツートンカラー）
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	0.5	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 （ツートンカラー）
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
扉	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁パネル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
袖壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
アンカープレート（L）	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板（後塗装仕上げ）

部　材　名	サイズ（巾×高サ）
扉前 H-C	599 × 2178
扉後 H-C	599 × 2178
壁パネル H-A	670 × 2110
壁パネル H-F	319.5 × 2110
袖壁 H-C	553 × 2149

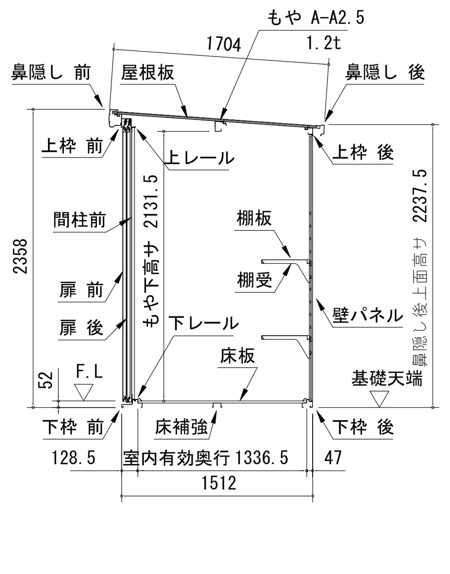
参考品番 ヨド物置 本体 棚２段付 LMD-1815H（一般型）
結露低減材付屋根



正面立面図 S=1/50



側面立面図 S=1/50



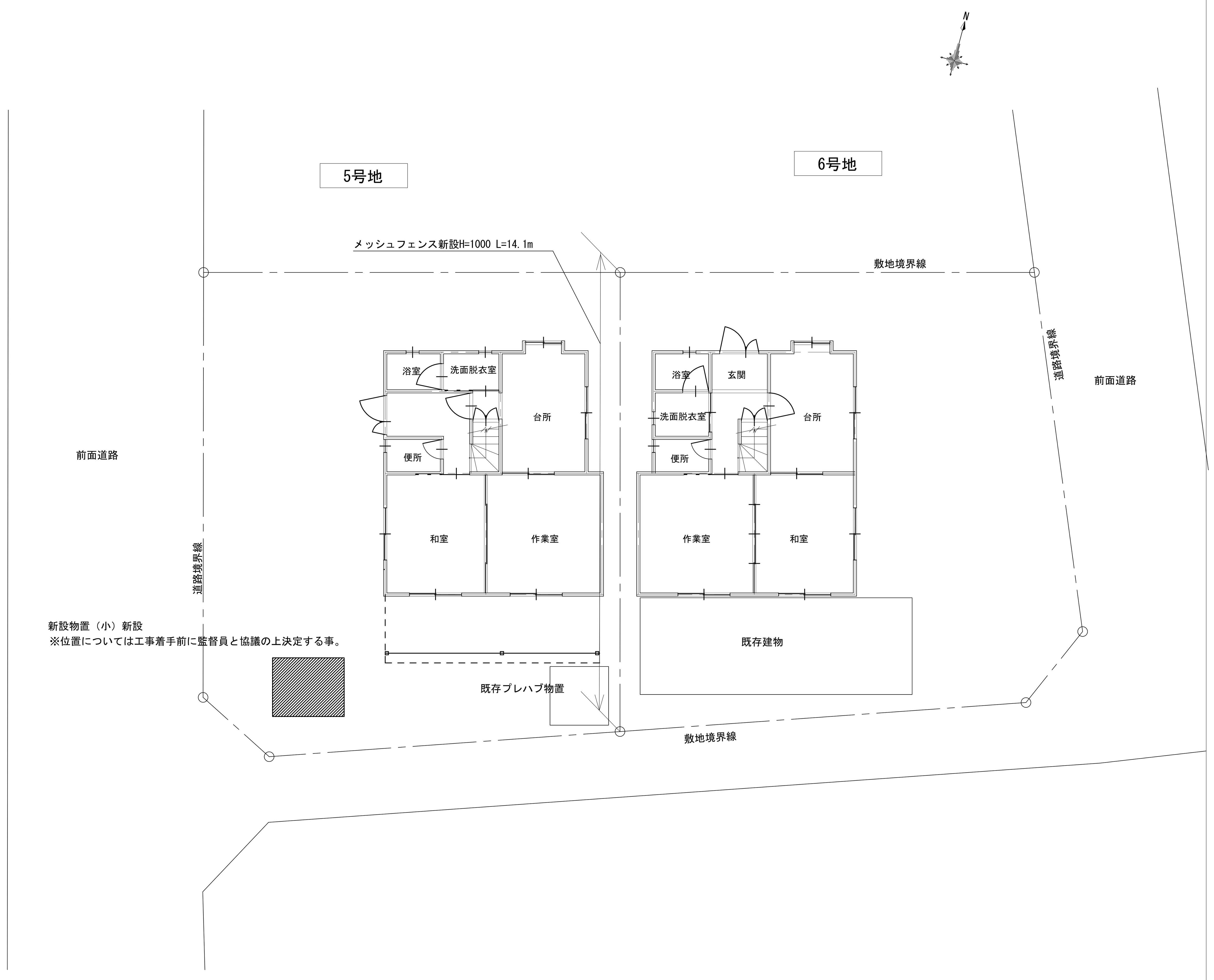
矩計図 S=1/50

(小野団地 5号地・6号地/17号地・18号地)

株式会社 中田 設計 一級建築士 登録 第８０８０５号 中田 全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年 9月 日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 Ａ－7
				縮尺 A3:1/40,1/100 A1:1/20,1/50	図面名 (参考図) 新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図	

末広町内団地　5号地・6号地

現況配置図

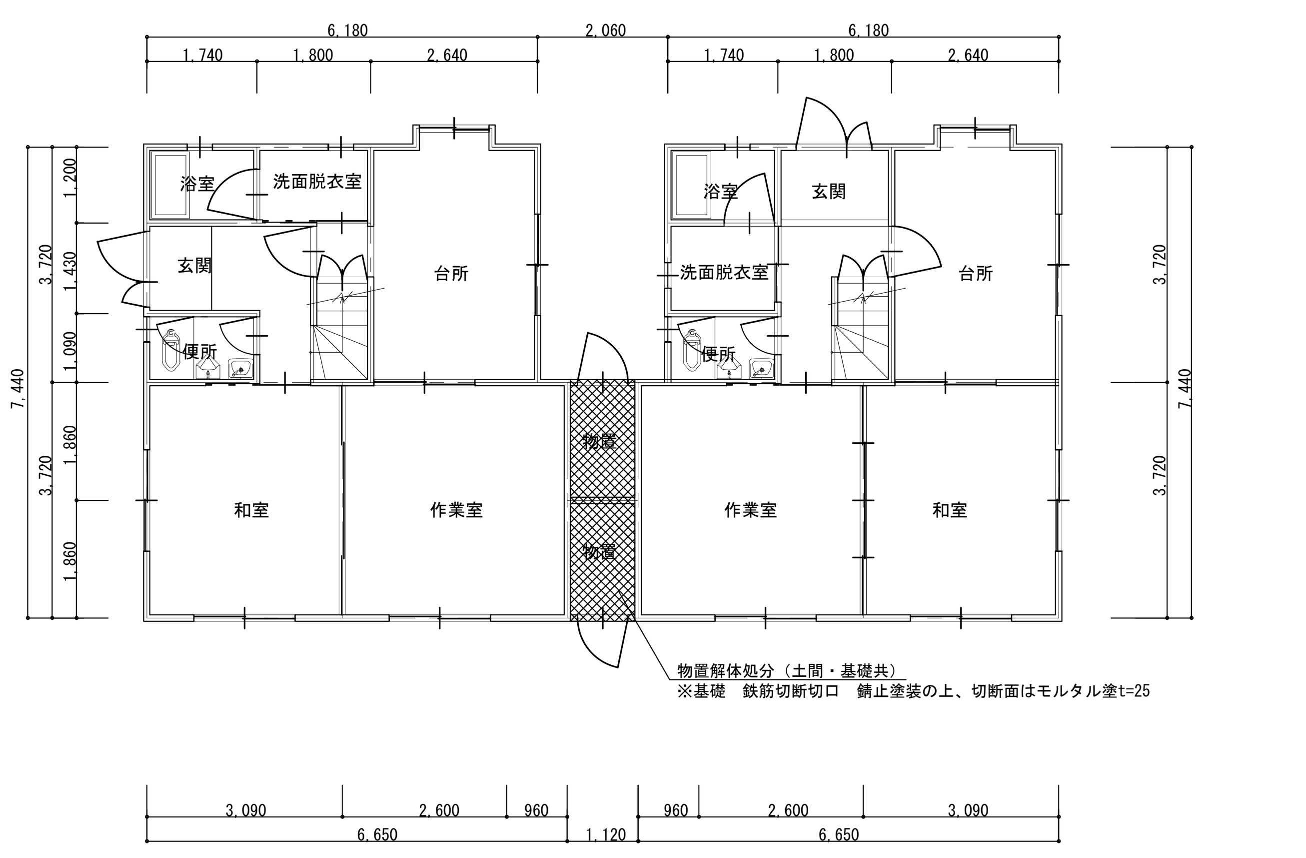


改修後配置図

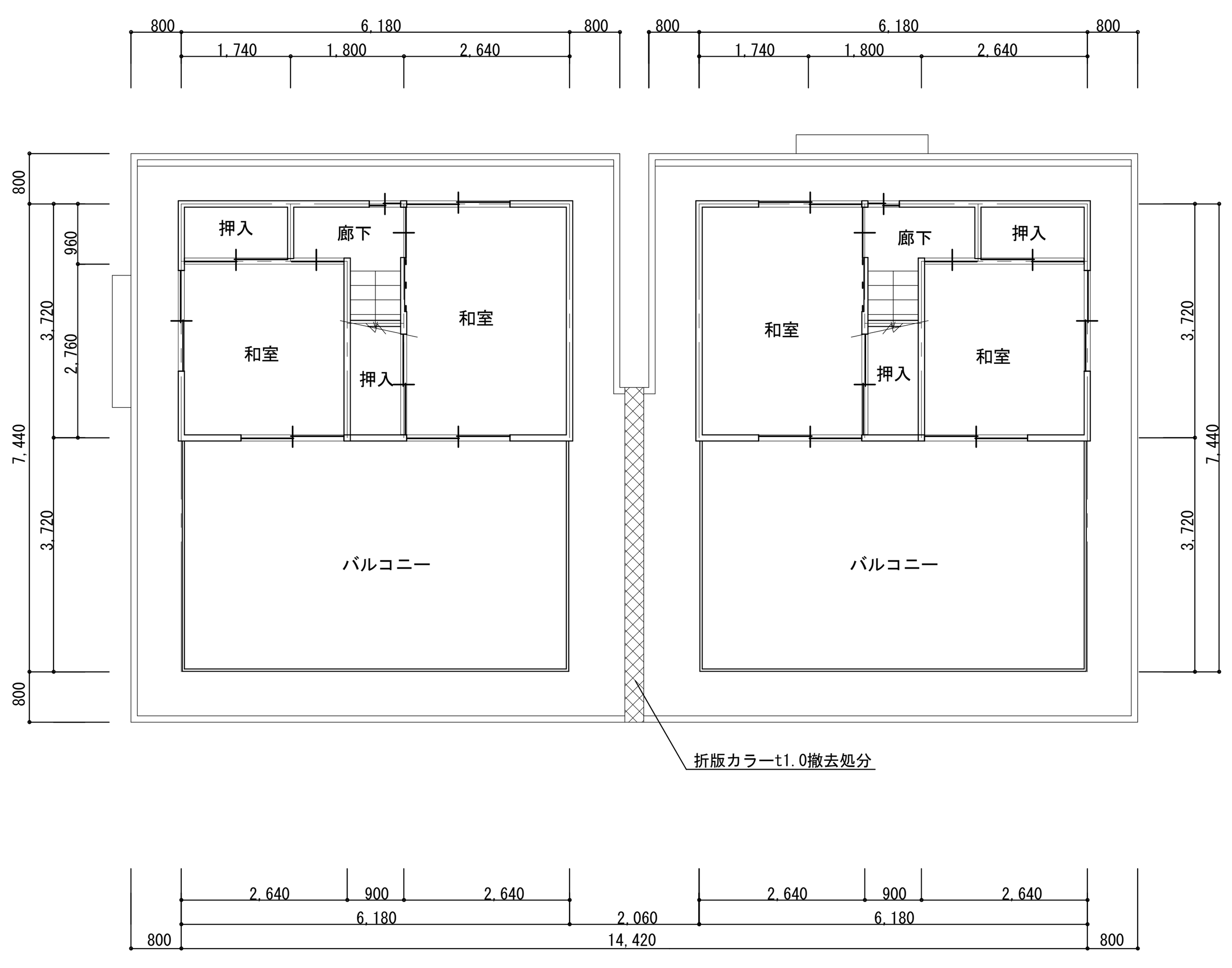
（末広町内団地　5号地・6号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　日	工事名称 改良住宅(2戸1）分離工事（その4）設計図	図面番号 Ｂ－1
				縮尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）配置図	

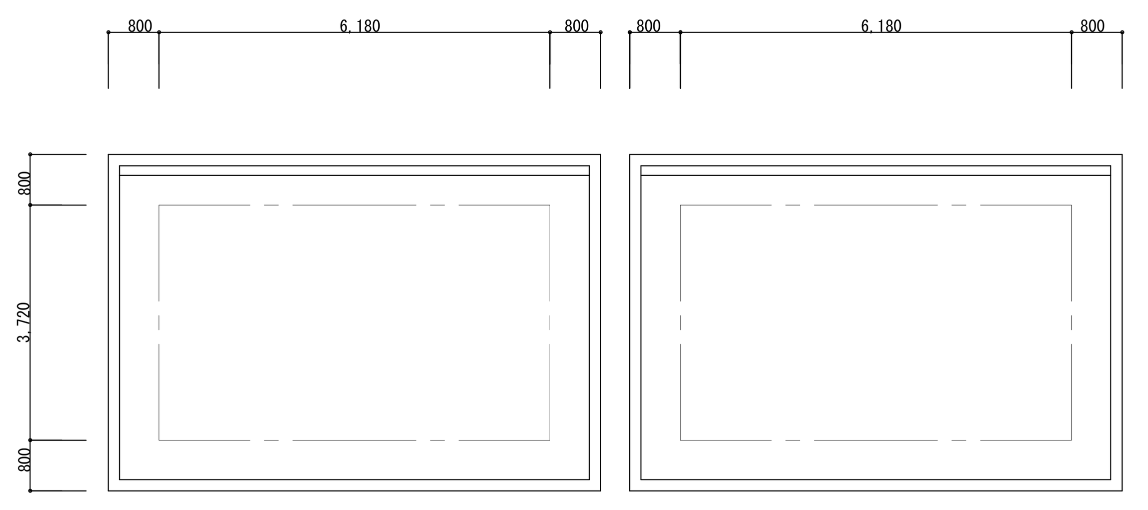
現　況



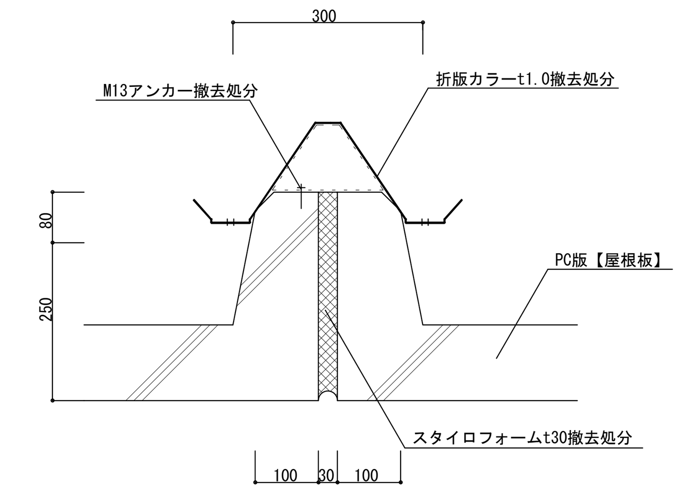
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100

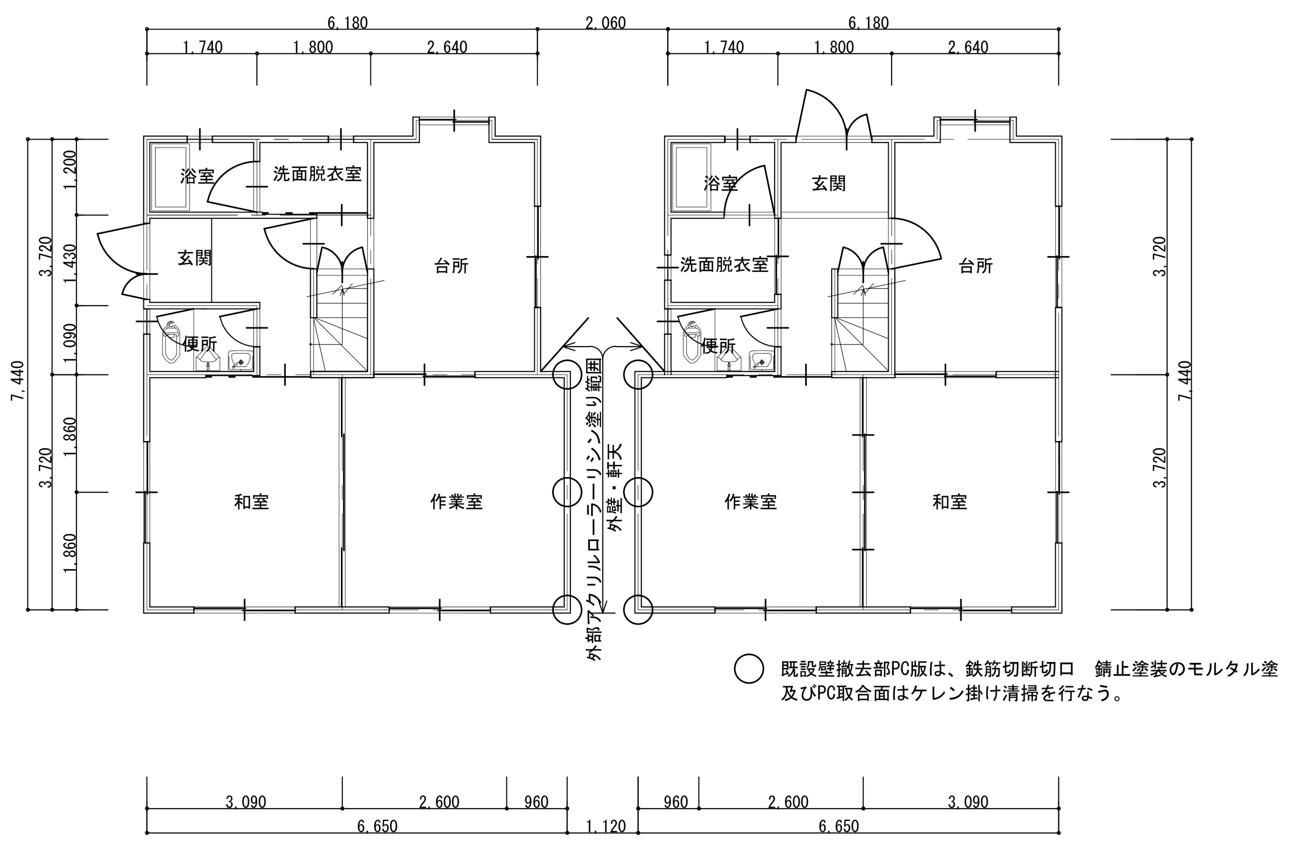


RF 平面図　S=1/100

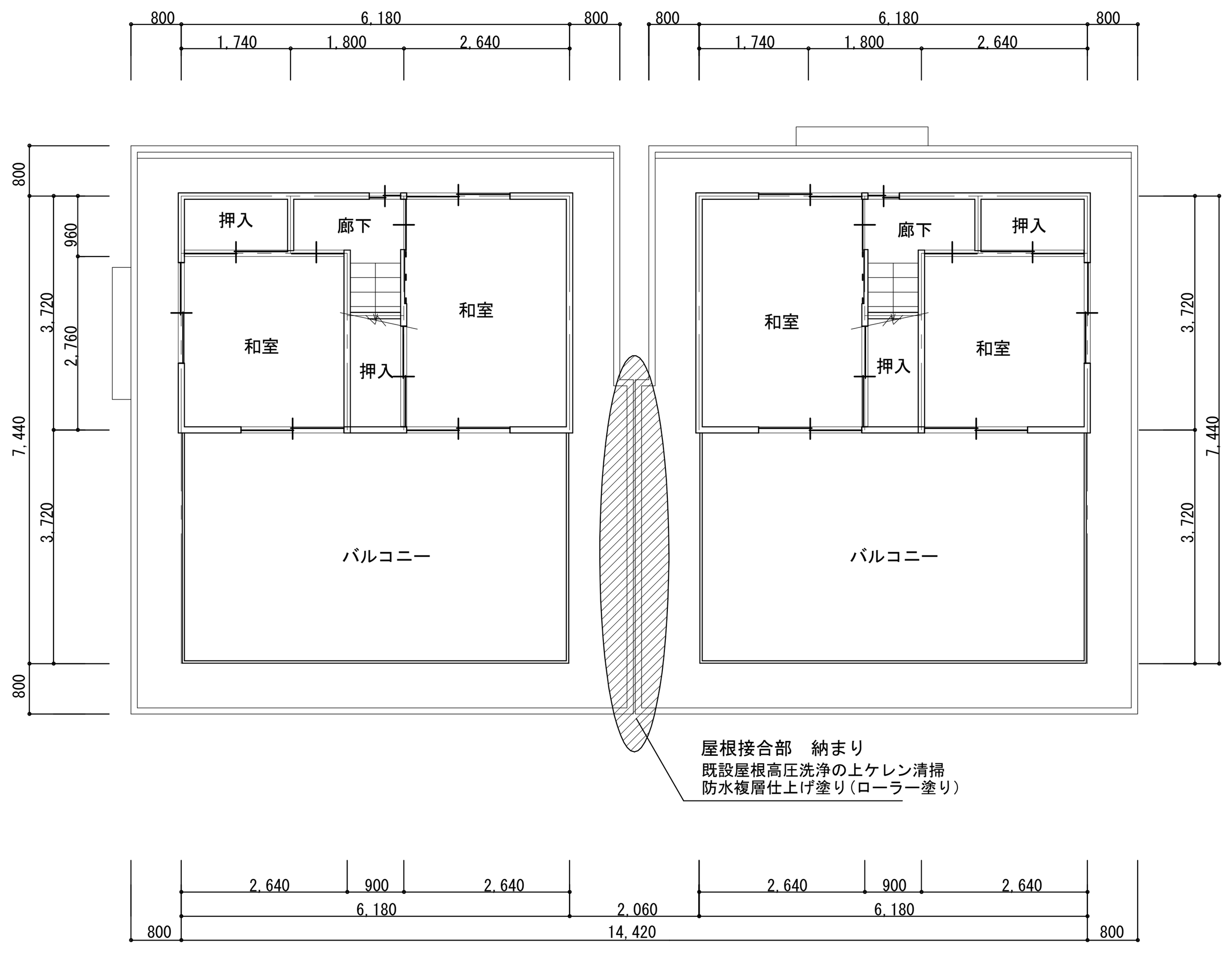


屋根接合部　納まり図　S=1/10

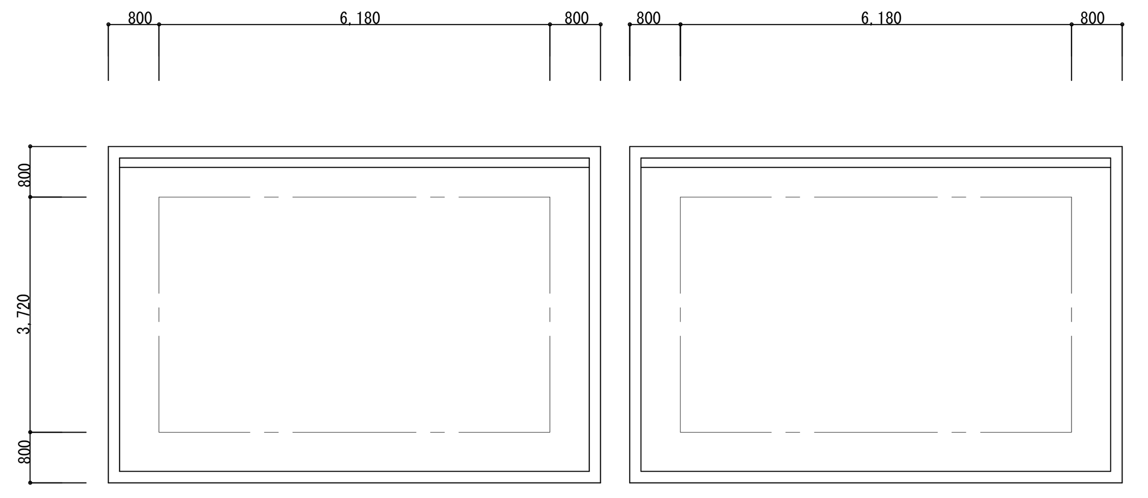
改 修 後



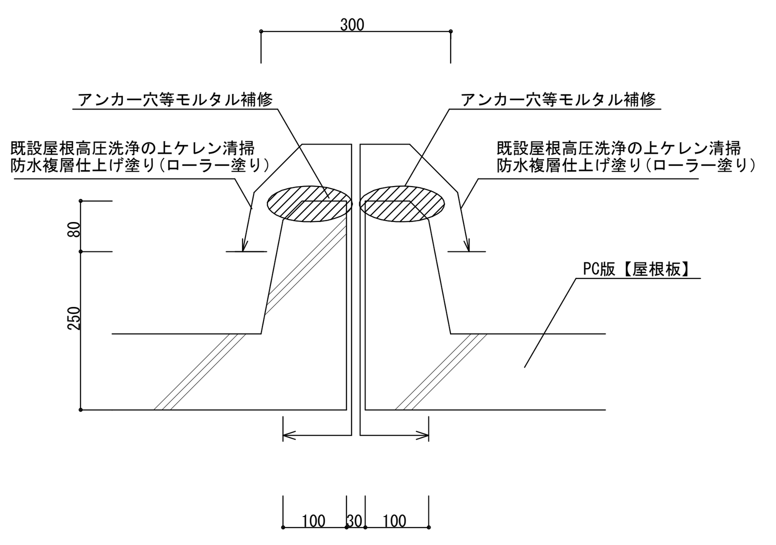
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100



RF 平面図　S=1/100

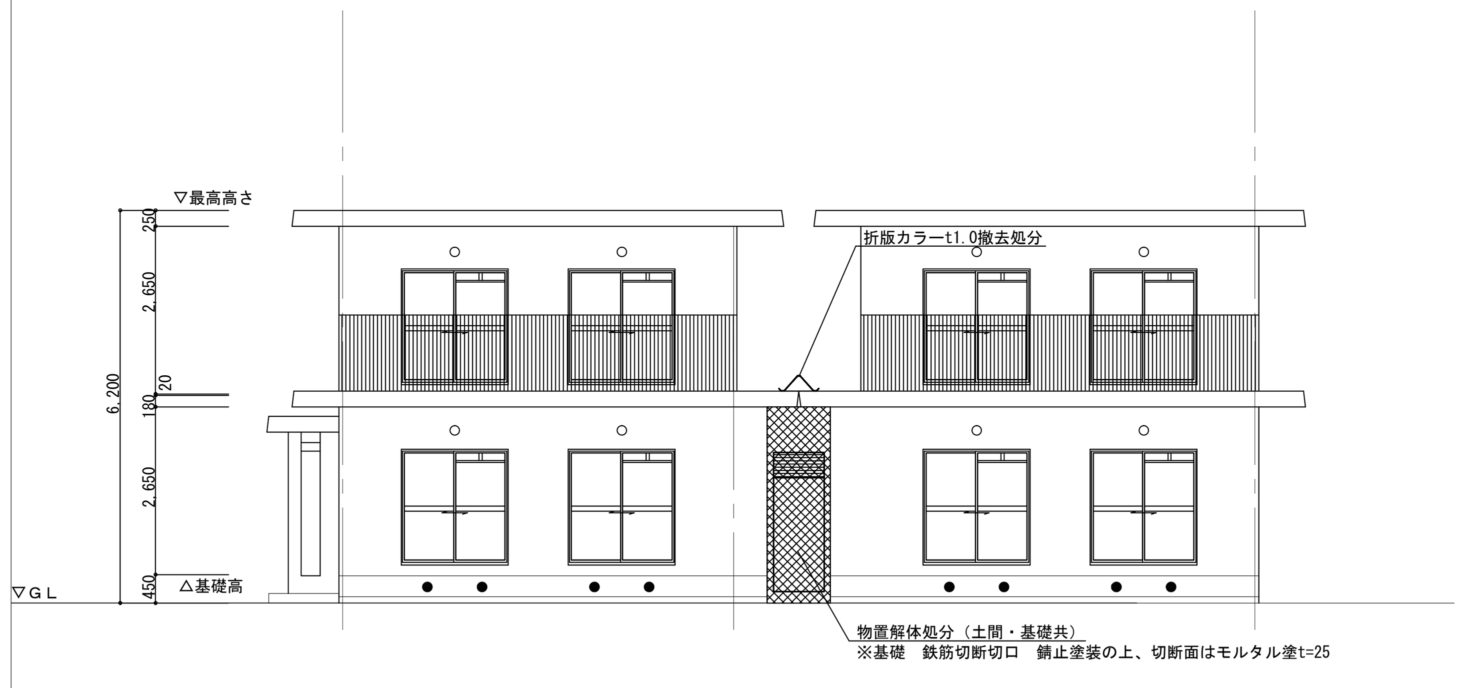


屋根接合部　納まり図　S=1/10

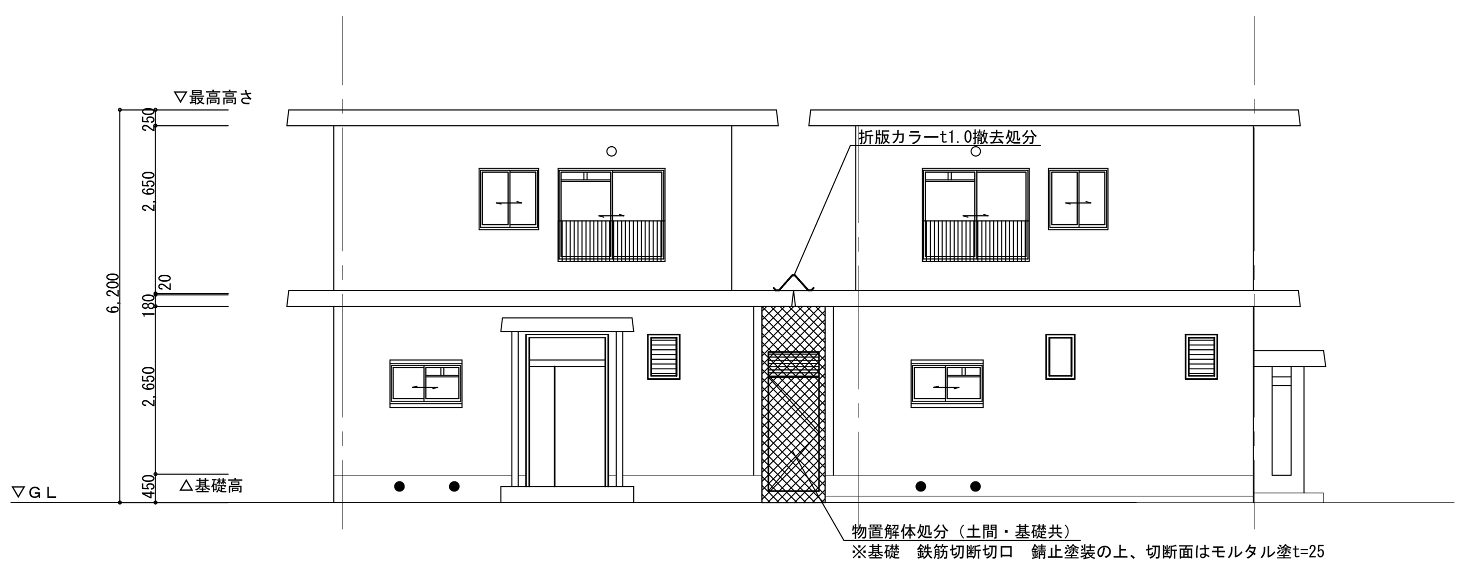
(末広町内団地　5号地・6号地)

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 平成26年　9月　　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事 (その4) 設計図	図面番号 Ｂ－2
				縮 尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図	

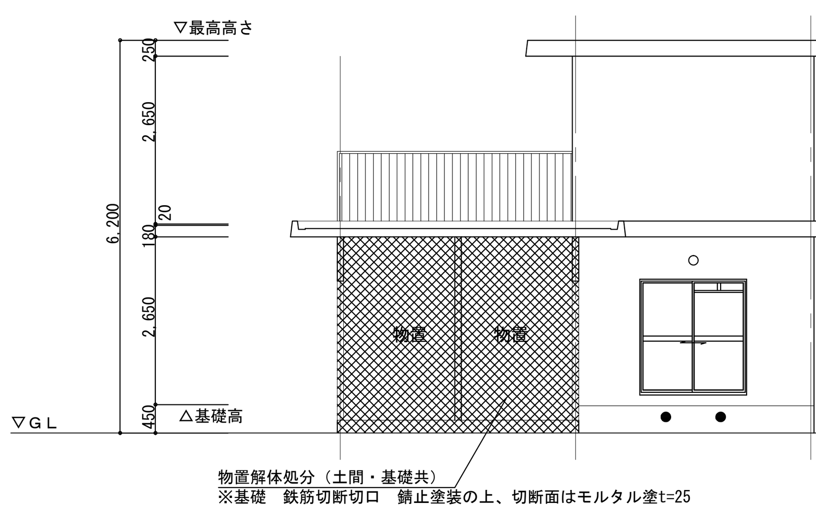
現　況



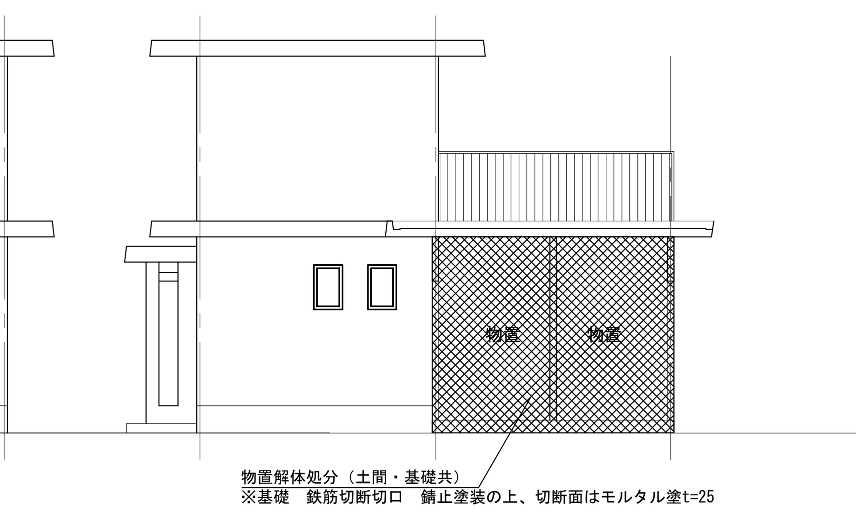
現況立面図　S=1/100



現況立面図　S=1/100

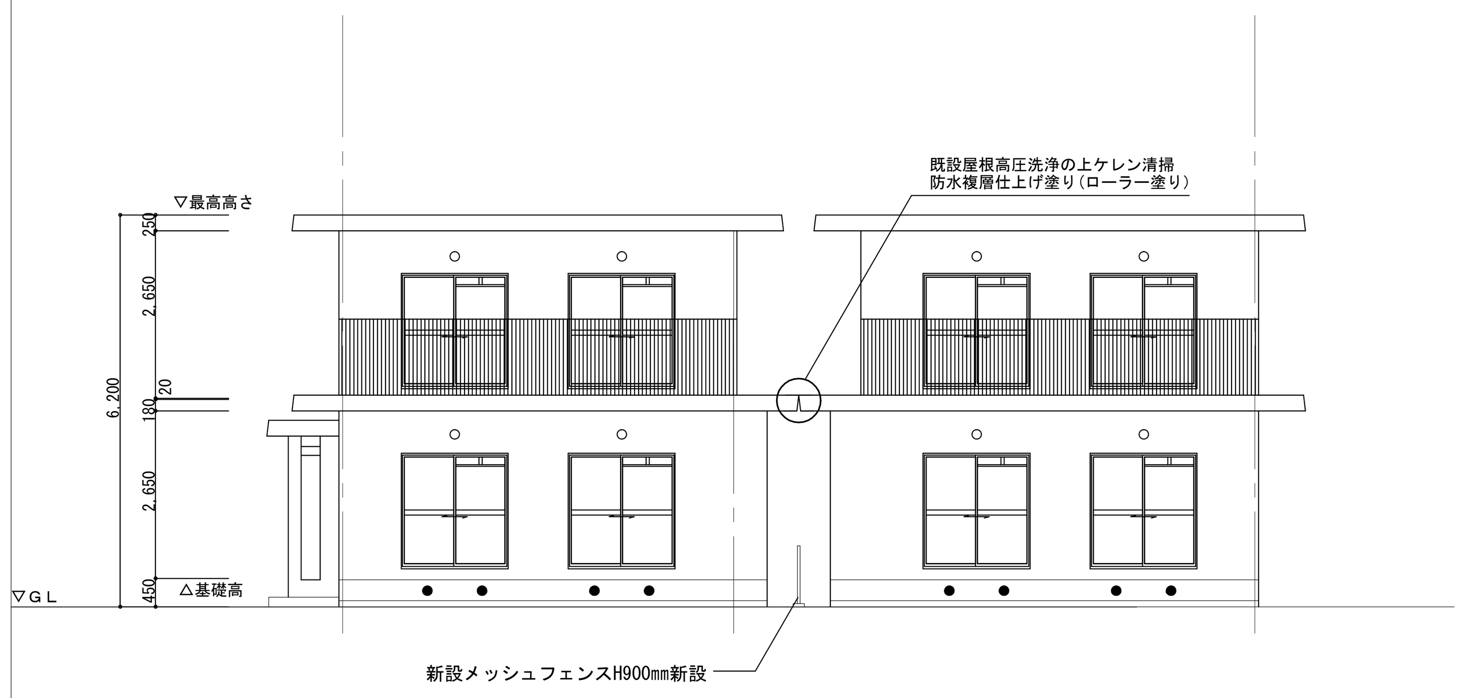


現況立面図　S=1/100

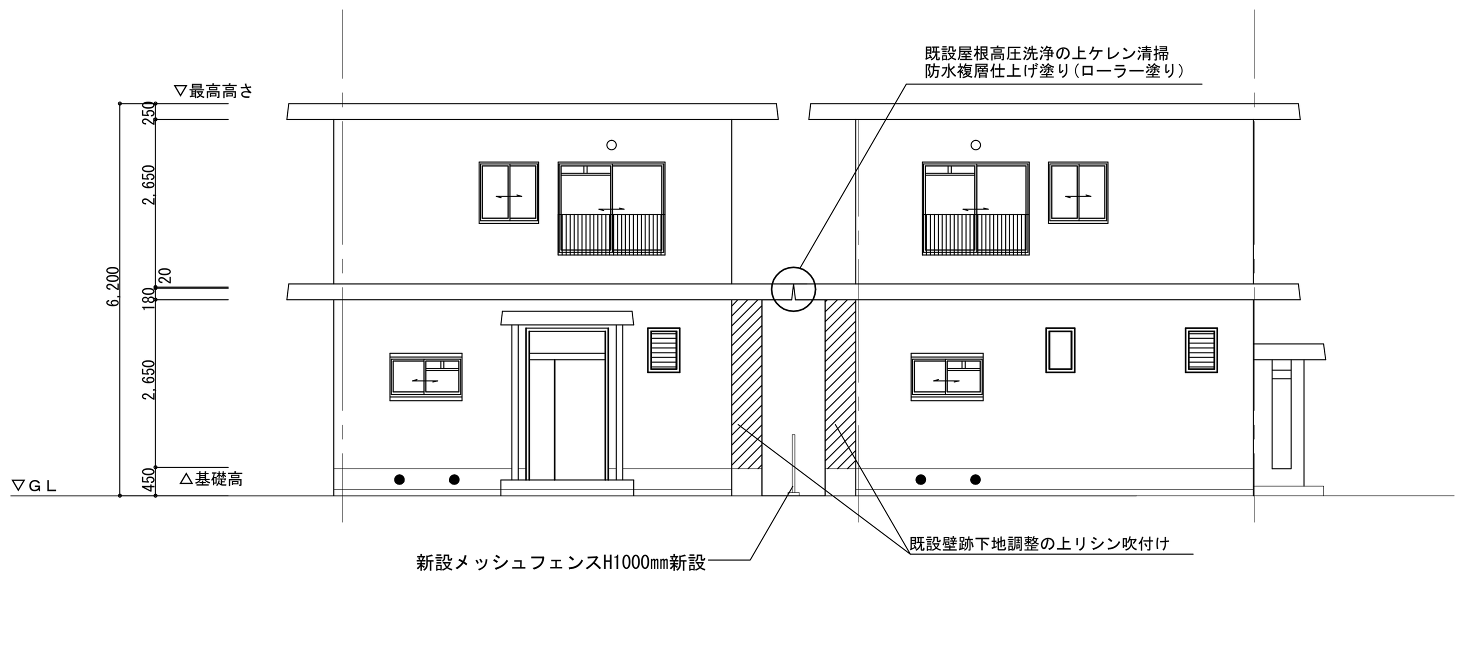


現況立面図　S=1/100

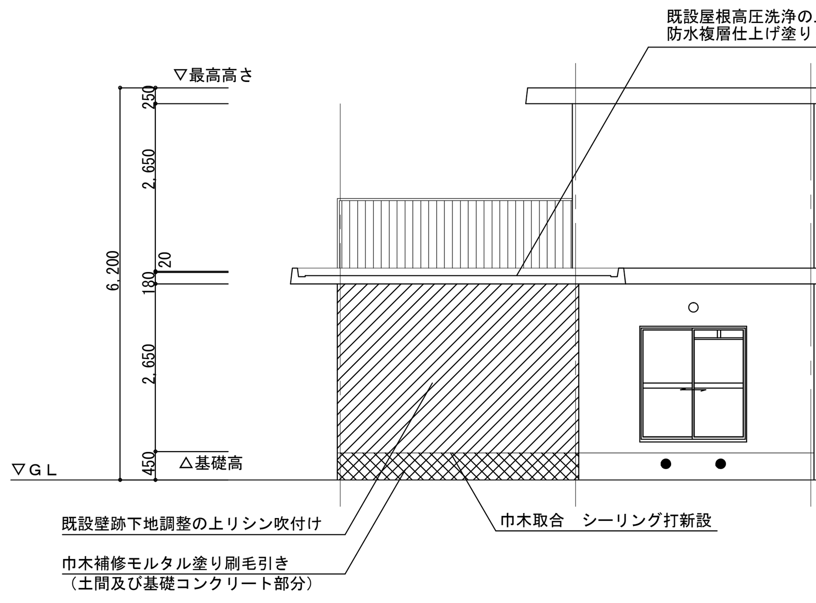
改 修 後



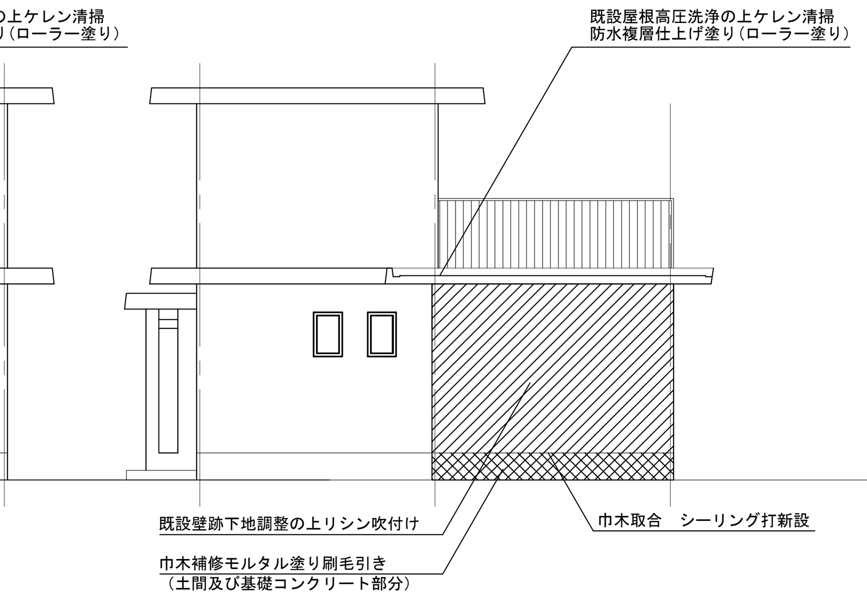
改修後立面図　S=1/100



改修後立面図　S=1/100



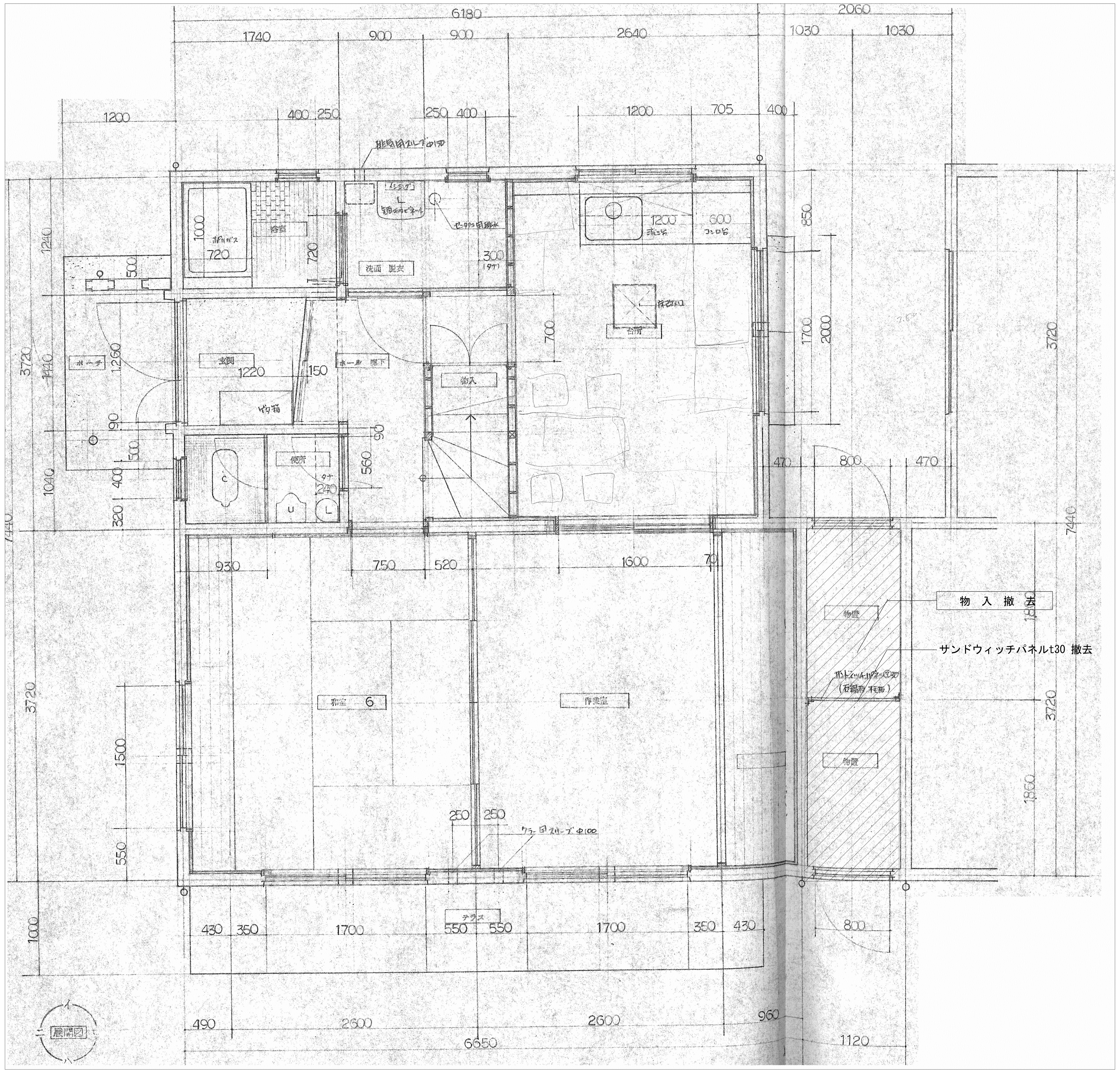
改修後立面図　S=1/100



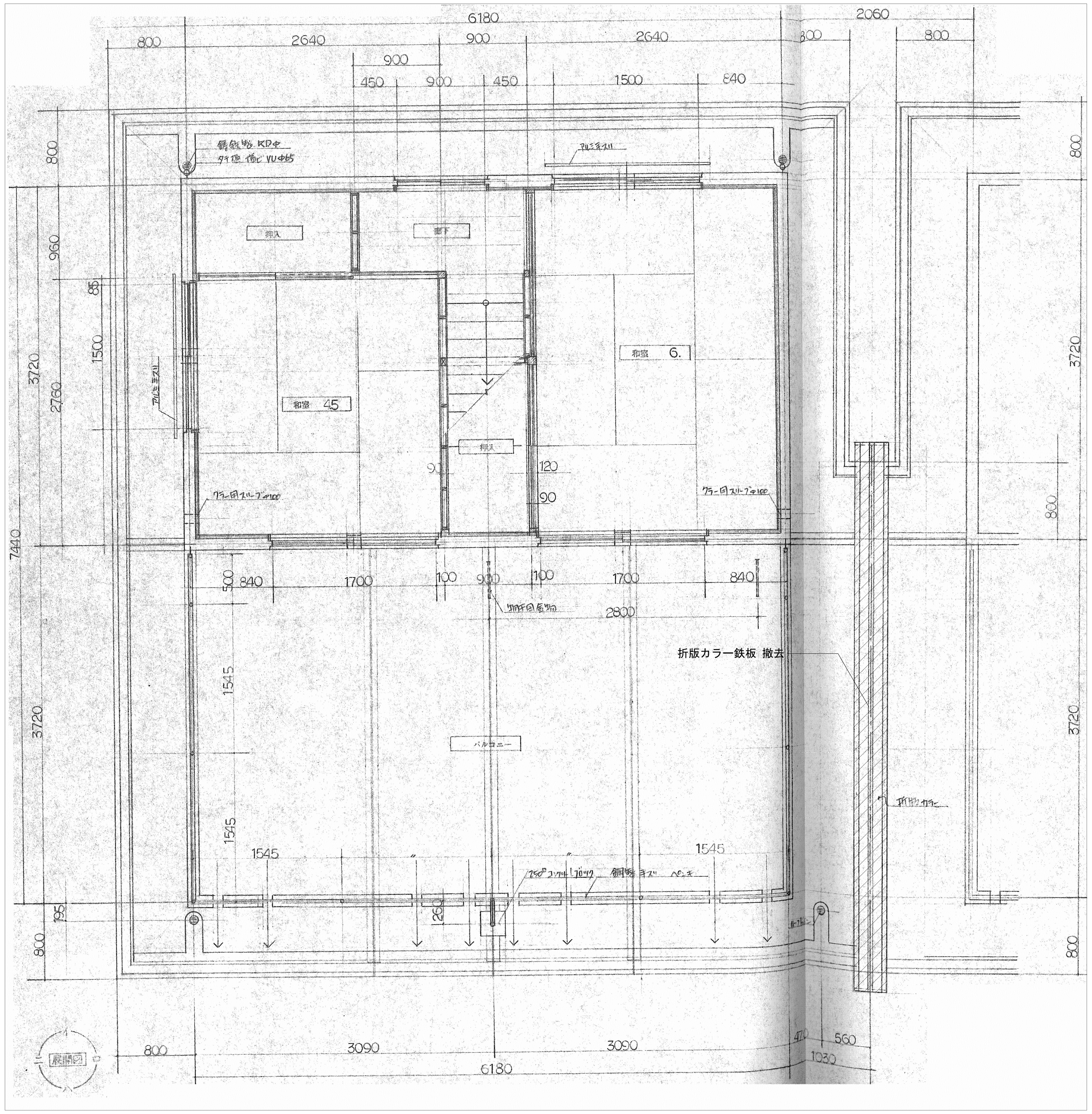
改修後立面図　S=1/100

（末広町内団地　5号地・6号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日 縮尺　A3:1／200　A1:1／100	工事名称　改良住宅(2戸1)　分離工事（その4）設計図 図面名　（参考図）現況・改修立面図 図面番号　Ｂ－3



1階平面詳細図　S=1/30



2階平面詳細図　S=1/30

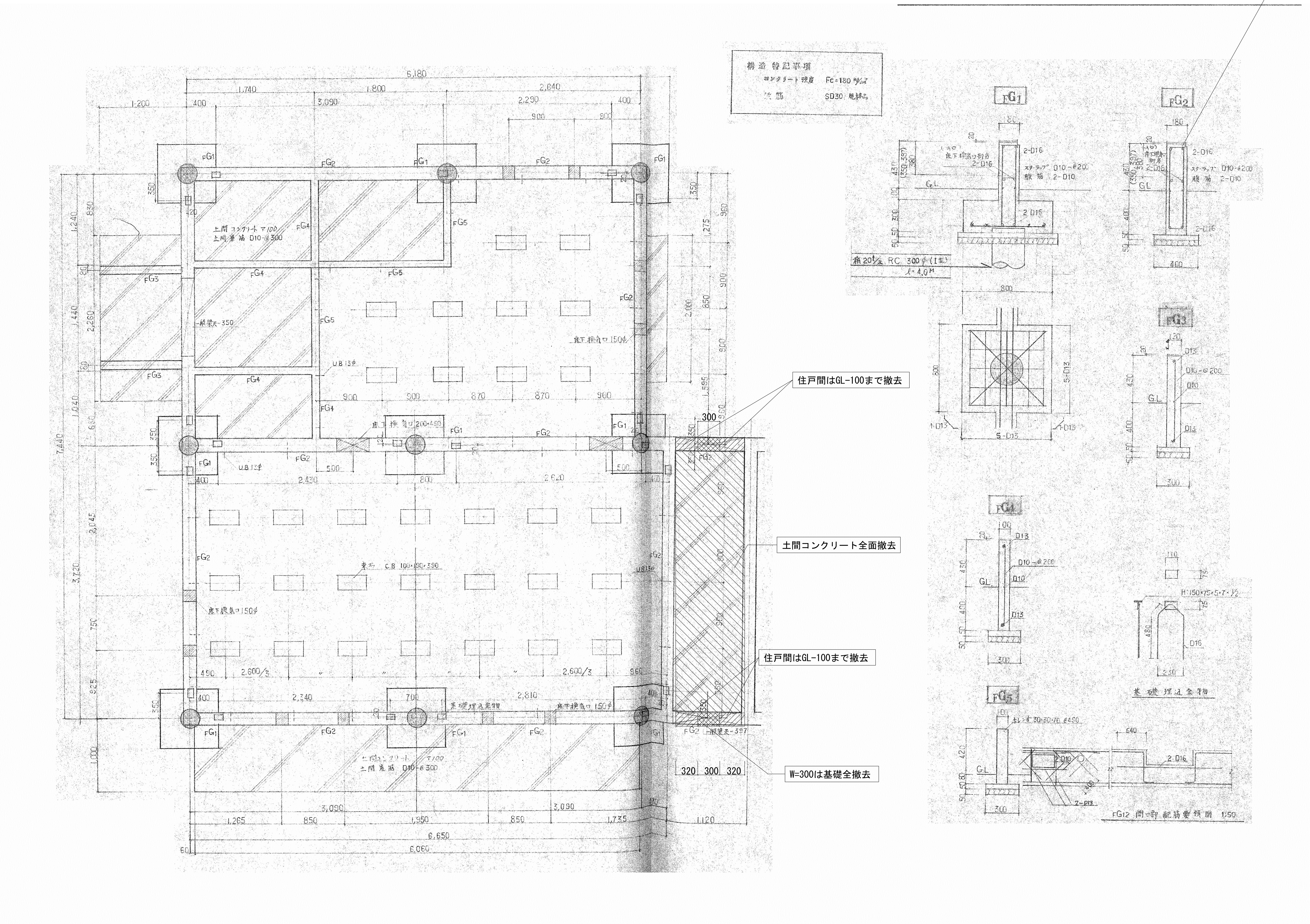
(末広町内団地　5号地・6号地)

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第80805号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図
				縮尺 A3:1／60 A1:1／30	図面名 (参考図)　平面詳細図

図面番号　B－4

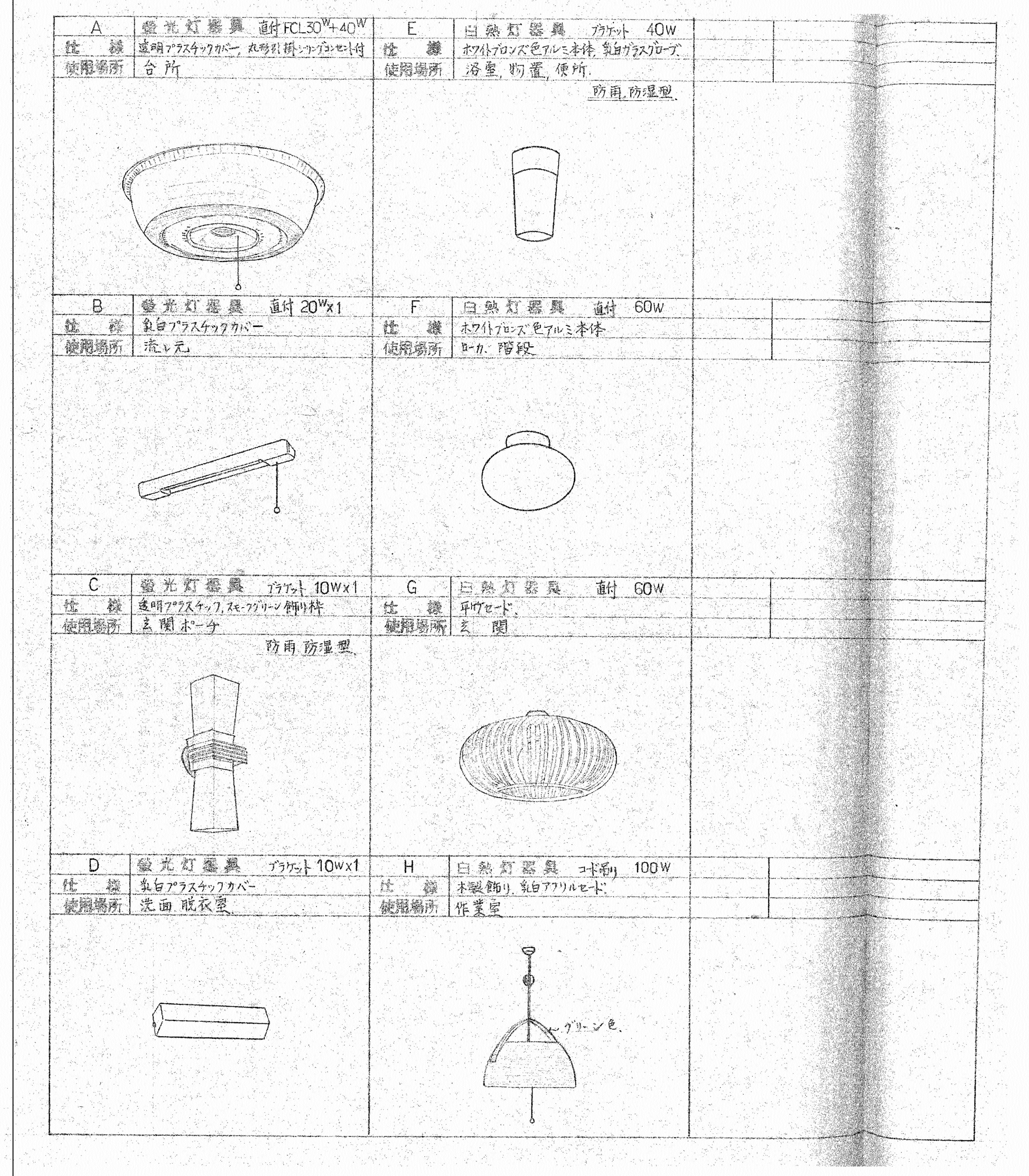
基礎の撤去範囲
住戸間の地中梁の撤去はGL-100までとし、
境界線を中心とするW300の間は全撤去とする。

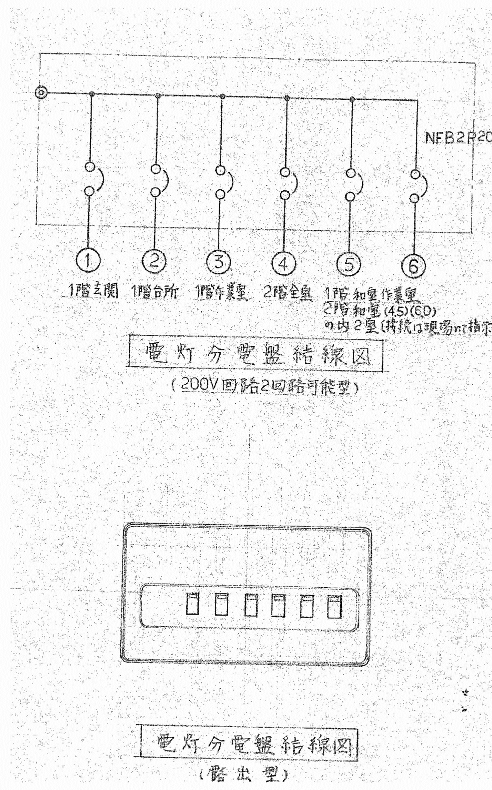
切断面の跡処理
鉄筋見え掛りは錆止塗装、小口はモルタル補修とする。

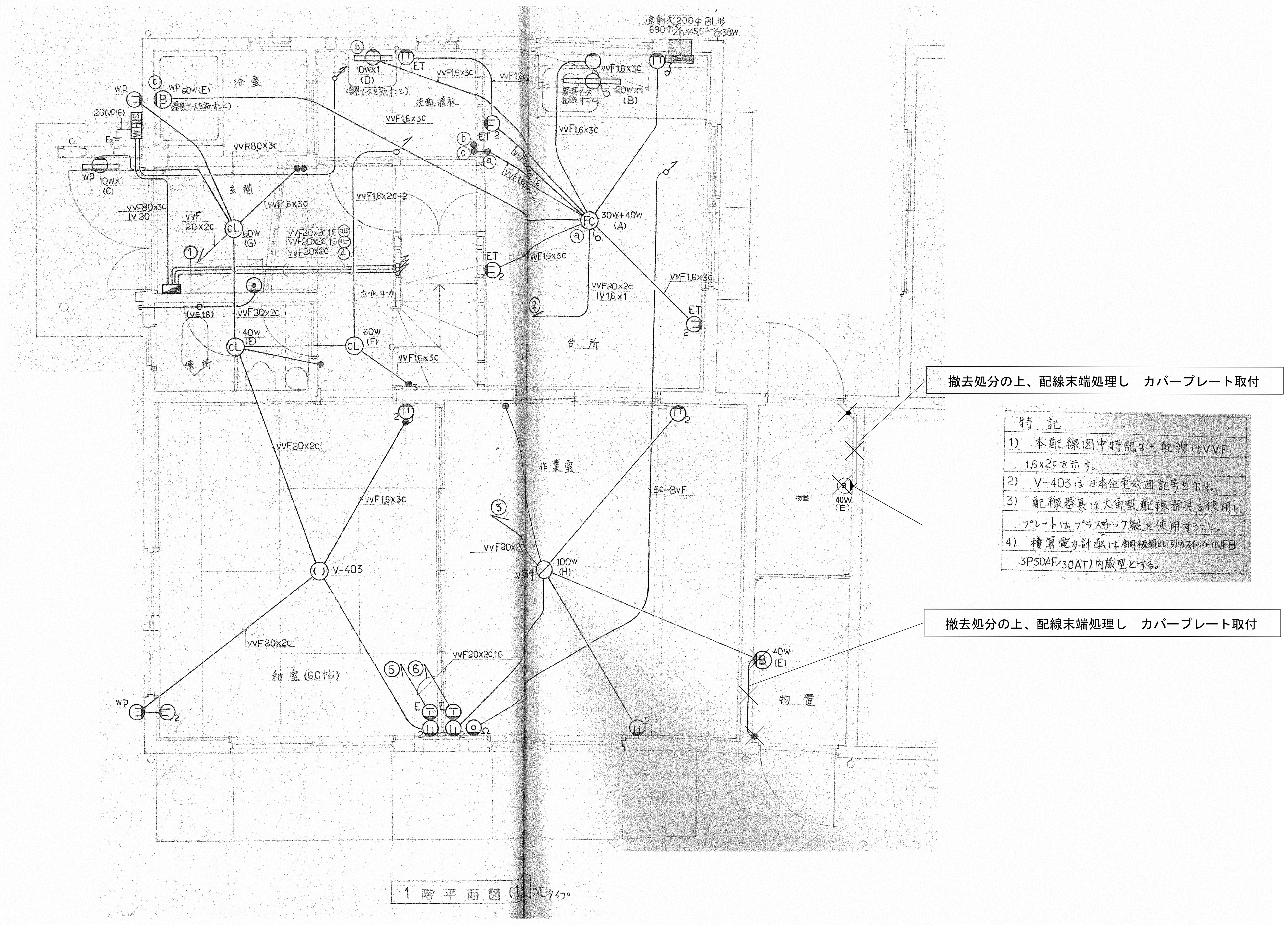


（末広町内団地　5号地・6号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第80805号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号　B－5
				縮尺　A3:1／60　A1:1／30	図面名　（参考図）　基礎伏図・基礎詳細図	



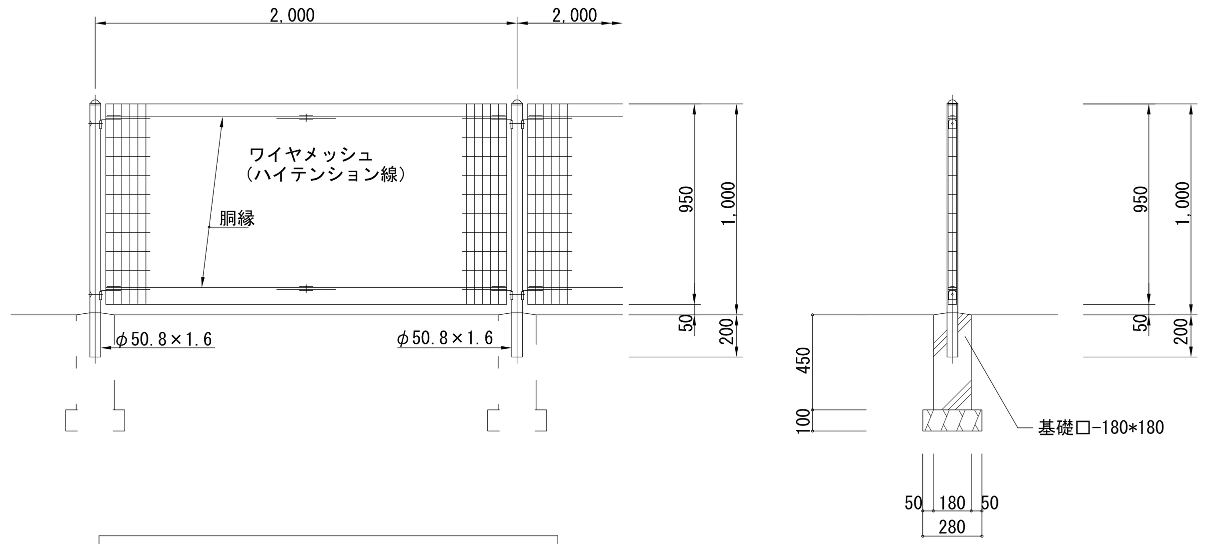




1階電気設備図　S=1/30

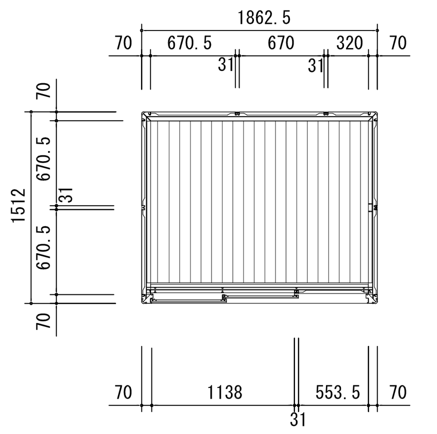
（末広町内団地　5号地・6号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第80805号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日 縮尺　A3:1／60　A1:1／30	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図 図面名　（参考図）　照明器具姿図・電気設備図	図面番号　B－6

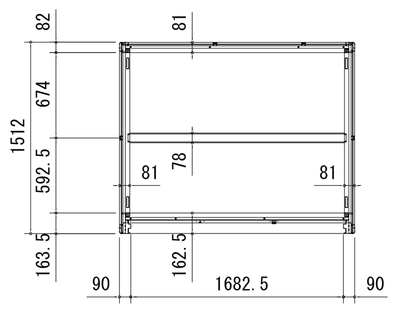


メッシュフェンス詳細　S=1/30

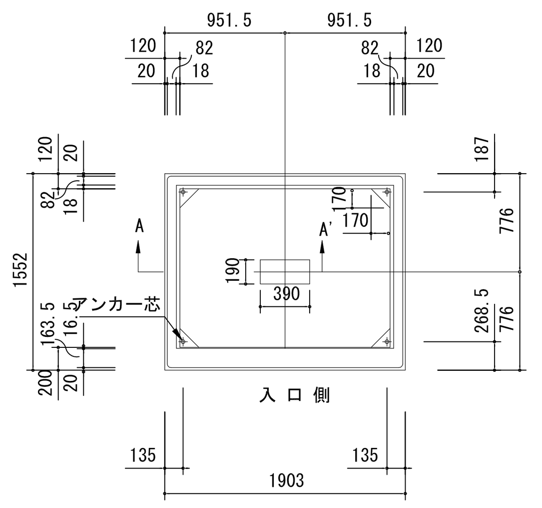
参考品番　A1000-WS 朝日スチール工業



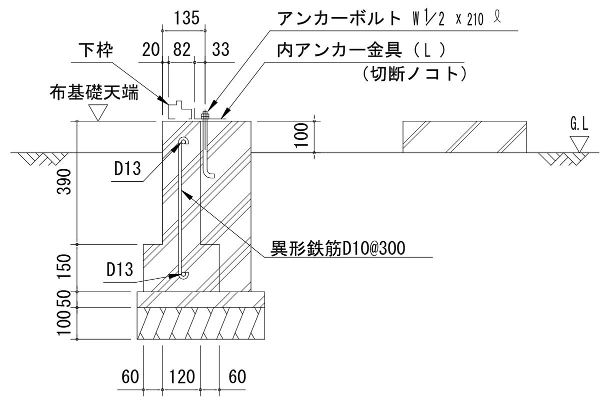
平面図　S=1/50



床伏図　S=1/50



布基礎伏図　S=1/50

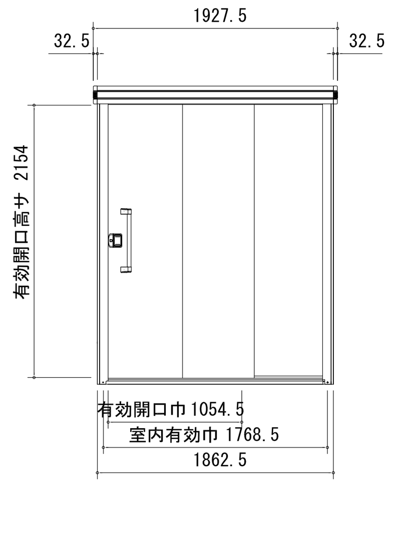


布基礎断面図　S=1/20

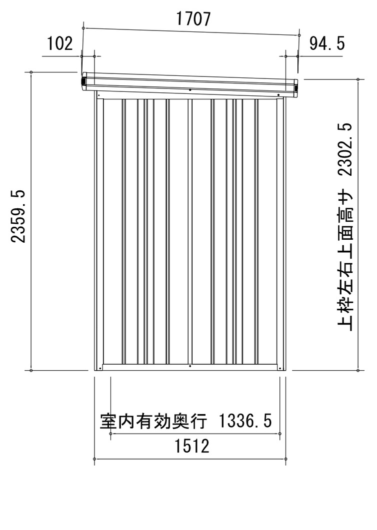
部　材　名	厚さ(m/m)	材　質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床補強	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
<一般型>　もや　A-A2.5	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下枠前（側・後）	1.2 （1.0 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠前（後）	1.0 （0.8 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠左,右	0.6	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 （ツートンカラー）
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	0.5	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 （ツートンカラー）
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
扉	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁パネル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
袖壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
アンカープレート（L）	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板（後塗装仕上げ）

部　材　名	サイズ（巾×高サ）
扉前　H-C	599　×　2178
扉後　H-C	599　×　2178
壁パネル　H-A	670　×　2110
壁パネル　H-F	319.5　×　2110
袖壁　H-C	553　×　2149

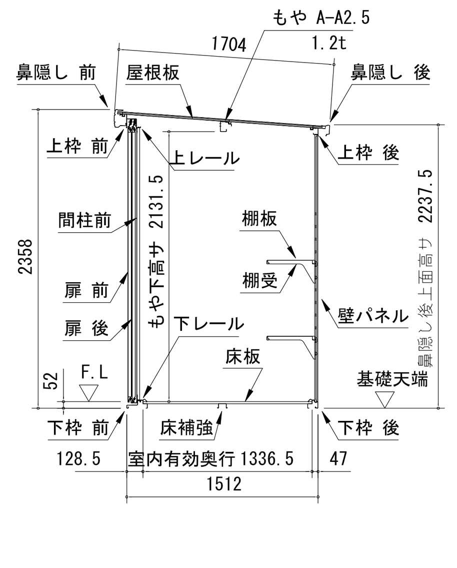
参考品番　ヨド物置　　本体 棚２段付 LMD-1815H（一般型）
結露低減材付屋根



正面立面図　S=1/50



側面立面図　S=1/50

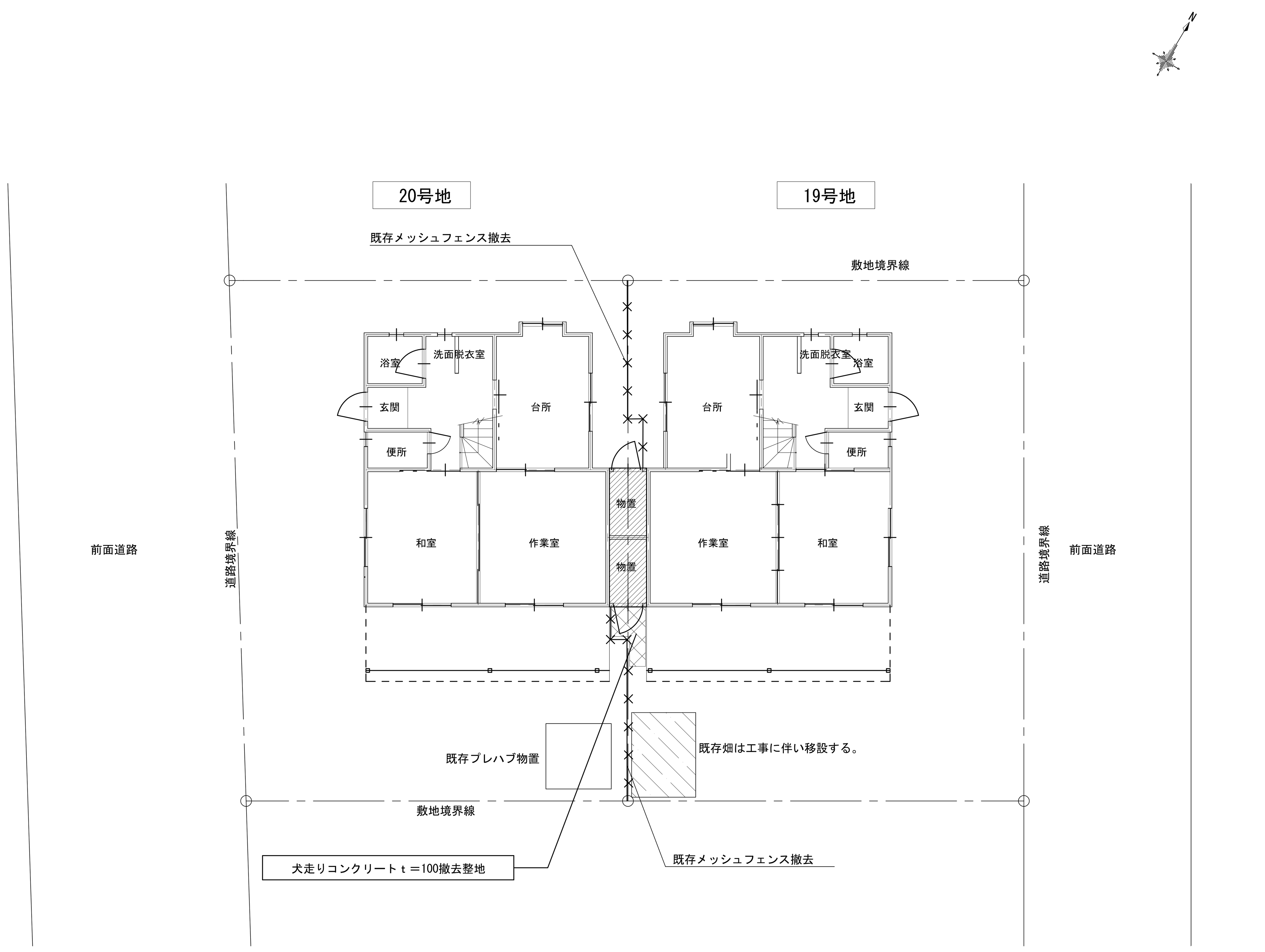


矩計図　S=1/50

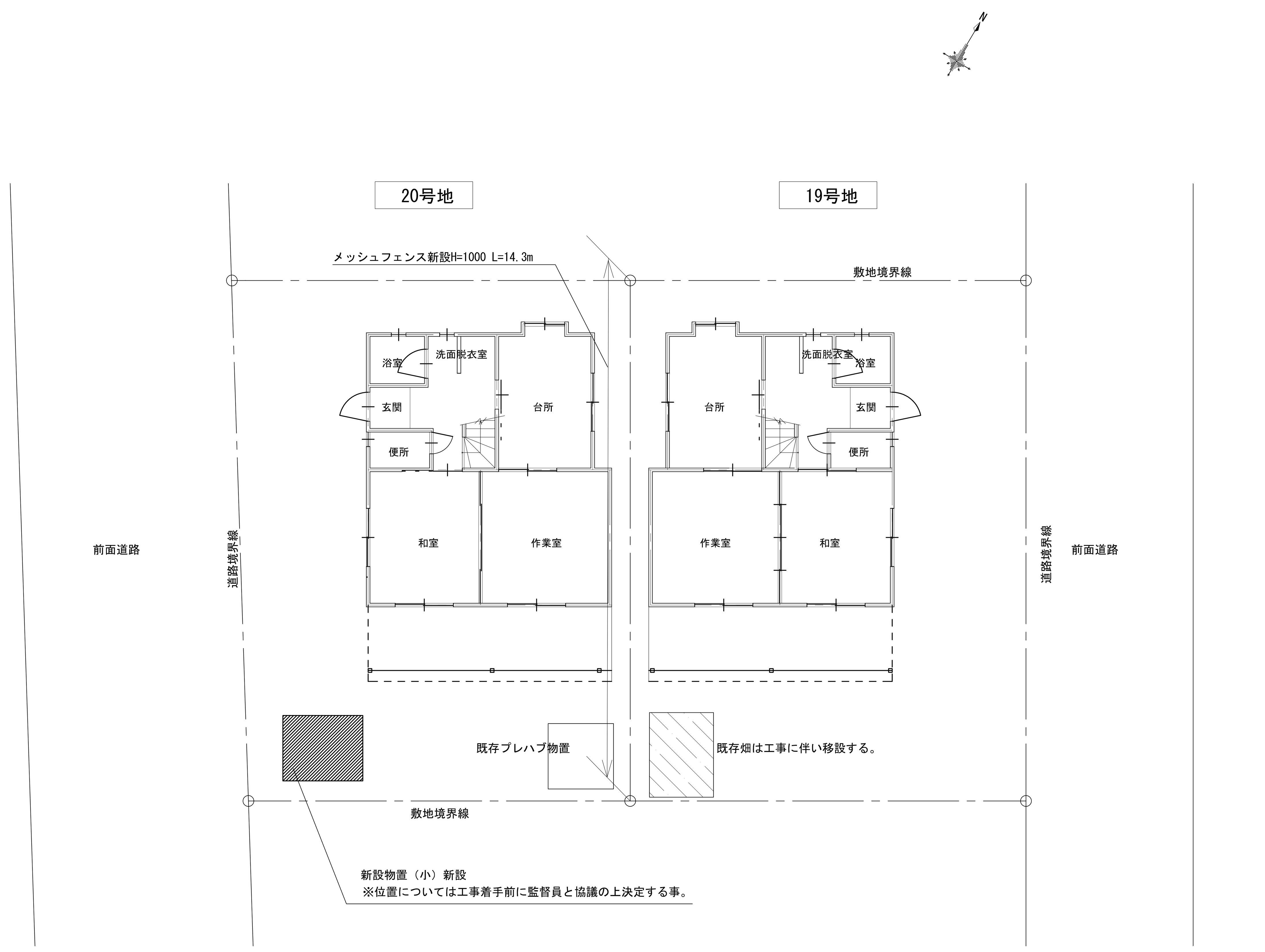
（末広町内団地　5号地・6号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　　日 縮尺　A3:1/40,1/100　A1:1/20,1/50	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図 図面名　（参考図）新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図	図面番号　B－7

八幡団地　19号地・20号地



現況配置図

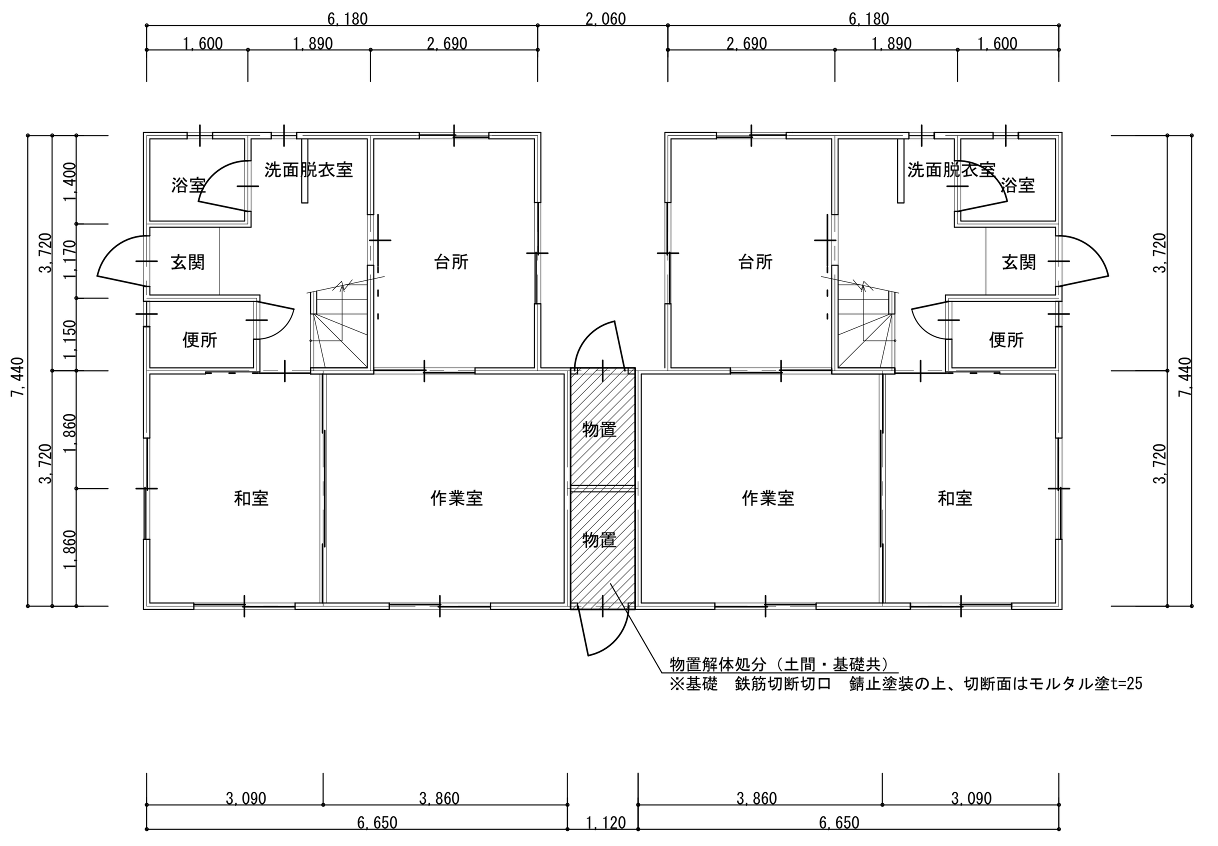


改修後配置図

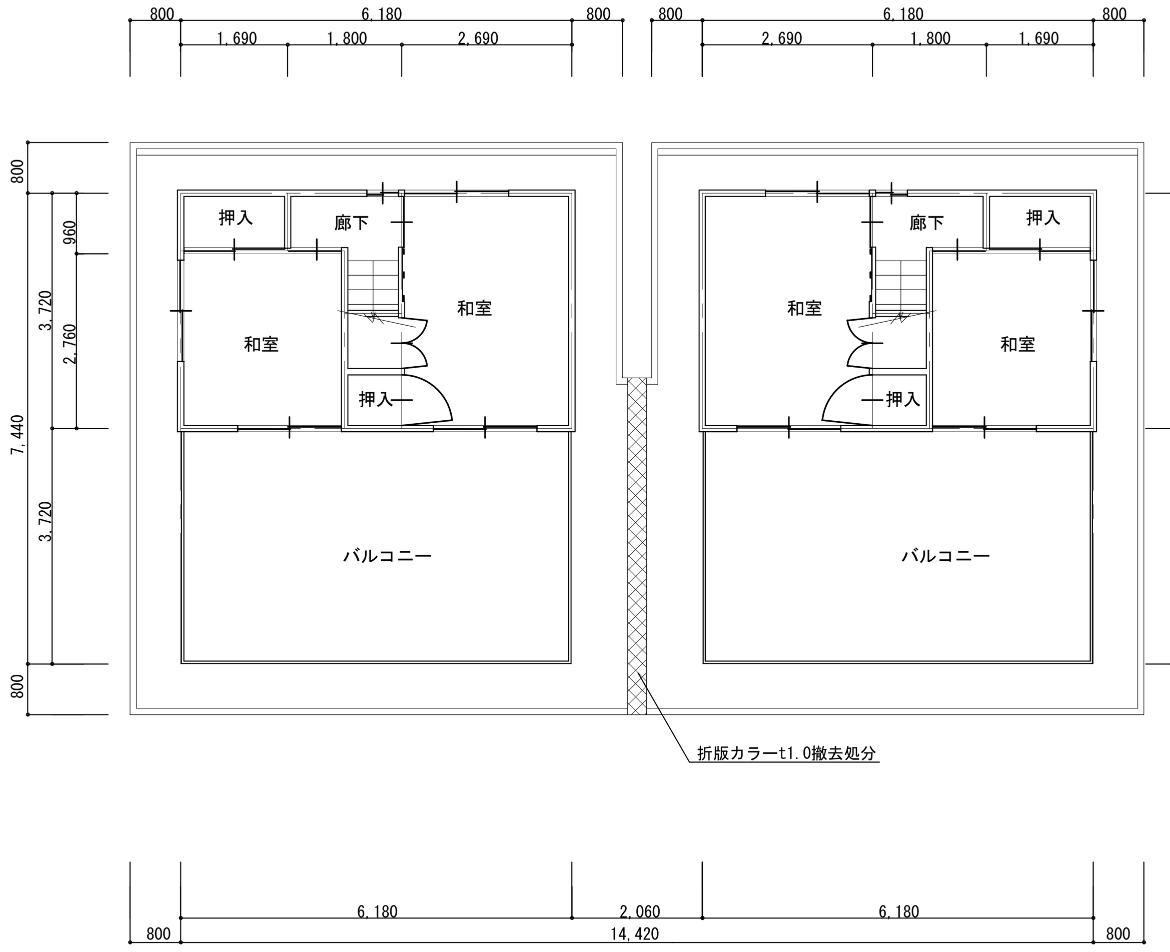
（八幡団地　19号地・20号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 C－1
				縮尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）配置図	

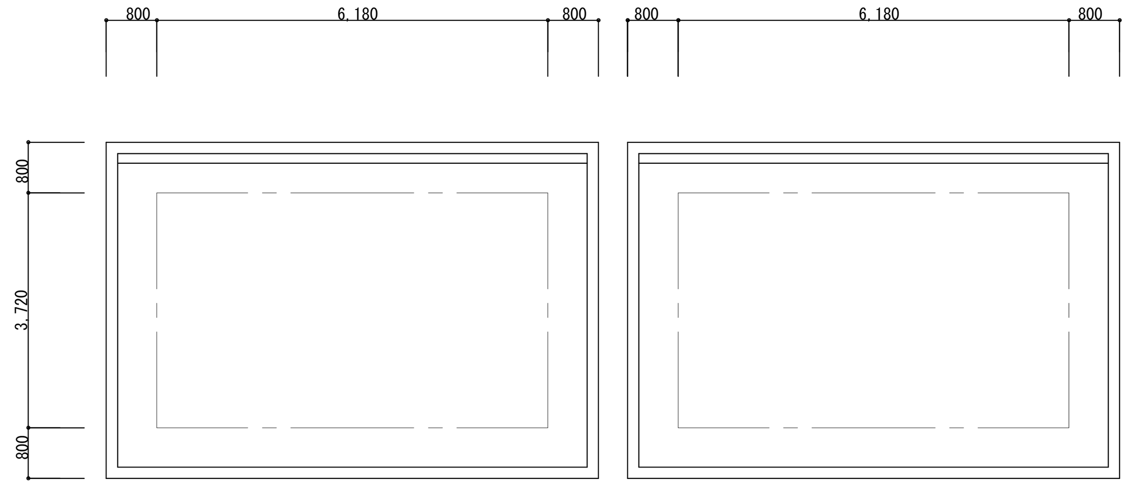
現　況



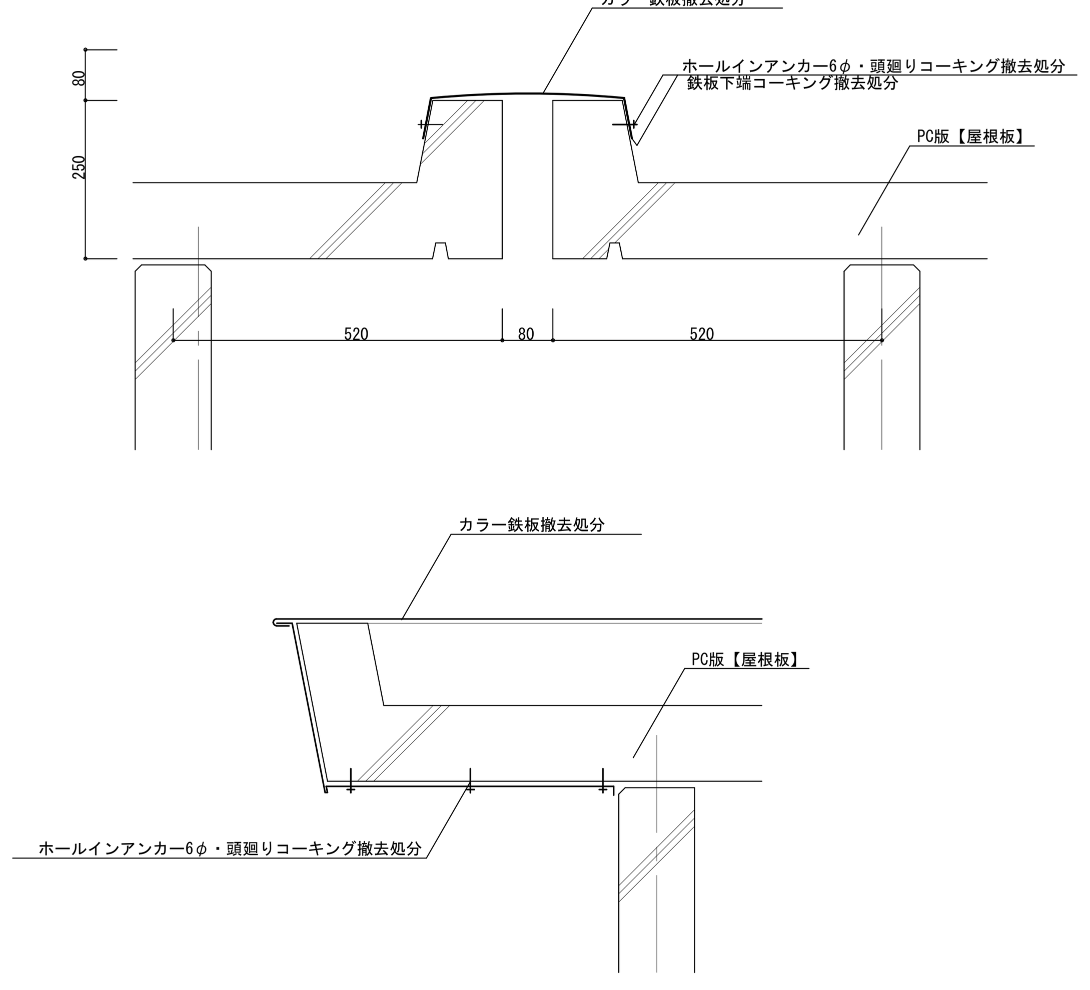
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100

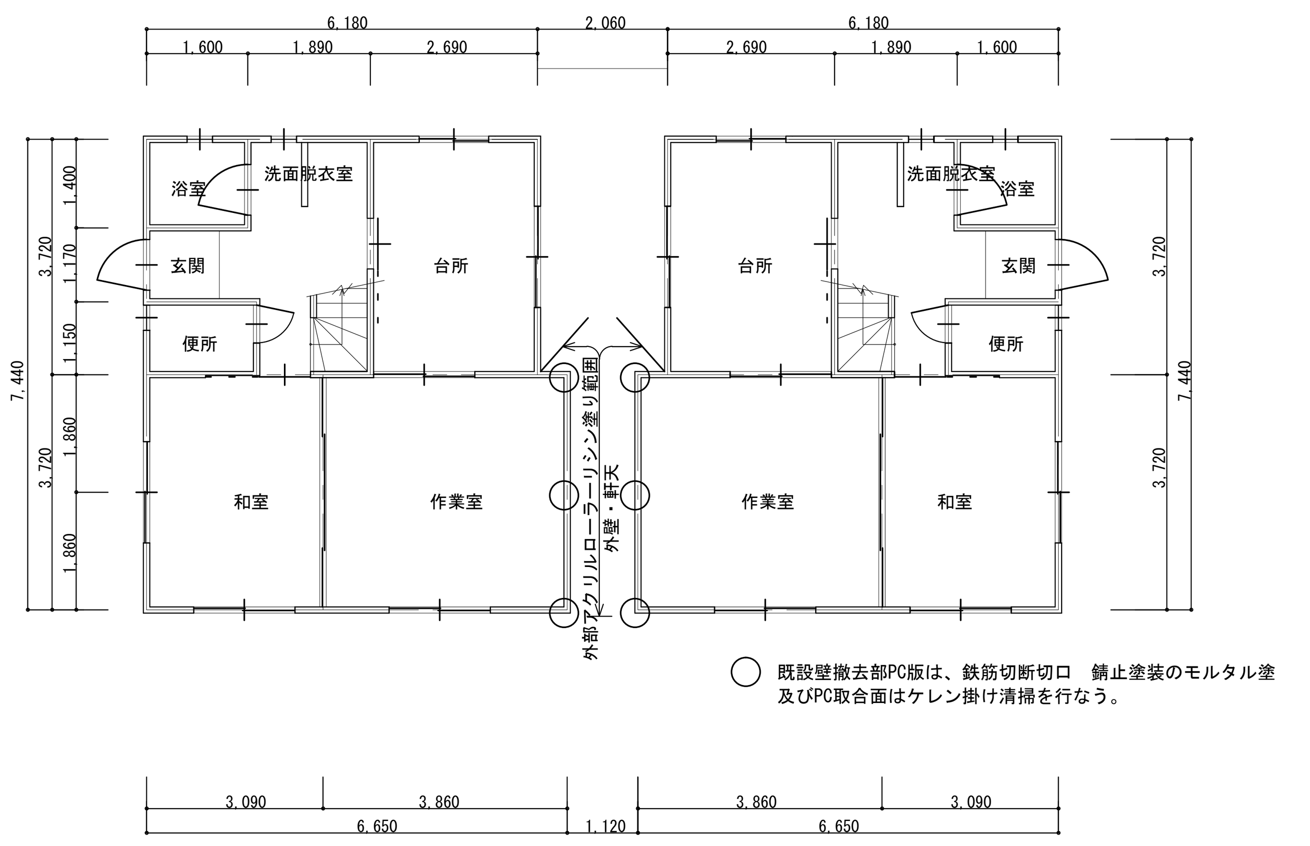


RF 平面図　S=1/100

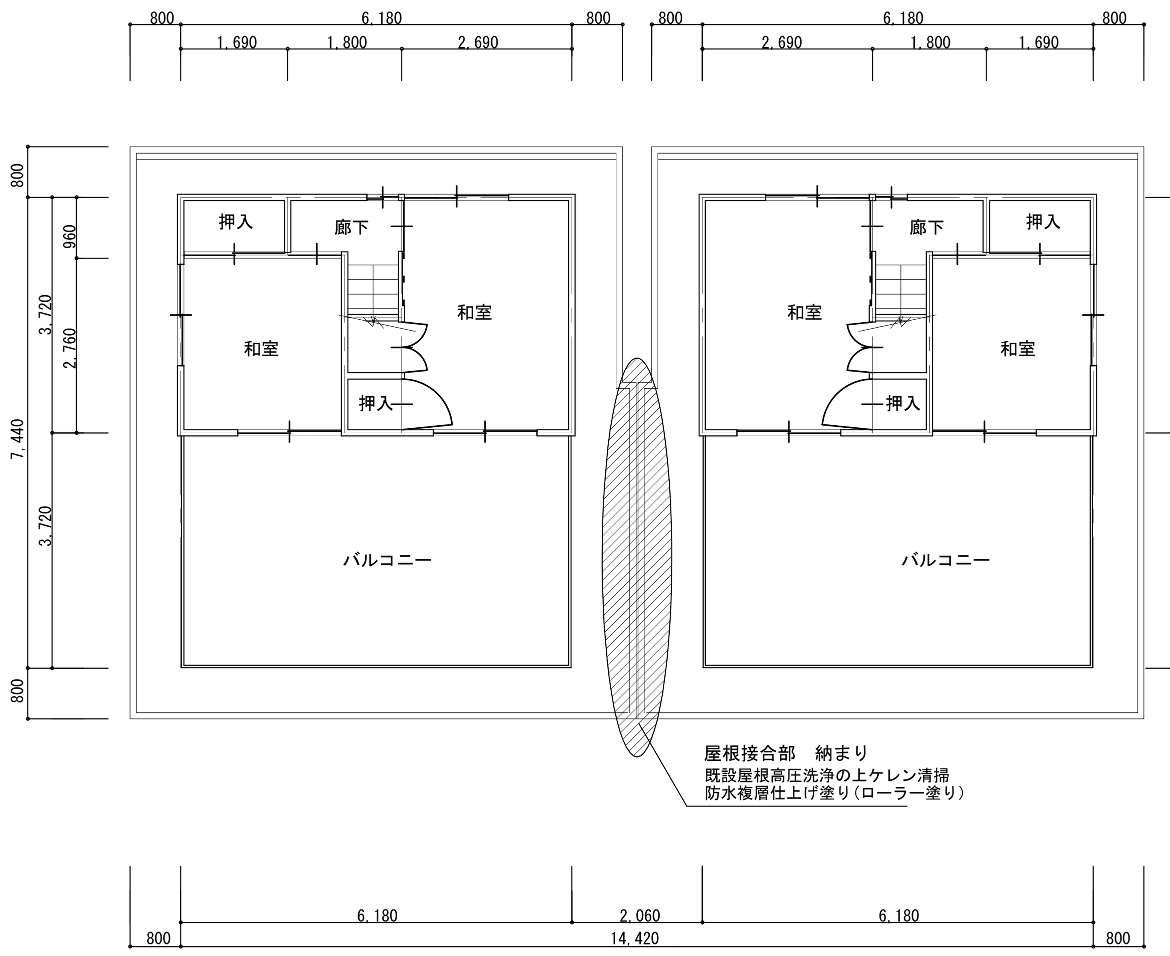


屋根接合部　納まり図　S=1/10

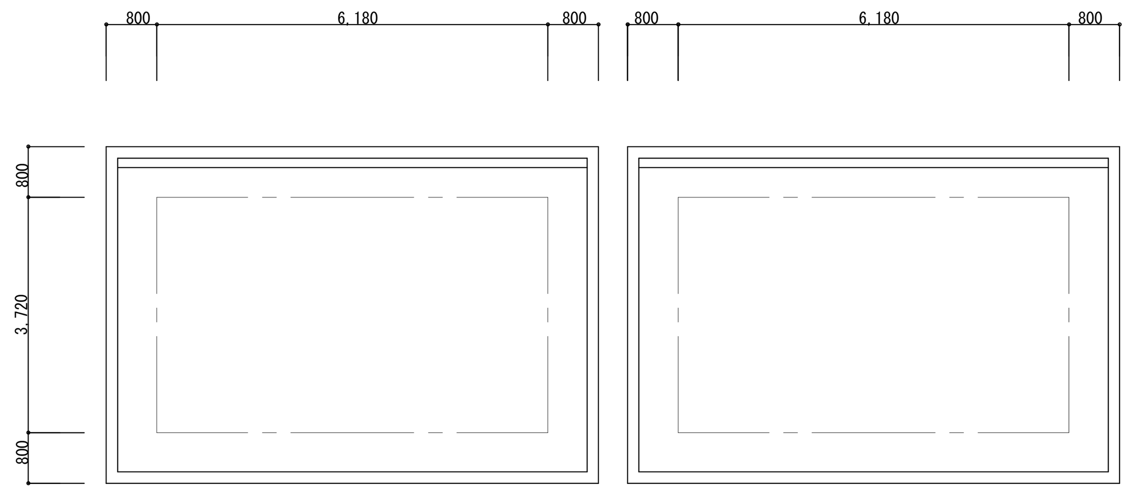
改 修 後



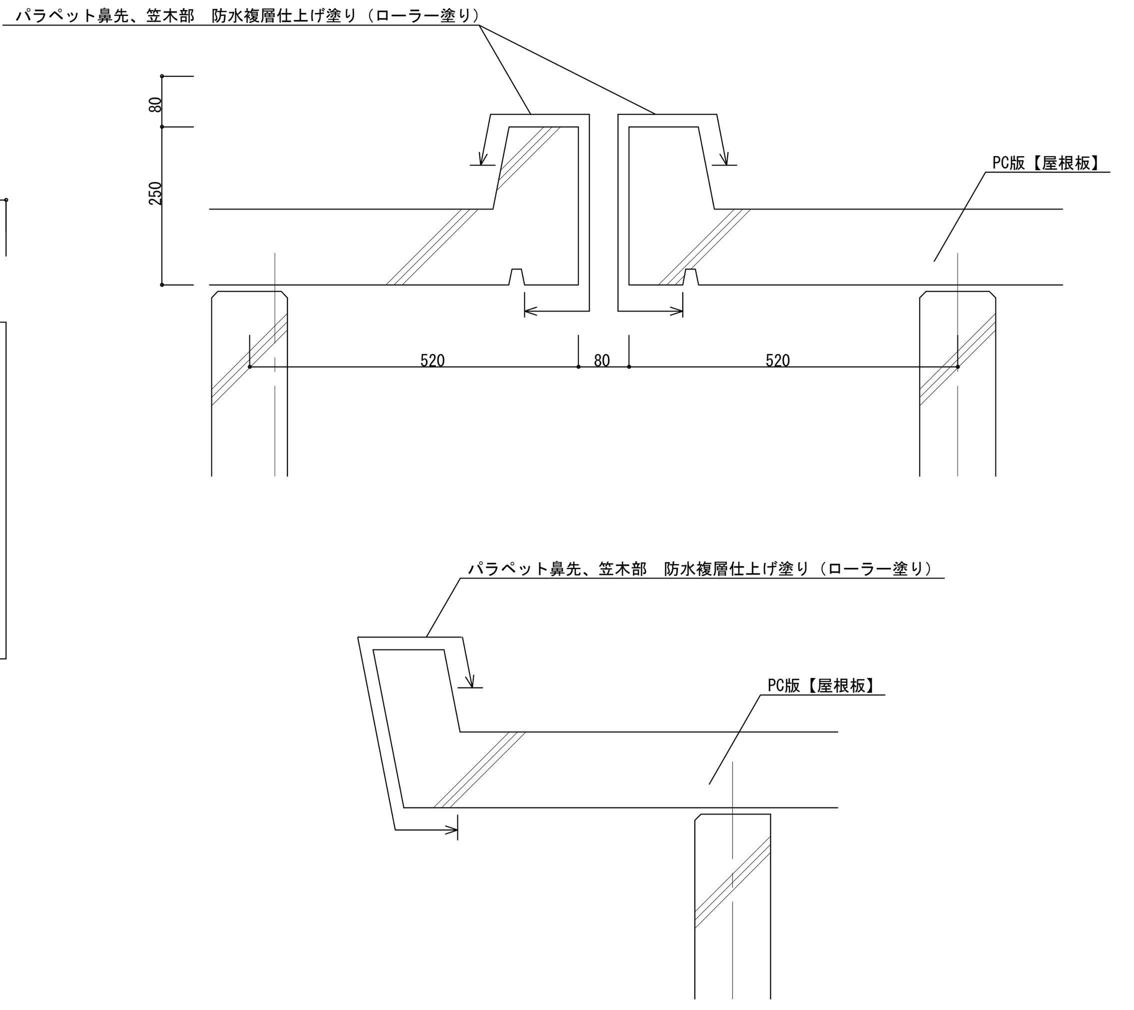
1階 平面図　S=1/100



2階 平面図　S=1/100



RF 平面図　S=1/100

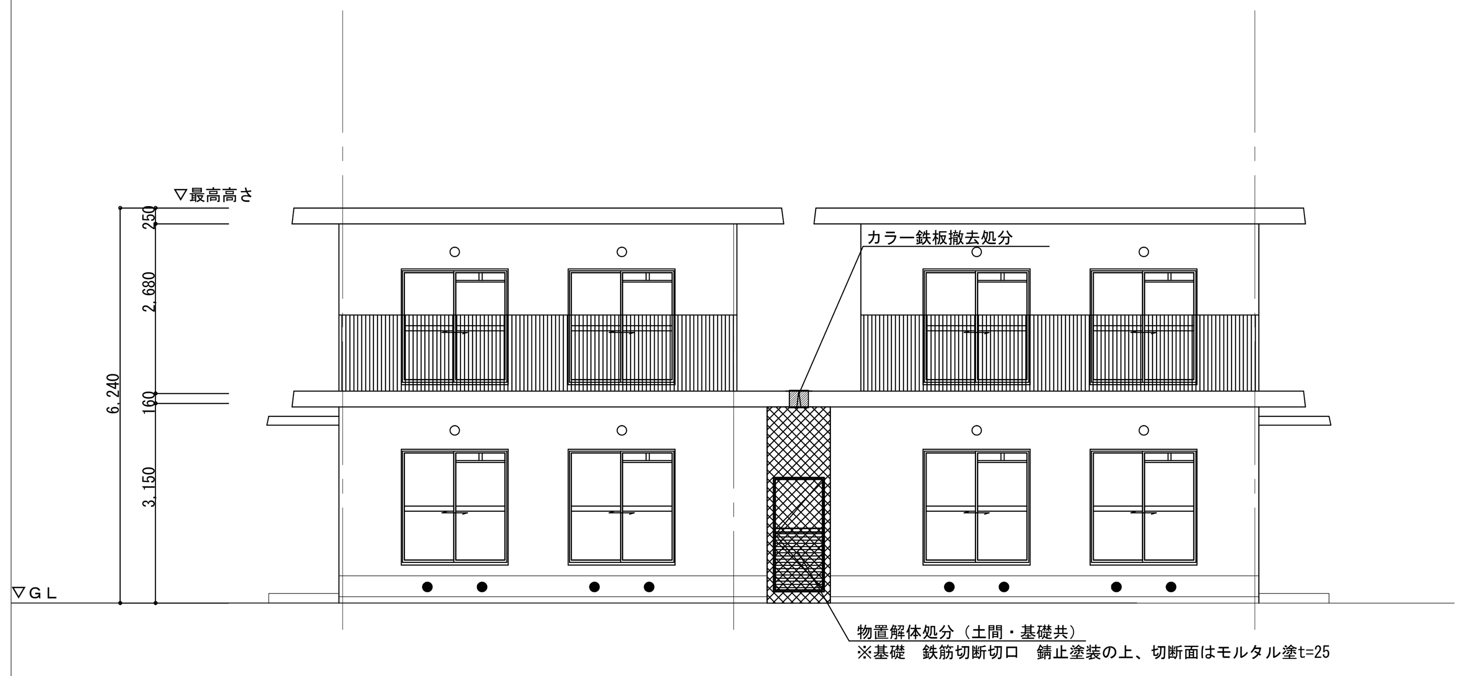


屋根接合部　納まり図　S=1/10

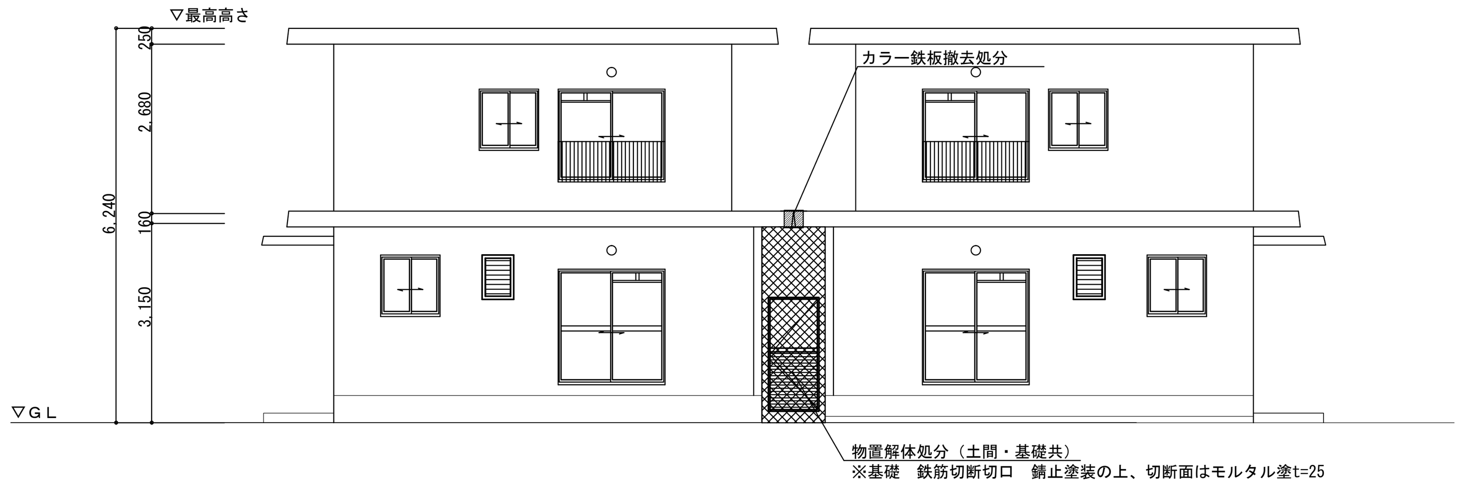
（八幡団地　19号地・20号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 平成26年　9月　　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 C－2
				縮 尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）現況・改修平面図　屋根接合部納まり図	

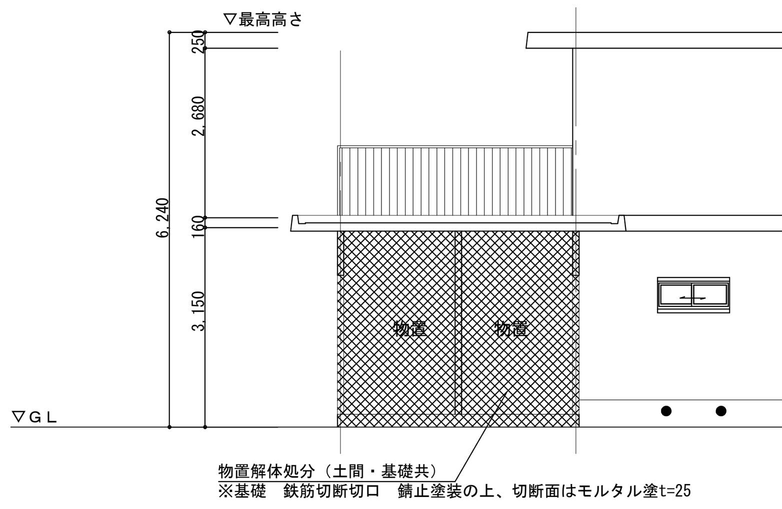
現　況



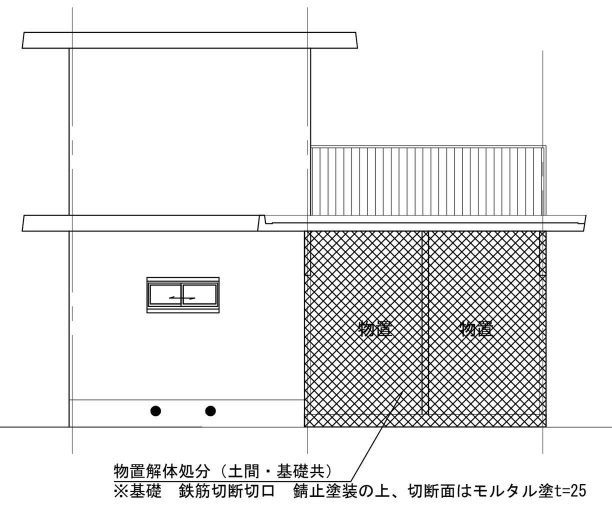
現況立面図　S=1/100



現況立面図　S=1/100

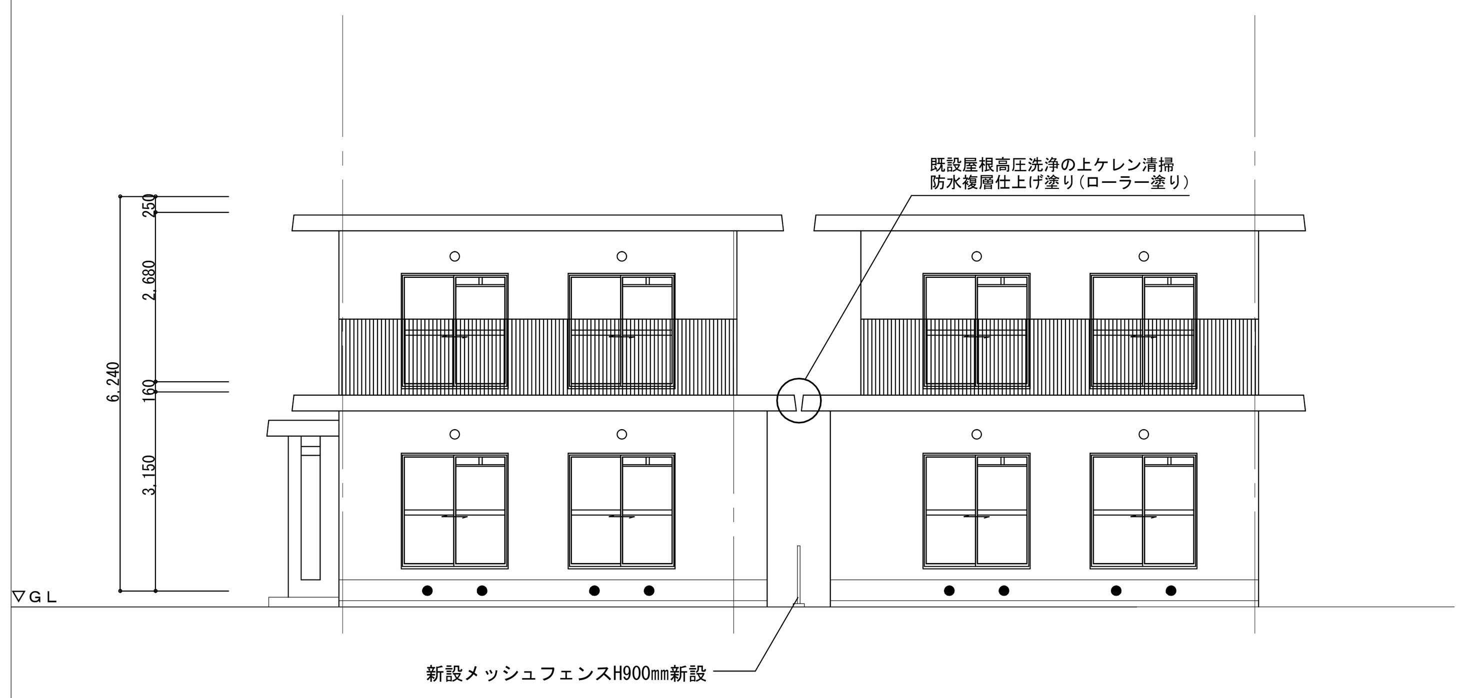


現況立面図　S=1/100

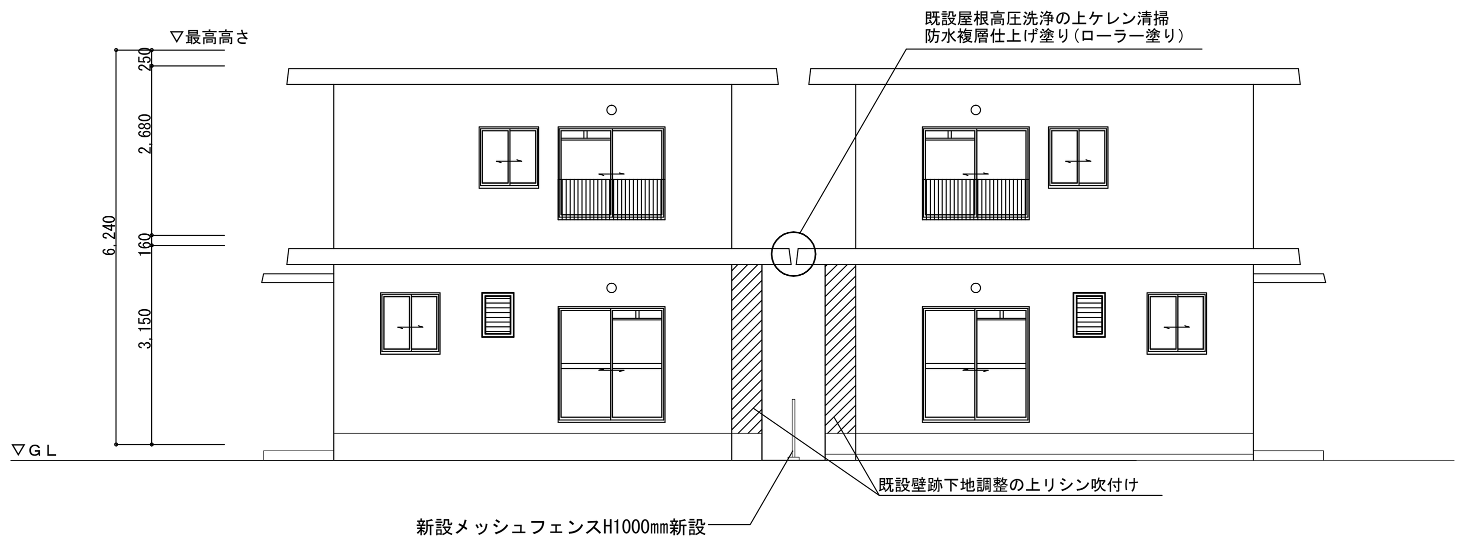


現況立面図　S=1/100

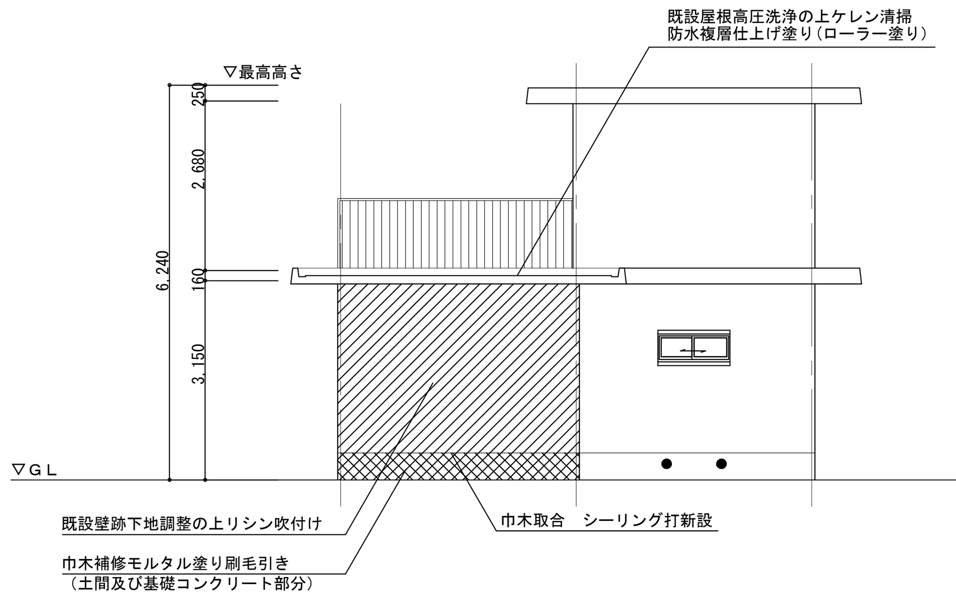
改 修 後



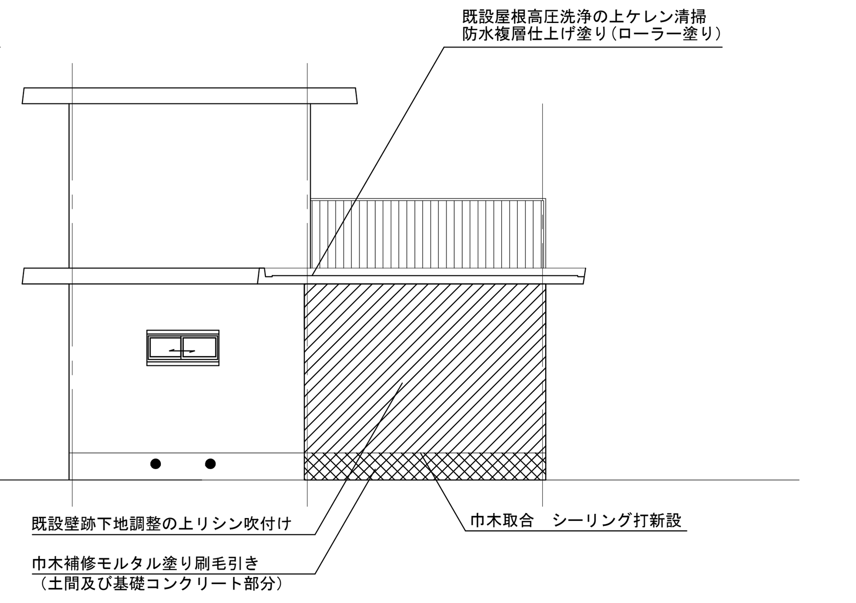
改修後立面図　S=1/100



改修後立面図　S=1/100



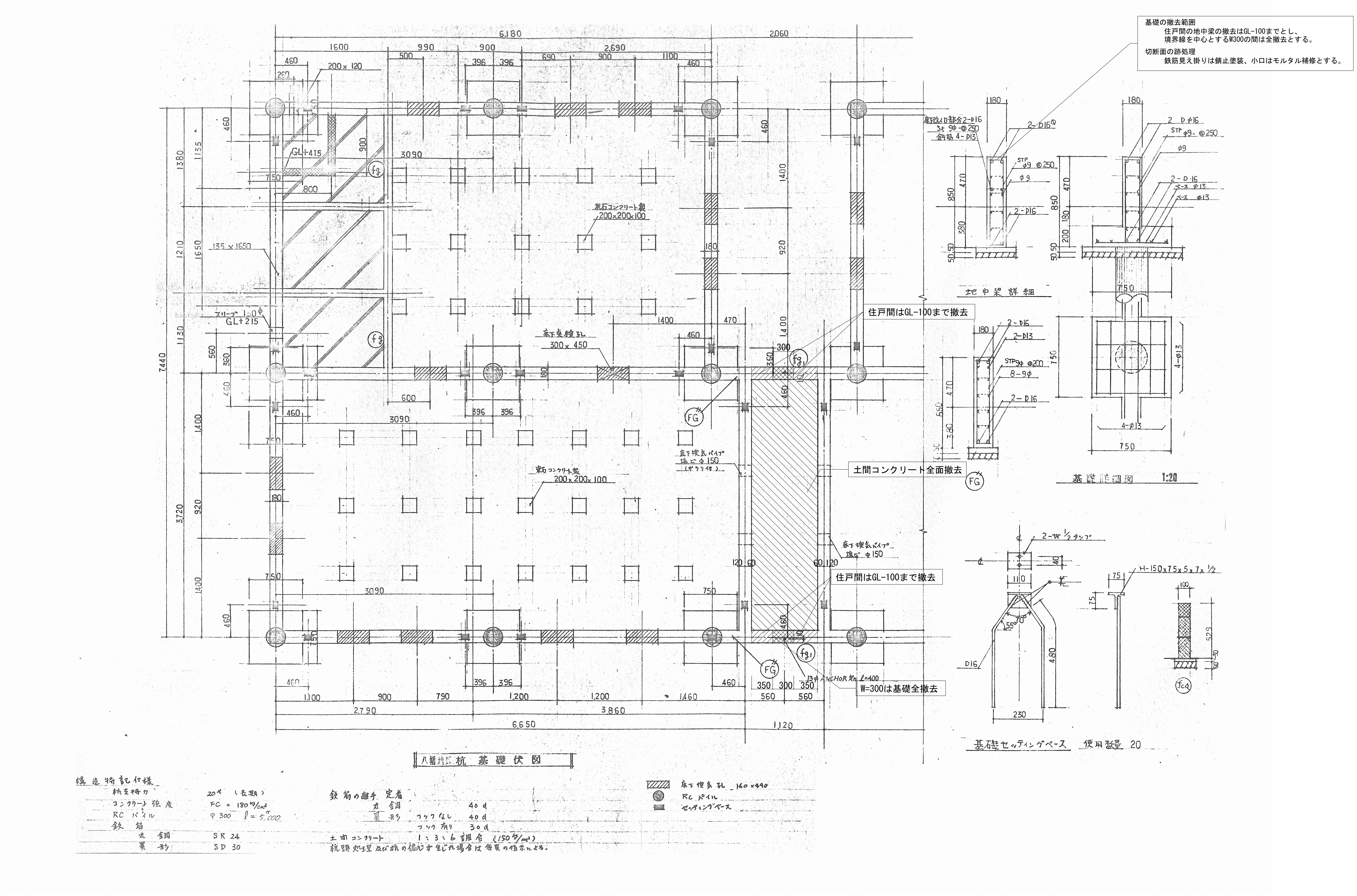
改修後立面図　S=1/100



改修後立面図　S=1/100

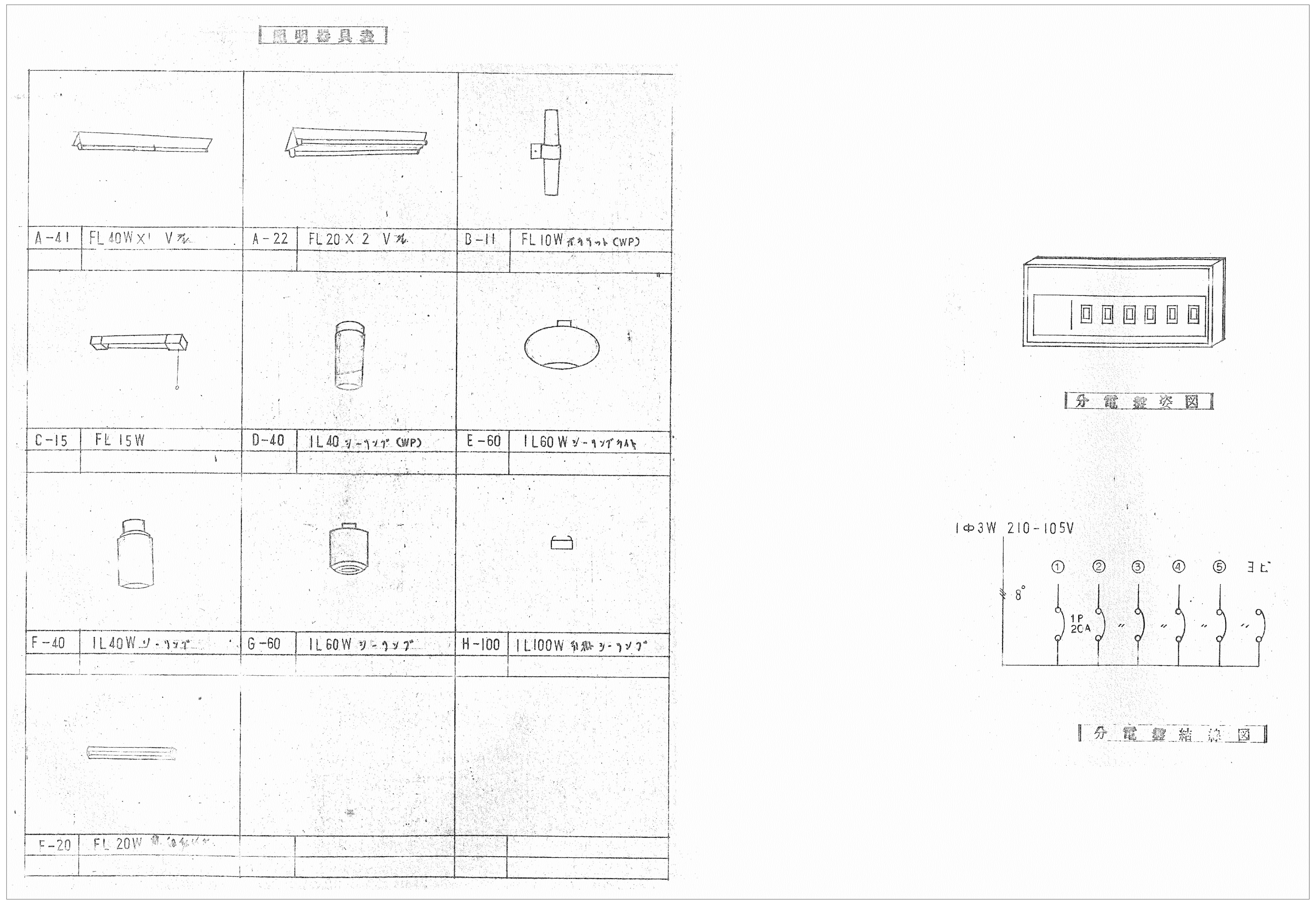
（八幡団地　19号地・20号地）

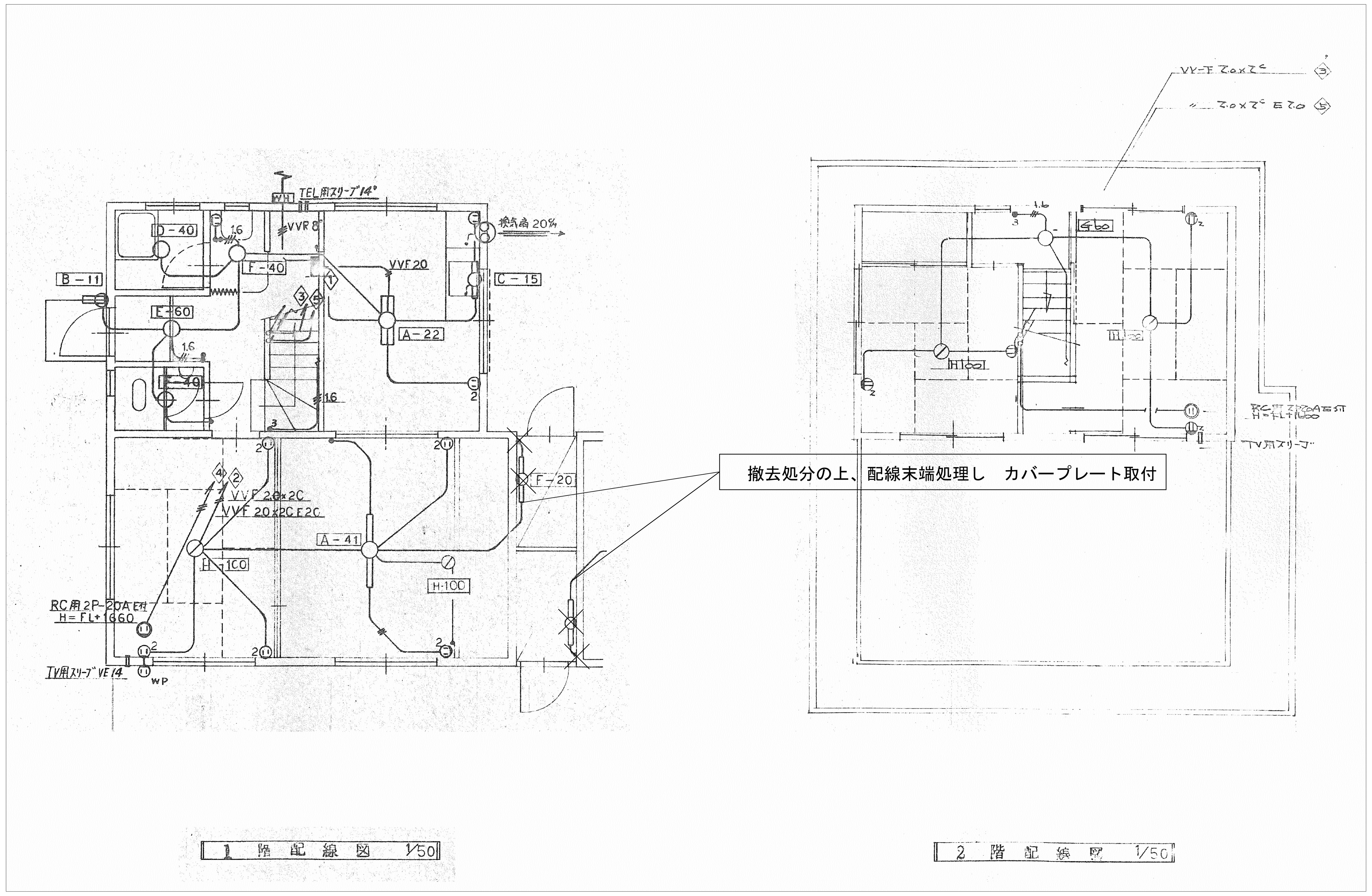
株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 C－3
				縮尺 A3:1／200 A1:1／100	図面名 （参考図）現況・改修立面図	



（八幡団地　19号地・20号地）

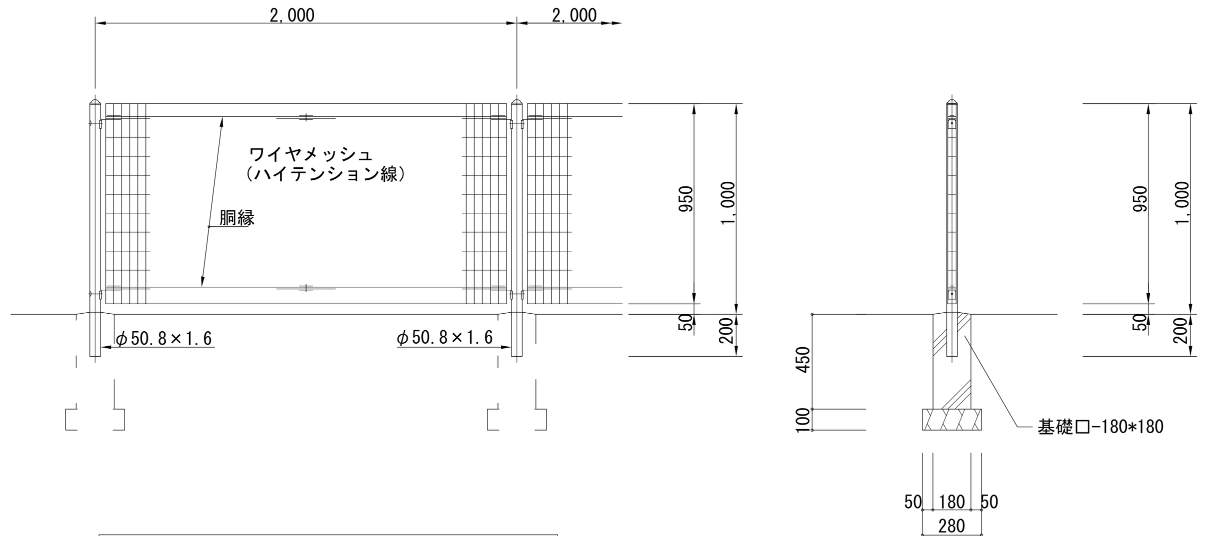
株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　　日 縮尺　A3:1／60　A1:1／30	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図 図面名　（参考図）基礎伏図・基礎詳細図	図面番号　C－4





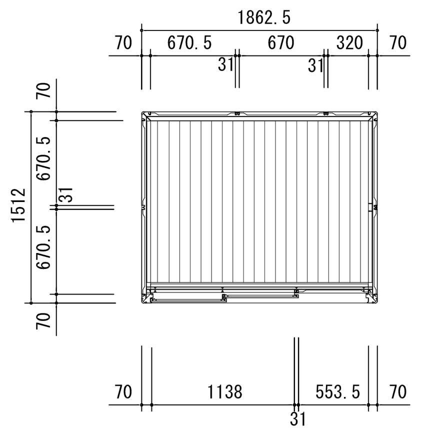
(八幡団地　19号地・20号地)

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第80805号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日　平成26年　9月　日	工事名称　改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号　C－5
				縮尺　A3:1／100　A1:1／50	図面名　（参考図）照明器具姿図・電気設備図	

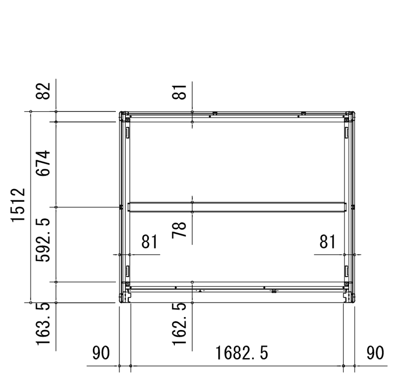


メッシュフェンス詳細　S=1/30

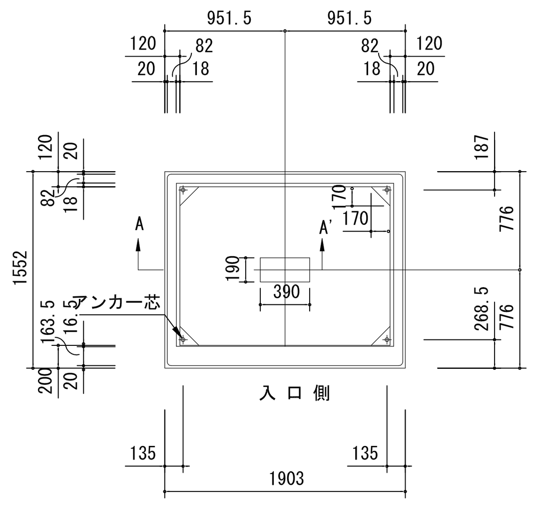
参考品番　A1000-WS 朝日スチール工業



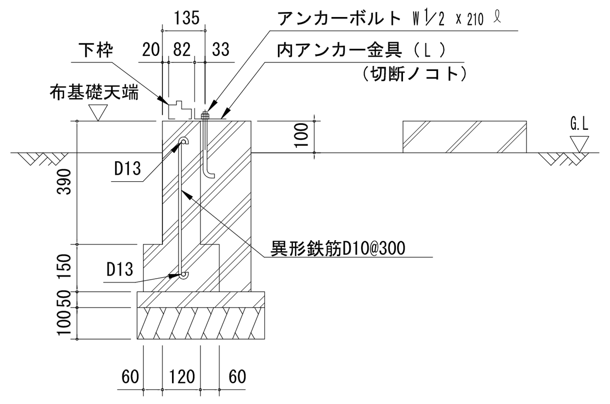
平面図　S=1/50



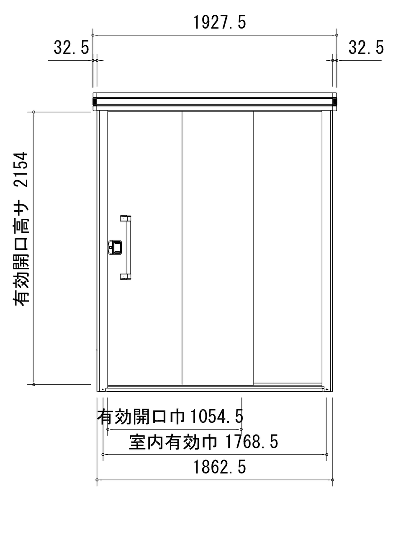
床伏図　S=1/50



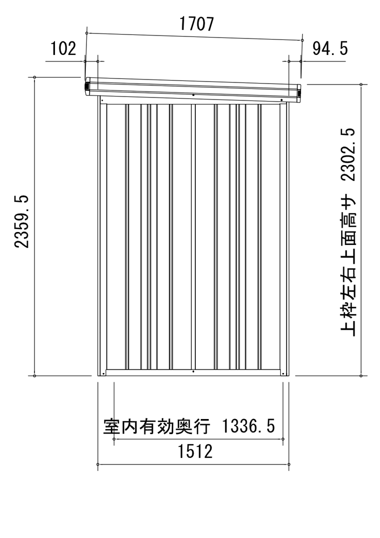
布基礎伏図　S=1/50



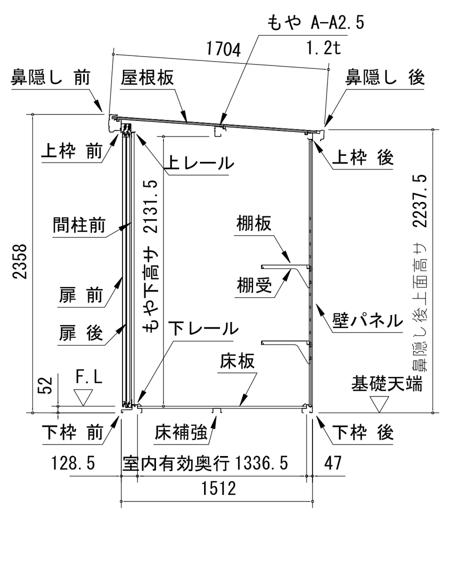
布基礎断面図　S=1/20



正面立面図　S=1/50



側面立面図　S=1/50



矩計図　S=1/50

部　材　名	厚さ(m/m)	材　　質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床補強	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
<一般型>　もや　A-A2.5	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下枠前（側・後）	1.2 （1.0 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠前（後）	1.0 （0.8 ）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠 左,右	0.6	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板　（ツートンカラー）
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	0.5	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板　（ツートンカラー）
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
扉	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁パネル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
袖壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
アンカープレート（L）	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板（後塗装仕上げ）

部　材　名	サイズ（巾×高サ）
扉前　H-C	599　×　2178
扉後　H-C	599　×　2178
壁パネル　H-A	670　×　2110
壁パネル　H-F	319.5　×　2110
袖壁　H-C	553　×　2149

参考品番　ヨド物置　　本体 棚２段付 LMD-1815H（一般型）
結露低減材付屋根

（八幡団地　19号地・20号地）

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 平成26年　9月　　日	工事名称 改良住宅(2戸1) 分離工事（その4）設計図	図面番号 Ｃ－6
				縮尺 A3:1/40,1/100 A1:1/20,1/50	図面名 （参考図）新設メッシュフェンス・新設物置（小）詳細図	